視・聴覚障がいを補償する認知症介護基礎研修eラーニングシステムの開発に関する研究

報告書

令和５年３月

社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター

目　次

Ⅰ．背景

1．認知症介護基礎研修事業における経緯と現状 …… 1
　1）認知症介護研修事業の経緯 …… 1
　2）認知症介護基礎研修事業の創設と経緯 …… 1
　3）認知症介護基礎研修全課程ｅラーニング化及び受講義務化 …… 2
　4）認知症介護基礎研修ｅラーニング実施状況と課題 …… 2
2．ウェブアクセシビリティの推進に関する経緯 …… 3

Ⅱ．主な事業内容

1．目的 …… 5
2．事業内容と実施経過 …… 5
3．視・聴覚障がいを補償するｅラーニングシステムの開発 …… 5
4．報告書の作製 …… 5
5．研究成果の普及 …… 6

Ⅲ．開発方針の検討

1．先行事例調査 …… 7
2．専門技術者への調査 …… 7

Ⅳ．視・聴覚障がいを補償する認知症介護基礎研修ｅラーニングシステムの開発

1．JIS X 8431-3 に準拠したｅラーニングシステムの検証 …… 8
　1）方法 …… 8
　2）検証結果 …… 18
2．検証結果に対する問題点の修正 …… 87
　1）操作機能に関する問題点の修正 …… 87
　2）動画コンテンツに関する問題点の修正 …… 87

Ⅴ．視・聴覚障がいを補償する認知症介護基礎研修ｅラーニングシステムに関する課題と方向性

1．適合レベル AAA 達成基準項目の検証 ……146
2．修正作業の継続とシステム改定 ……146
3．当事者によるモニター検証の必要性 ……146
4．公開時期 ……146

Ⅵ. 参考資料

1．W3C：Web Content Accessibility Guidelines（WCAG）2.0 ……147
2．JIS X 8341-3:2016 達成基準 早見表（レベル A&AA）……181
3．令和４年度認知症介護研究・研修仙台センター　運営費研究事業 ……185

Ⅰ 背景

1．認知症介護基礎研修事業における経緯と現状

1）認知症介護研修事業の経緯

我が国における認知症介護に関する公的な研修事業は 1986 年に開始された痴呆性老人処遇技術研修が 2000 年まで実施され、その後、厚生労働省より明示されたゴールドプラン 21（今後 5 か年間の高齢者保健福祉施策の方向）における認知症対策の推進の一環として「痴呆介護研修事業」が新たに創設された。痴呆介護研修事業は認知症介護指導者、専門課程、基礎課程の 3 段階の研修構造を特徴とし、全国 67 か所の都道府県政令市を基盤とした地域密着型の人材育成システムを特徴としている。2006 年に研修改定が行われ、カリキュラムの改正とともに、実践リーダー研修、実践者研修に名称が変更され、認知症介護指導者養成研修と合わせて 3 階層の構造は現在まで継続している。しかし、改正から 10 年が経過した 2016 年時点において認知症のさらなる増加や、介護事業所の増加、介護人材不足、地域包括ケアの普及など、認知症を取り巻く状況は変化し、認知症介護に関する研修体制もいくつかの課題が指摘され、新たなシステムが必要となっていた。

2）認知症介護基礎研修事業の創設と経緯

従来より初任者や無資格者を対象とした認知症介護に関する公的な研修は存在しておらず、介護従事者等が認知症介護に関する最低限の知識や技術、考え方等を習得できる機会の確保が急務であった。これらの背景を踏まえ、認知症介護研究・研修仙台センター（以下「仙台センター」）では、平成 26 年度（2014 年度）老人保健健康増進等事業「認知症介護実践研修、指導者養成研修のあり方およびその育成に関する調査研究事業」において、初任者を対象とした認知症介護基礎研修の創設について検討し、平成 28 年度（2016 年度）より認知症介護基礎研修事業が 1 年間を経過的期間として全国事業として施行された（「認知症介護実践者等養成事業の実施について」の一部改正について、老健局通知、平成 28 年 3 月 31 日）。

認知症介護基礎研修は、「認知症介護に携わる者が、その業務を遂行する上で基礎的な知識・技術とそれを実践する際の考え方を身につけ、チームアプローチに参画する一員として基礎的なサービス提供を行うことができるようにすること」をねらいとしており、「介護保険施設・事業者等が当該事業を行う事業所に従事する介護職員等」を対象としている（厚生労働省：認知症介護実践者等養成事業実施要綱および認知症介護実践者等養成事業の円滑な運営について）。教育内容は、認知症の人を取り巻く現状や症状に関する基礎的な知識を学び、基礎的な技術に関する考え方について計 6 時間の学習時間で構成されている。また、全国的な認知症介護の質のボトムアップを目的としているため、前半 3 時間分を e ラーニングで受講可能な形態を設け、ブレンド型と集合型を選択可能な研修形態としている。しかし、平成 28 年度から平成 30 年度までの e ラーニング受講者は、認知症介護基礎研修修了者 39,000 人中 1 割に満たず、全国 67 か所の自治体における e ラーニン

グ実施率は 1 割程度であった。仙台センターが実施した介護事業所を対象とした全国調査の結果によると、e ラーニングに対する不信感、学習効果が期待できない、難しそう、通信環境や受講環境が無い等の理由が、e ラーニング受講の大きな阻害要因になっていることが明らかとなっている。

3）認知症介護基礎研修全課程 e ラーニング化及び受講義務化

今後、慢性的な介護人材不足の中、業務の場を離れる研修への参加はますます困難となることが予測され、e ラーニング教材等を活用した主体的に、簡便に学ぶしくみづくりによって全従事者の学習機会を拡大することが必要である。一日も早く質の高い認知症ケアを習得可能な教育手法を開発し普及することが喫緊の課題であった。

令和元年 6 月に政府によって示された「認知症施策推進大綱」（以下、「大綱」）では 2025 年度末までに 245 万人の介護人材確保を目標とし、認知症介護基礎研修の受講者目標値を「介護に関わる全ての者」と定め、2021 年度より一部を除く介護事業所全ての無資格者を対象に受講を義務づけた。仙台センターでは、令和 2 年度老人保健健康増進等事業「認知症介護基礎研修の効果的な実施方法に関する調査研究事業」において、M.D. メリルの原理など効果的なインストラクショナルデザインの考え方を踏まえた、学習効果が高い教材構成に基づいた e ラーニング研修システムを構築し、介護に関わる者全ての研修受講を早急に普及する体制を整備した（https://el.marutto.biz/e-learning/）。その結果、認知症介護基礎研修 e ラーニングは全国 46 自治体で利用され受講者は 15,000 名を超えている（令和 4 年 1 月現在）。令和 2 年度介護労働安定センターによる介護労働実態調査によれば、全国の介護事業所に従事する介護職員のうち専門資格を有さない割合は 8%弱と報告されており、厚生労働省による 2025 年までに必要な介護人材数 245 万人をベースとする認知症介護基礎研修の受講者数は、約 19.6 万人と推計される。大綱による目標到達年度である令和 6 年度末までに 5 万人 / 年間の受講が必要であり一層の受講促進が望まれる。

4）認知症介護基礎研修 e ラーニング実施状況と課題

令和 4 年 4 月現在、認知症介護基礎研修 e ラーニングは全国 60 自治体で利用され受講者は 20,000 名を超えている。令和 3 年度老人保健健康増進等事業「外国人介護人材の認知症介護基礎研修の学習支援に関する調査研究事業」においては、急増する外国人介護人材の認知症介護に関する基礎知識の定着と介護技術の向上を早急に達成するため、日本語能力 N4（JLPT）で学習可能なやさしい日本語で構成される e ラーニングコンテンツおよびベトナム語、英語、中国語、インドネシア語、ビルマ語版の補助教材を作製し、外国人介護人材が学習しやすい認知症介護基礎研修 e ラーニングシステムを開発し運用を開始している。

このような状況の中、仙台センターでは e ラーニングシステムの運用開始以来、全国の介護事業所、介護従事者より多くの問い合わせを受けており、令和 4 年 3 月時点の総件数

は約 3,000 件を超えている。それらの問い合わせの中には視覚障がい、聴覚障がい、知的障がいの方が受講しやすいｅラーニングシステムの要望に関する問い合わせが多く含まれている。令和 3 年度厚生労働省職業安定局による障害者雇用状況の集計結果によると、全産業の平均実雇用率 2.2%に対し、医療福祉分野では平均実雇用率 2.85%と他の産業分野に比較して極めて高い雇用率を示している。このことは認知症介護基礎研修ｅラーニングの受講が義務付けられる介護従事者の中に障がいを伴う介護従事者が相当程度含まれると推察される。

しかし、現在のｅラーニングシステムは、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい等の障がいを補償するしくみにはなっておらず、障がいを含めたすべての人が学習できる機会を阻害しているのが現状である。このような状況が継続した場合、障がい者の権利利益を侵害し、豊かな生活を保障するといった障害者基本法の観点からも社会的障壁を助長する危険性が危惧される。また、本研修の主旨からも全介護従事者の認知症介護の知識および質を向上させることが困難になると予測される。障がい如何によらず希望や能力、適性を十分に活かし、能力に応じて活躍することができる全ての人が共に働くことが当たり前の社会を実現するためには誰でもが自ら学習することが可能なしくみを普及することが必要である。

２．ウェブアクセシビリティの推進に関する経緯

近年、情報技術の発展によって、情報が社会全体で重要な役割を果たし、情報の収集、伝達、処理、利用がますます重要になってきており私たちの生活に大きく影響してきている。このような情報社会の進展は情報通信技術を活用することで、情報の収集や交換がより容易になり、ビジネスや教育、医療、政治などの分野で効率的かつ迅速な情報伝達が可能となっている反面、情報格差やプライバシー問題などの新たな課題も増えてきている。

特に情報格差の問題は、情報の収集や利用に必要な情報技術を使いこなせない人々が情報から取り残され、社会的孤立が進んだり、教育や雇用機会の制限などの影響を受けるなど教育、就職、医療、政治、文化など様々な分野で不利益を被る機会が増大し、社会的参加や人権を制限することにつながる問題となっている。より平等な社会を作るためには、アクセシビリティの向上、情報の公開や共有を推進することによって情報格差を是正し、情報にアクセスする権利を平等に保障することが社会的な課題となっている。

2014 年に批准された障害者権利条約では、障がい者が情報通信（情報通信機器及び情報通信システムを含む。）を利用する機会を有することを確保するための適当な措置をとることとされている。また我が国においても障害者基本法や、障害者差別解消法によって「国及び地方公共団体は、（中略）行政の情報化及び公共分野における情報通信技術の活用の推進に当たっては、障害者の利用の便宜が図られるよう特に配慮しなければならない（障害者基本法第 22 条）」「行政機関等及び事業者は、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、自ら設置する施設の構造の改善及び設備の整備、関係職員に対する研修その他の必要な環境の整備に努めなければならない（障害者差別解消法第５条）」

とされており、全ての人が等しくあらゆる公共情報についてアクセスできる環境の整備が求められている。

総務省では、Web コンテンツのアクセシビリティ確保に関する日本工業規格 JIS X 8431-3「高齢者・障害者等配慮設計指針－情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス－第 3 部：ウェブコンテンツ」（以下、「JIS X 8341-3」）の改正に伴い公的機関のウェブアクセシビリティの維持向上に向けた取り組みの支援を目的とした手順書「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016 年版）」を作製し、公的機関（国、地方公共団体、独立行政法人及び地方独立行政法人）のウェブアクセシビリティ（高齢者や障害者を含め、誰もがホームページ等で提供される情報や機能を支障なく利用できること）の確保・向上に取り組んでいる。

また、2021 年 5 月に一部改正された障害者差別解消法では、色覚異常の人や、視覚障がいを持つ人が利用しやすいよう、文字の大きさや色彩の選定、キーボードでの操作性を考慮する必要性や、ウェブコンテンツアクセシビリティ指針（WCAG2.1）における適合基準 AA レベルへの適合などウェブアクセシビリティの強化が追加され、公的機関に義務付けられていた「合理的配慮の提供」が民間事業者全てにも義務付けられ法的義務となっている。

Ⅱ 主な事業内容

1．目的

本事業では、認知症介護に関する視覚・聴覚障がいがある方の円滑な自己学習を促進するため、視覚・聴覚障がいを補償する認知症介護基礎研修 e ラーニングシステムの開発を目的としている。

2．事業内容と実施経過

1）先行研究調査（2022 年 7 月～ 8 月）

視覚・聴覚障がい等を補償する学習システムおよび ICT ツール開発に関する先行研究文献や事例の収集を行い、本事業における補償の仕様検討に関する参考資料とした。

2）ウェブアクセシビリティに関する検証内容の検討（2022 年 9 月～ 10 月）

総務省によるウェブアクセシビリティ方針および、先行事例における実施団体へのヒアリングを実施し、本事業における開発方針と補償内容に関するアクセシビリティ基準の設定を事務局にて実施した。

3．視・聴覚障がいを補償する e ラーニングシステムの開発

1）ウェブアクセシビリティの検証に関する業者の選定と確定（2022 年 10 月）

JIS X 8341-3 における基準に準拠した検証作業を実施する業者 3 社について企業実績、価格、作業内容を比較検討し、協議の結果 1 社を選定した。

2）ウェブアクセシビリティに関するシステム検証（2022 年 10 月～ 11 月）

本 e ラーニングシステムの操作に関する画面 111 ページ中、抽出された 40 ページと学習用の動画ファイル 37 ケを対象として、JIS X 8341-3 における到達基準 61 項目中、適合レベル AA に関する 38 項目の到達基準を中心に HTML チェッカーによる機械検証および技術者 3 名の目視による検証を実施し、課題を抽出した。

3）ウェブアクセシビリティに関する課題の修正に関する検討（2022年11月～2023年2月）

(1) 課題に対する修正内容の検討

検証結果より抽出された操作機能に関する修正内容および学習用動画ファイル上の修正内容について、e ラーニングシステム管理業者と事務局にて検討を実施した。

(2) 修正内容に関する再確認

検証結果より抽出された課題に対する修正内容について、JIS X 8341-3 の基準に従い事務局にて再確認を行い、修正内容案の訂正と追加修正案を作製した。

4．報告書の作製（2023 年 3 月）

５．研究成果の普及（2023 年 3 月）

本事業の成果に関する事業概要について、当センター運用のサイト認知症介護情報ネットワーク DCnet（https://www.dcnet.gr.jp/）にて掲載した。

Ⅲ 開発方針の検討

１．先行事例調査

ｅラーニングシステムのユニバーサル仕様に関する先行事例の中から、インサイダー取引防止教育に関するｅラーニングコンテンツを取り上げ、開発者であるリコー・ヒューマン・クリエイツ社に開発経緯に関するヒアリングの依頼を行った。リコー・ヒューマン・クリエイツ社では 2007 年に「インサイダー取引防止教育」に関する聴覚・視覚障がいであっても円滑に受講可能なｅラーニングシステムを開発している（デジタルラーニング・コンソ - シアム：アクセシビリティ向上で快適な学習環境を、リコーグループのｅラーニング実践、https://www.elc.or.jp/survey_answer_elp/id=485、2023.3.31 参照）。本事業では 2022 年 7 月 29 日（金）14：00 ～ 15：30 に Zoom 方式によって製作担当者 2 名を対象に事務局でヒアリングを実施した。その結果、「色覚障がいの方」「肢体（上肢）不自由の方」「視覚障がいの方」「聴覚障がいの方」など多くの方が誰でも利用できるアクセシブルな学習教材の作製を目的とし、視覚障がい向けの読み上げソフトへの対応、キーボードのみでの操作環境の構築、音声無しの操作誘導機能の追加、色覚への青色文字の使用、聴覚向けのテロップ表示機能、画面拡大機能、光てんかんへの対応、背景色の工夫などを補償するユニバーサルなｅラーニングシステムの開発経緯が明らかとなった。

２．専門技術者への調査

ウェブアクセシビリティの検証に関する専門業者に依頼し、2022 年 8 月 10 日（水）11：00 ～ 12：30、16：00 ～ 17：00 に Zoom 方式にてウェブアクセシビリティ開発技術者 2 名へのヒアリングを実施した。その結果、地方公共団体等の公的機関におけるホームページなどの WEB サイトについては JIS X 8341-3 に準拠した総務省公示の「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016 年版）」に従って高齢者や障がいのある人も含め、すべての人がホームページ等で提供される情報や機能を支障なく利用できることが国のウェブアクセシビリティ方針として定められていることが明らかとなった。

以上の結果から、本事業におけるウェブアクセシビリティの開発仕様としては視覚・聴覚障がいのみならず高齢者、肢体不自由など全ての方が使用可能な JIS X 8341-3：2016 の基準に適合したｅラーニングシステム環境の開発を行う方針とした。

Ⅳ 視・聴覚障がいを補償する認知症介護基礎研修 e ラーニングシステムの開発

1．JIS X 8431-3 に準拠した e ラーニングシステムの検証

1）方法

(1) アクセシビリティに関する検証内容と到達基準

ⅰ）達成基準の内容

本事業における e ラーニングシステムのアクセシビリティに関する検証内容は、JIS X 8341-3 におけるアクセシビリティ達成基準の項目に準拠し検証を行った。JIS X 8341-3 における達成基準は、年齢、障がいの有無、国籍等に関わりなく全ての人が、端末、ウェブブラウザ、支援技術に関係なくウェブコンテンツを利用することができるように定められている。

達成項目は大きく 4 つの原則に分類されており、原則 1 は「知覚可能か」であり、情報およびユーザーインターフェースは、それぞれの利用者が知覚可能な方法で提示されていること、原則 2 は「操作可能か」であり、それぞれの利用者がそれぞれ操作可能な方法が用意されていること、原則 3 は「理解可能か」であり、全ての利用者が操作方法と提示される情報を理解できるようにすること、原則 4 は「堅牢か」であり、当該のシステム等が全ての開発者や利用者にとって解釈可能なように技術に互換性を持たせたり、安定したシステムとして開発されていることを定めている。

これらの 4 つの原則には中項目、さらに中項目ごとに小項目としてアクセシビリティを保証するための達成内容が定められている（参考資料参照）。4 原則について、中項目は全部で 12 項目あり、小項目は 61 項目が設定されている。

4 原則の中項目については、以下が設定されている。これら 4 分類、61 項目の達成基準に従い達成内容と照合し、基準に適合しているかどうかについて検証を実施した。

（ⅰ）原則 1：知覚可能か

①すべての非テキストコンテンツは、拡大印刷、点字、音声、シンボル、平易な言葉などの形式に変換することを目的に、代替テキストを用意すること

②時間に依存しているメディアには、代替のコンテンツを提供すること

③情報、及び構造を維持したまま、他の方法（シンプルなレイアウトなど）を準備しておくこと

④コンテンツを、利用者にとって見やすく、聞きやすいものにすること。これには、前景と背景を区別することも含む。

（ⅱ）原則 2：操作可能か

①すべての機能がキーボードで利用できるようにすること

②利用者が使用するために十分な時間を設けること

③発作などを引き起こすようなコンテンツを設計しないこと

④利用者がコンテンツを探し出したり、現在位置を確認したりすることなど、操作

を手助けする手段を提供すること

（iii）原則 3：理解可能か

①テキストのコンテンツを読みやすく理解可能にすること

②ウェブページの表示や動きが予測できるような構成にすること

③利用者の間違いを防ぎ、修正が可能なようにすること

（iv）原則 4：堅牢か

①現在及び将来にわたり、利用者がアクセスする際に HTTP を解釈するプログラム、ソフトウェア（アクセスした人が使用している Web ブラウザや OS、検索エンジンなど）の互換性を最大化すること

ii）達成レベル

JIS X 8341-3 においては 61 項目の達成基準に基づき達成内容との適合レベルが設定されており、総務省ウェブアクセシビリティ方針（2014 年）では中水準の AA 基準への適合に加えた「キーボード（例外無し）の達成基準（適合レベル AAA）」、「3 回のせん（閃）光の達成基準（適合レベル AAA）」が目標として定められており、特に官公庁など公的機関の Web サイトにおいては義務化されている。

JIS X 8341-3 における適合レベルは以下のようにアクセシビリティ水準に応じて 3 段階に設定されている。

（i）レベル A（適合の最小レベル）：達成基準項目内の該当達成内容についてレベル A 達成基準をすべて満たしているか、適合する代替バージョンがある。該当達成項目数は 25 項目である。

（ii）レベル AA（標準レベル）：達成基準項目内の該当達成内容についてレベル A およびレベル AA 達成基準を満たすか、またはレベル AA 適合の代替バージョンがある。該当達成項目は 13 項目である。

（iii）レベル AAA（推奨最大レベル）：達成基準項目内の該当達成内容についてレベル A、レベル AA、およびレベル AAA 達成基準のすべてを満たすか、レベル AAA 適合の代替バージョンがある。該当達成項目は 23 項目である。

以上の適合レベルおよび基準に従い、本事業においては、総務省推奨レベルである JIS X 8341-3 におけるウェブアクセシビリティ達成基準の適合レベル AA の達成内容を全て満たすことを目的とし、併せて本システムの学習において必要と考えられる項目については適合レベル AAA の基準適合に関する検証も行うこととした。

(2) 検証対象部分の選定

認知症介護基礎研修 e ラーニングシステムはウェブ上で稼働する HTML で構成された学習システムである。学習内容は序章から第 4 章まで 5 つの大項目から構成されており、視聴用動画、選択式テスト問題と解説、自由記述式問題などのコンテンツを組み合わせており、約 150 分程度の標準学習時間が設定されている。

アクセシビリティ検証の対象ページは画面操作など操作に関する画面ページと視聴用の学習動画ファイルに分類される。学習画面以外の操作に関するページ数は 27 ページ

表 4-1-1　操作に関するページ

No	画面タイトル	画面 URL
1	TOP	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/
2	TOP　＞　ID とパスワードを忘れた時	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/remindermails
3	TOP ページ　＞　講義ビデオ再生	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovieSample
4	TOP　＞　多言語選択	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select
5	受講申請　-　メールアドレスの仮登録	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userRegister
6	受講申請　-　仮登録完了	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userResisterMailSent
7	TOP ページ　＞　事業所登録	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/entry
8	TOP ページ　＞　事業所登録の確認	
9	TOP ページ　＞　事業所登録の登録完了	
10	TOP　＞　特定商取引法に基づく表記	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/special_commercial_transaction
11	TOP　＞　FAQ	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq
12	TOP　＞　利用規約	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/kiyaku
13	TOP　＞　inquire	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/registers/inquireGeneral
14		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/corporation_home
15	TOP　＞　ログイン	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/users/login
16	TOP　＞『認知症介護基礎研修ｅラーニング　事業所等による受講料一括支払について』	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/bulletPayment
17	TOP　＞　お問い合わせフォーム　＞　お問い合わせ完了	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/registers/inquireGeneralComplete
18	Mypage　＞　研修項目選択	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/users/mypage
19	Mypage　＞　勉強 できること	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningSelect
20	Mypage　＞　修了証書発行	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/certificate
21	Mypage　＞　領収書発行	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt
22	Mypage　＞　お支払い情報の確認	
23	MOVIE　表示画面	
24	CHECK　表示画面	
25	TEST　表示画面	
26	REPORT　表示画面	
27	OTHER　表示画面	

表 4-1-2　学習に関する操作ページ

画面数	学習画面内容	動画時間	画面ＵＲＬ	動画数
1	研修の目的	0:01:49	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/14/90	1
2	第１章．事前確認問題			
3	第２章．事前確認問題			
4	第３章．事前確認問題			
5	第４章．事前確認問題			
6	序章．認知症を取り巻く現状			
7	認知症施策推進大綱	0:12:01	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/15/98	2
8	第１章．認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方			
9	はじめに	0:00:31	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/6/228	3
10	認知症のイメージについて			
11	１．パーソン・センタード・ケア	0:09:55	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/13	4
12	２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	0:05:20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14	5
13	認知症のイメージについて			
14	３．介護者の視点	0:07:29	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/86/230	6
15	４．認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援とは	0:02:46	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/86/231	7
16	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232	
17	第１章．確認テスト			
18	第２章．認知症の定義と原因疾患			
19	１．認知症はなにか①	0:00:20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/90/286	8
20	事前チェック		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/91/287	
21	１．認知症とはなにか②	0:06:04	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/2/2	9
22	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/55/233	
23	２．認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状	0:05:12	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236	10
24	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/57/238	
25	２．血管性認知症の原因と主要な症状	0:03:40	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/58/239	11
26	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240	
27	２．レビー小体型認知症の原因と主要な症状	0:02:52	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/60/241	12
28	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/61/242	
29	２．前頭側頭型認知症の原因と主要な症状	0:03:21	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/62/243	13
30	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244	
31	第２章．確認テスト			
32	第３章　認知症の中核症状と行動・心理症状の理解			
33	１．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解①	0:00:32	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/4/6	14

画面数	学習画面内容	動画時間	画面ＵＲＬ	動画数
34	事前チェック		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/92/289	
35	1．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解②	0:06:04	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288	15
36	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/64/248	
37	2．中核症状の生活への影響	0:05:38	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/81/245	16
38	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249	
39	3．中核症状が心理面に与える影響	0:08:43	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/82/247	17
40	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/66/251	
41	4．行動・心理症状のとらえ方と出現原因	0:03:15	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/25/123	18
42	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253	
43	5．認知症の人にとっての環境①	0:00:46	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/27/126	19
44	事前チェック		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/94/290	
45	5．認知症の人にとっての環境②	0:02:41	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/95/294	20
46	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/85/279	
47	6．健康管理①	0:00:23	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/29/129	21
48	事前チェック		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/96/291	
49	6．健康管理②	0:03:32	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/97/295	22
50	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/65/280	
51	第３章．確認テスト			
52	第４章　認知症ケアの基礎技術			
53	1．認知症の治療①	0:00:48	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/8/254	23
54	事前チェック		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/98/292	
55	1．認知症の治療②	0:02:48	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/99/297	24
56	ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255	
57	2．認知症の人の適切な関わり方（事例演習）	0:01:42	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/69/256	25
58	きづいたこと		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/35/138	
59	きづいたこと（他者の意見を受けて）		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/107/329	
60	解説動画をみてみましょう	0:03:09	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/107/329	26
61	望ましい関わり方		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/102/139	
62	望ましい関わり方（他者の意見を受けて）		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/112/416	
63	解説動画をみてみましょう	0:01:47	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/112/416	27

画面数		学習画面内容	動画時間	画面ＵＲＬ	動画数
64		２．認知症の人の適切な関わり方②	0:11:41	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/103/304	28
65		ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258	
66		３．認知症の症状への対応（事例演習）	0:02:20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/44/174	29
67		きづいたこと		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/71/259	
68		きづいたこと（他者の意見を受けて）		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/106/303	
69		解説動画をみてみましょう	0:04:07	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/106/303	30
70		望ましい対応		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/105/260	
71		望ましい関わり方（他者の意見を受けて）		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/113/417	
72		解説動画をみてみましょう	0:05:58	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/113/417	31
73		３．認知症の症状への対応②	0:06:17	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/48/305	32
74		ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/72/264	
75		４．意思を尊重する支援方法とは①	0:00:55	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/73/265	33
76		事前チェック		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/100/293	
77		４．意思を尊重する支援方法とは②	0:04:20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/101/296	34
78		５．チームケアの基本	0:02:25	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/74/266	35
79		ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/75/267	
80		６．家族介護者の理解と支援方法①	0:05:33	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/76/268	36
81		ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/77/270	
82		６．家族介護者の理解と支援方法②	0:05:33	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/78/272	37
83		ここまでの復習		https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274	
84		第４章．確認テスト			

(表 4-1-1 参照)、学習時の操作に関するページ数は 84 ページ（表 4-1-2 参照）で総数 111 ページである。また視聴用の学習動画ファイル数は 37 ファイル（表 4-1-3 参照）であり、各動画ファイルの視聴にかかる所要時間は表のとおりである。

操作画面 111 ページの画面構成は、全てのページが異なる構成ではなく、特に学習時の操作画面 84 ページは画面構成が類似している割合が高いため、本事業における検証対象ページとして全ページを対象とせず、類似している画面構成群から代表的な画面構成を無作為に抽出して検証対象とした。また、視聴用動画ファイルについては全ファイル内の動画内画面構成は文字表記、色仕様、グラフィック、テキスト配置構成が異なるため 37 ファイル全てを検証とした。抽出された検証対象ページおよびファイルは以下の通りである。

ⅰ）操作画面

本システムの操作画面は学習以外の操作に関する画面と学習時の操作に関する画面に分類され、総数 111 ページである。本事業における検証対象ページについては、学習以外の操作に関する 27 画面から 10 画面、学習時の操作に関する 84 画面から 30 画面を抽出し、計 40 画面を検証対象とした。抽出基準については、学習以外の操作に関する画面は無作為抽出、学習時の操作に関する画面は、確認テスト、練習問題に関する問題提示画面、解答画面、解説画面を中心に抽出した。また、全ての画面において画面構成が類似しているページ群からは代表画面を抽出した。なお、画面構成が類似している画面からは代表画面を抽出しているが、検証による課題や課題に応じた修正内容は他の類似した画面構成の画面でも全て反映することとした(表4-1-3参照)。

ⅱ）学習動画ファイル

学習用の視聴動画 37 ファイルについては、全ての動画ファイルを検証対象とした。なお、学習用の動画ファイルについては、検証ページ数として換算し検証画面数を明示すべきであるが、学習用の動画ファイル内における画面構造上、テキストアニメーションなどの仕様が多用されており、1 画面として区切ることが困難なことから動画ファイルとして扱うこととした。よって画面数ではなく、動画ファイルの視聴にかかる所要時間として明示する。検証対象である動画ファイル 37 件の視聴にかかる所要時間は「目的;1 ファイル;00:01:49」「序章;1 ファイル;00:12:01」「第 1 章;5 ファイル ; 0:26:01」「第 2 章 ; 6 ファイル ; 0:21:29」「第 3 章 ; 9 ファイル ; 0:31:34」「第 4 章;15 ファイル;0:59:23」であり 37 ファイルの動画総時間数は 2:32:17 であった(表 4-1-4 参照)。

(3) 検証方法

本事業における検証方法は、JIS X 8341-3 における達成基準 61 項目について適合レベル AA 基準の達成内容を標準とし、必要に応じ適合レベル AAA 基準の達成内容について、HTML チェッカーおよびエンジニアによる目視によって検証を実施した。

ⅰ）HTML チェッカーによる検証

本事業におけるアクセシビリティ検証の第 1 段階として HTML チェッカーを使用

表 4-1-3　検証対象となる操作関連ページ

No.	URL	備考	備考 2
-7	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	TOP	学習以外
-6	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/remindermails	ID とパスワードを忘れた時	学習以外
-5	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select	多言語選択	学習以外
-4	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userRegister	メールアドレスの仮登録	学習以外
-3	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/special_commercial_transaction	特定商取引法に基づく表記	学習以外
-2	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	FAQ	学習以外
-1	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/kiyaku	利用規約	学習以外
0	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/users/login	ログイン	学習以外
1	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/certificate	修了証書発行	学習以外
2	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt	領収書発行	学習以外
3	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest2/109	第 2 章．事前確認問題	学習画面
4	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14	2．認知症の人への偏見・誤解とその解消	学習画面
5	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232	ここまでの復習	学習画面
6	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/54/232	ここまでの復習　回答ページ（正解、不正解は共通）	学習画面
7	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/7	第 1 章．確認テスト	学習画面
8	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/91/287	事前チェック	学習画面
9	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/91/287	学習を進めましょう	学習画面
10	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236	2．認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状	学習画面
11	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240	ここまでの復習	学習画面
12	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/59/240	ここまでの復習　回答ページ（正解、不正解は共通）	学習画面
13	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244	ここまでの復習	学習画面
14	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/63/244	ここまでの復習　回答ページ（正解、不正解は共通）	学習画面
15	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/3	第 2 章．確認テスト	学習画面
16	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288	1．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解②	学習画面
17	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249	ここまでの復習	学習画面
18	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/84/249	ここまでの復習　回答ページ（正解、不正解は共通）	学習画面
19	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253	ここまでの復習	学習画面
20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/67/253	ここまでの復習　回答ページ（正解、不正解は共通）	学習画面
21	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/96/291	事前チェック	学習画面
22	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/96/291	学習を進めましょう	学習画面
23	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/5	第 3 章．確認テスト	学習画面
24	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255	ここまでの復習	学習画面
25	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/68/255	ここまでの復習　回答ページ（正解、不正解は共通）	学習画面
26	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258	ここまでの復習	学習画面
27	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/70/258	ここまでの復習　回答ページ（正解、不正解は共通）	学習画面
28	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259	きづいたこと　自由記載回答	学習画面
29	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/106/303	きづいたこと（他者の意見を受けて）	学習画面
30	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274	ここまでの復習	学習画面
31	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/79/274	ここまでの復習　回答ページ（正解、不正解は共通）	学習画面
32	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/9	第 4 章．確認テスト	学習画面

表 4-1-4　学習に関する動画ファイル

学習画面内容	動画時間	画面ＵＲＬ	動画数
研修の目的	0:01:49	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/14/90	1
序章．認知症を取り巻く現状			
認知症施策推進大綱	0:12:01	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/15/98	2
第１章．認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方			
はじめに	0:00:31	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/6/228	3
１．パーソン・センタード・ケア	0:09:55	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/13	4
２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	0:05:20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14	5
３．介護者の視点	0:07:29	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/86/230	6
４．認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援とは	0:02:46	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/86/231	7
第２章．認知症の定義と原因疾患			
１．認知症はなにか①	0:00:20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/90/286	8
１．認知症とはなにか②	0:06:04	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/2/2	9
２．認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状	0:05:12	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236	10
２．血管性認知症の原因と主要な症状	0:03:40	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/58/239	11
２．レビー小体型認知症の原因と主要な症状	0:02:52	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/60/241	12
２．前頭側頭型認知症の原因と主要な症状	0:03:21	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/62/243	13
第３章　認知症の中核症状と行動・心理症状の理解			
１．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解①	0:00:32	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/4/6	14
１．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解②	0:06:04	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288	15
２．中核症状の生活への影響	0:05:38	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/81/245	16
３．中核症状が心理面に与える影響	0:08:43	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/82/247	17
４．行動・心理症状のとらえ方と出現原因	0:03:15	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/25/123	18
５．認知症の人にとっての環境①	0:00:46	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/27/126	19
５．認知症の人にとっての環境②	0:02:41	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/95/294	20
６．健康管理①	0:00:23	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/29/129	21
６．健康管理②	0:03:32	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/97/295	22
第４章　認知症ケアの基礎技術			
１．認知症の治療①	0:00:48	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/8/254	23
１．認知症の治療②	0:02:48	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/99/297	24
２．認知症の人の適切な関わり方（事例演習）	0:01:42	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/69/256	25
解説動画をみてみましょう	0:03:09	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/107/329	26

	学習画面内容	動画時間	画面ＵＲＬ	動画数
	解説動画をみてみましょう	0:01:47	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/112/416	27
	２．認知症の人の適切な関わり方②	0:11:41	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/103/304	28
	３．認知症の症状への対応（事例演習）	0:02:20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/44/174	29
	解説動画をみてみましょう	0:04:07	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/106/303	30
	解説動画をみてみましょう	0:05:58	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/113/417	31
	３．認知症の症状への対応②	0:06:17	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/48/305	32
	４．意思を尊重する支援方法とは①	0:00:55	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/73/265	33
	４．意思を尊重する支援方法とは②	0:04:20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/101/296	34
	５．チームケアの基本	0:02:25	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/74/266	35
	６．家族介護者の理解と支援方法①	0:05:33	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/76/268	36
	６．家族介護者の理解と支援方法②	0:05:33	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/78/272	37

し JIS X8341-3 における 61 項目の達成内容との適合状況について検証を実施した。HTML チェッカーとは Web のレイアウトの崩れ、表示不具合の原因である HTML 構文ミス（閉じタグの記述漏れ）を検出するアプリケーションであり、例えば音声読み上げソフトを使用した際のユーザビリティをチェックしたり、色覚障がいの方の見え方をシミュレーションして数値で表示することが可能となるツールである。現在、複数のチェッカーソフトがあるが、本検証では「The Nu HTML Checker（https://validator.w3.org/nu/）」を使用し検証を実施した。「The Nu HTML Checker」とは、W3C（「World Wide Web Consortium」の略称で、Web 技術の標準化を行う非営利団体）や WhatWG（「Web Hypertext Application Technology Working Group」の略称で、Web 技術の標準化を行う非営利団体）でも利用されている HTML の検証ソフトであり、W3C のアクセシビリティ基準への適合性等を診断するソフトである。web ページのアドレス、HTML ファイル、HTML ソースコードを読み込み、非推奨、不要な属性の判断、タグ配置の適切性（label 中に div など）などや HTML 構文の文法エラーなどをチェックし結果を表示する仕様となっている。本事業における学習時以外の操作に関する 40 画面及び学習時の視聴用動画ファイル 37 件について、ページ URL を入力し検証を実施した。

ii）エンジニアによる目視検証

HTML チェッカーよる機械検証は、主に HTML 構文の文法や、フォームレイアウト、コントラスト比等をアクセシビリティ基準に従い自動的にチェックする効率的な検証方法であるが、61 項目の基準全てに準拠したアクセシビリティ仕様のチェックは困難とされており、JIS X 8341-3 や HTML 等に精通したアクセシビリティエンジニアによる目視の検証が必要である。本検証では、JIS X 8341-3 の原案作成に関わっているウェブアクセシビリティ基盤委員会（WAIC）の委員であり JIS X 8341-3 や HTML 等に精通した検証・試験経験 5 年以上の技術者 3 名によって目視検証を実施した。

(4) 検証期間

検証実施期間は、2022 年 11 月 11 日～ 2022 年 11 月 30 日に実施した。

2）検証結果

(1) 操作機能に関する検証結果

i）HTML チェッカーによる検証結果（表 4-1-5）

システムの操作に関する 40 画面について HTML チェッカーを使用し、JIS X 8341-3 の達成基準 61 項目について適合レベル A・AA 基準内容の検証を実施した結果、461 か所の修正課題が指摘された。最も多い指摘項目は「原則 4 堅牢性の構文分析」に関する指摘であり、220 か所（47.7%）であった。次に多いのは「原則 1 知覚可能性の情報及び関係性」が 151 か所（32.7%）であり、「構文分析」と「情報及び関係性」に関する指摘が全体の 8 割を占めている。そのほかにも「原則 3 理解可能性のラ

表 4-1-5　WCAG 2.0 の達成基準に準拠した項目別課題数

適合レベル	番号	達成基準名	課題数（目視）	課題数（HTML Checker）
A	1.1.1	非テキストコンテンツ	28	3
A	1.2.1	音声のみ及び映像のみ（収録済）	0	0
A	1.2.2	キャプション（収録済）	0	0
A	1.2.3	音声解説、又はメディアに対する代替（収録済）	0	0
AA	1.2.4	キャプション（ライブ）	0	0
AA	1.2.5	音声解説（収録済）	0	0
A	1.3.1	情報及び関係性	45	151
A	1.3.2	意味のある順序	0	0
A	1.3.3	感覚的な特徴	1	0
A	1.4.1	色の使用	2	0
A	1.4.2	音声の制御	0	0
AA	1.4.3	コントラスト（最低限）	19	0
AA	1.4.4	テキストのサイズ変更	0	0
AA	1.4.5	文字画像	5	0
A	2.1.1	キーボード	2	0
A	2.1.2	キーボードトラップなし	0	0
A	2.2.1	タイミング調整可能	0	0
A	2.2.2	一時停止、停止、非表示	0	0
A	2.3.1	3 回の閃光、又は閾値以下	0	0
A	2.4.1	ブロックスキップ	1	0
A	2.4.2	ページタイトル	1	0
A	2.4.3	フォーカス順序	1	0
A	2.4.4	リンクの目的（コンテキスト内）	1	0
AA	2.4.5	複数の手段	1	0
AA	2.4.6	見出し及びラベル	0	0
AA	2.4.7	フォーカスの可視化	1	0
A	3.1.1	ページの言語	1	38
AA	3.1.2	一部分の言語	2	0
A	3.2.1	フォーカス時	0	0
A	3.2.2	入力時	1	0
AA	3.2.3	一貫したナビゲーション	0	0
AA	3.2.4	一貫した識別性	1	0
A	3.3.1	エラーの特定	0	0
A	3.3.2	ラベル又は説明	1	49
AA	3.3.3	エラー修正の提案	0	0
AA	3.3.4	エラー回避（法的、金融、データ）	1	0
A	4.1.1	構文解析	0	220
A	4.1.2	名前（name）・役割（role）及び値（value）	1	0
		合計数	116	461

ベルまたは説明」に関する指摘が 49 か所（10.6%）、「原則 3 理解可能性のページ言語」に関する指摘が 38 か所（8.2%）、「原則 1 知覚可能性の非テキストコンテンツ」に関する指摘が 3 か所（0.8%）であった。

HTML チェッカーによる機械的な検証によれば、本 e ラーニングシステムの操作機能に関す画面では、構文分析（Web Content Accessibility Guidelines 2.0 における説明としては「マークアップ言語を用いて実装されているコンテンツにおいては、要素には完全な開始タグ及び終了タグがあり、要素は仕様に準じて入れ子になっていて、要素には重複した属性がなく、どの ID も一意的である。ただし、仕様で認められているものを除く」とされる。）と、情報及び関係性（Web Content Accessibility Guidelines 2.0 における説明としては「何らかの形で提示されている情報、構造及び関係性は、プログラムによる解釈が可能である、又はテキストで提供されている。」とされる。）についてアクセシビリティ上の重篤な課題が多く認められた結果となった。つまり、多くの画面において HTML 構文の文法上の齟齬や画面上の表示情報、その構造、それらの情報関連性がプログラム上解釈困難であると診断された結果といえる。

各達成項目における問題点の指摘内容は以下のようであった（表 4-1-6、表 4-1-7）。

（ｉ）構文分析に関する問題点

構文分析に関する問題点は次のとおり 220 か所 18 種類が指摘された。

①閉じていない要素 "div"
②終了タグ "form" が見られるが、オープン要素があった。
③要素 "br" は、このコンテキストでは要素 "dl" の子として許可されていません（このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します）。
④このコンテキストでは、要素 "form" は要素 "dl" の子として許可されていません（このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します）。
⑤終了タグ "form" が見られるが、オープン要素があった。
⑥閉じていない要素「form」
⑦迷走する終了タグ「form」
⑧ ID「topicon_l」が重複しています。
⑨ ID「topicon_l」の最初の出現はここでした。
⑩このコンテキストでは、要素 "p" は要素 "h1" の子として許可されていません（このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します）。
⑪このコンテキストでは、要素 "style" は要素 "div" の子として許可されていません（このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します）。
⑫ ID「footer」が重複しています。
⑬ ID「footer」の初出がここでした。
⑭ body の終了タグは確認できたが、未閉鎖の要素があった。
⑮スコープ内に "dt" 要素はないが、"dt" 終了タグが見られる。

表 4-1-6　ＨＴＭＬ　checker による主な問題点の例

達成基準別課題数	適合レベル	検証による主な問題点	修正対応方法
ページ言語 38	A	この文書の言語を宣言するために、"html" 開始タグに "lang" 属性を追加することを検討	lang 属性を追加
	A	この文書は日本語で書かれている。html の開始タグに "lang="ja"（またはその変化形）を追加することを検討	lang 属性を追加
ラベル又は説明 49	A	label 要素の for 属性の値は、非表示のフォームコントロールの ID でなければならない。	システムの仕様上、変更の難しい箇所なので保留
構文解析 220	A	body の終了タグは確認できたが、未閉鎖の要素があった	div 要素の閉じタグを追加
	A	ID「change」が重複している。	ID “change” を class に変更。
	A	ID「change」の初出はこちらでした。	ID “change” を class に変更。
	A	ID「footer」が重複しています。	ID"footer" の使用を一か所にする
	A	ID「footer」の初出がここでした。	ID"footer" の使用を一か所にする
	A	ID「topicon_l」が重複しています。	該当ページの ID “topicon_l” を廃止。
	A	ID「topicon_l」の最初の出現はここでした。	ID “topicon_l” を class に変更。
	A	このコンテキストでは、要素 "form" は要素 "dl" の子として許可されていません。(このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します。)	form 要素の場所を変更。
	A	このコンテキストでは、要素 "p" は要素 "dl" の子として許可されていません。(このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します。)	p 要素の位置を変更しました。
	A	このコンテキストでは、要素 "p" は要素 "h1" の子として許可されていません。(このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します。)	該当箇所の <h1> を廃止。
	A	このコンテキストでは、要素 "style" は要素 "div" の子として許可されていません。(このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します。)	style の指定を CSS ファイルに変更
	A	最後のエラーの後、回復することができません。それ以降のエラーは無視されます。	form 閉じタグの位置を変更
	A	終了タグ "form" が見られるが、オープン要素があった。	form 要素の場所を変更。
	A	閉じていない要素 "div"	div 要素の閉じタグを追加
	A	閉じていない要素「form」	form 要素を閉じるように修正
	A	迷走する終了タグ「form」	form 要素の位置を修正
	A	スコープ内に "dt" 要素はないが、"dt" 終了タグが見られる	dt 開きタグを追加
	A	要素 "br" は、このコンテキストでは要素 "dl" の子として許可されていません。(このサブツリーからのさらなるエラーを抑制します)。	dl 要素、div 要素の位置を修正。
情報及び関係性 161	A	font」要素は廃止されました。代わりに CSS を使用してください。	<font> → <h3> に変更。
	A	p」要素の「align」属性は廃止されました。代わりに CSS を使用してください。	CSS ファイルで指定するように変更
	A	この文脈では、要素 "dl" で許可されないテキスト	dl 要素、div 要素の位置を修正。
	A	要素 "div" には、子要素 "dt" の必須インスタンスがありません。	dl 要素、div 要素の位置を修正。
	A	要素 "dl" には、必須の子要素がありません	<dl> を廃止。
非テキストコンテンツ 3	A	img 要素には、特定の条件を除き、alt 属性が必要です。詳しくは、「画像に代替テキストを提供するためのガイダンス」を参照してください。	alt 属性を追加

表 4-1-7　用語の解説

用語	解説
html	Web ページをブラウザ上で表示するために用いられる言語。
CSS	主に Web ページのデザイン、レイアウトを定義する言語。 例えば文字色や背景色を指定したり、ブロックの横幅を設定したりなど。 html とは別のファイルで用意する CSS ファイルを用いる方法と、html 内に直接インラインで記載する方法がある。
要素	html を構成するもの。 これらの組み合わせで html は作られている。 それぞれの要素に意味があるため、本来の役割以外での使用は推奨されていない。 また要素を入れ子にして記載することがよくあるが、入れ子にしてはいけない要素がある。 https://webliker.info/html/46840/ 例：<a> ならリンク要素、<p> なら文章要素、 ならブロック要素など…
タグ	要素と同義。
<>	要素と同義。
属性	要素に追加する設定のようなもの。 例： の場合、id が属性 <img alt="~"> のような場合、alt が属性
id	属性の種類の一つ。 原則 id で指定した内容が、同ページ内で重複してはならない。 重複する場合は class 属性を使用する。
alt	img 要素に設定する属性。 画像を読み込めない環境で画像の代わりに表示される代替テキスト内容を記載する。
dl	要素の種類の一つ。 定義リストを作成するときに用いる要素で、下記のような書き方が必須となる。 (タイトルを定義する <dt> 一つは必須、解説を定義する <dd> も一つは必須) 例： <dl> <dt> タイトル </dt> <dd> 解説 </dd> </dl>

⑯最後のエラーの後､回復することができません。それ以降のエラーは無視されます。
⑰ ID「change」が重複している。
⑱ ID「change」の初出はこちらでした。

（ⅱ）情報及び関係性に関する問題点

情報及び関係性に関する問題点は次のとおり 161 か所 5 種類が指摘された。

①「font」要素は廃止されました。代わりに CSS を使用してください。
②この文脈では、要素 "dl" で許可されないテキスト
③要素 "div" には、子要素 "dt" の必須インスタンスがありません。
④要素 "dl" には、必須の子要素がありません
⑤「p」要素の「align」属性は廃止されました。代わりに CSS を使用してください。

（ⅲ）ラベルまたは説明に関する問題点

ラベルまたは説明に関する問題点は 49 か所 1 種類が指摘され次のようであった。

① label 要素の for 属性の値は、非表示のフォームコントロールの ID でなければならない。

（ⅳ）ページの言語に関する問題点

ページの言語に関する問題点は次のとおり 38 か所 2 種類が指摘された。

①この文書の言語を宣言するために、"HTML" 開始タグに "lang" 属性を追加することを検討してください。
②この文書は日本語で書かれているようです。HTML の開始タグに "lang="ja"（またはその変化形）を追加することを検討してください。

（ⅴ）非テキストコンテンツに関する問題点

非テキストコンテンツに関する問題点は次のとおり 3 か所 1 種類が指摘された。

① img 要素には、特定の条件を除き、alt 属性が必要です。詳しくは、「画像に代替テキストを提供するためのガイダンス」を参照してください。

ⅱ）目視による検証結果

システムの操作に関する 40 画面について HTML チェッカーを使用し、JIS X 8341-3 の達成基準 61 項目について適合レベル A・AA 基準内容の検証を実施した結果、461 か所の修正課題が指摘された。HTML チェッカーによって指摘された 461 か所の問題点を含んだ操作に関する 40 画面についてアクセシビリティ検証の技術者 3 名の目視によって検証を実施した結果、116 か所の問題点が指摘された。最も多い指摘項目は「原則 1 知覚可能性の情報及び関係性」に関する指摘であり 45 か所（38.8%）であった。次に「原則 1 知覚可能性の非テキストコンテンツ」が 28 か所（24.1%)、「原則 1 知覚可能性のコントラスト」が 19 か所（16.3%)、「原則 1 知覚可能性の文字画像」が 5 か所（4.3%）であり、「情報及び関係性」「非テキストコンテンツ」「コントラスト」で全体の約 8 割を占めている。その他にも「原則 3 理解可能性」や「原則 2 操作可能性」の達成項目において 1 か所から 2 か所の指摘が多く分散している。技術者による目視は、HTML チェッカーによる機械診断では検証され

にくいインターフェース上の検証を行うことに適しているため、画面表示が使用者にとって適切かどうかといった知覚可能性に関する問題を検出した結果となった。（表 4-1-5、表 4-1-8）。

（ｉ）非テキストコンテンツに関する問題点

「原則 1 知覚可能性の非テキストコンテンツ」28 か所（24.1%）に関する主な指摘内容については、おおよそ以下の 3 種類に分類される（表 4-1-9）

① alt 属性（代替テキスト情報）が無い

alt 属性（オルト属性）とは Web ブラウザ内の画面において画像の代わりに表示されるテキストを指定するために使われる HTML の img 要素や input 要素における属性であり、表示されるべき画像が表示されない、閲覧できない場合にその画像に加えられたテキストデータを指しています。例えば、文字情報が画像データとなっている場合、視覚情報として認識可能でも、視覚認識が困難な場合それに代わる音声情報による文字情報が無いと読み上げソフト等でテキスト情報を認識せず音声にすることができない。alt 属性が無いという指摘は、画面内の文字情報やイメージ情報についてテキスト情報が付記されていないことを意味している。

例）項番 1 では、「受講料 3000 円」という視覚情報に対してテキスト情報が無いため音声情報として読み上げることができない。

② alt 属性における代替テキストと画像情報の不一致性

画面内に表示される文字情報やイメージ情報と alt 属性として付記されているテキストデータの内容が異なっており、音声データとして再生した場合、視覚認識が困難な方には画面とは異なる情報が伝えられる。

例）項番 3 では、「サンプル動画はこちら　登録前に自身の登録端末で動作確認をお願いいたします。」と表記されており、視覚情報としては認識可能だが、alt 属性では代替テキストとして「さんぷるどうがはこちら」しか付記されていないため、全文を聴覚情報として認識できない。

③ alt 属性における代替テキストの不足

画面内に表示されるテキスト情報やイメージ情報について、alt 属性に付記されるテキストデータだけでは情報が不足している状態を指している。

例）項番 9 では、画面に表示される文字情報が多く、複雑になっており、視覚認識は可能であるが、alt 属性に付記される代替テキスト情報が不足しており、表示情報全文に対してテキスト情報を付記する必要がある。

ⅲ）コントラスト比に関する検証結果（表 4-1-10）

JIS X 8341-3 の達成基準ではテキスト及び文字画像の視覚的提示に、4.5:1 のコントラスト比を最低基準として設定している（適合レベル AA）。本事業における目視による検証結果では「原則 1 知覚可能性のコントラスト」に関する指摘箇所が 19 か所（16.3%）検証されており、いずれもコントラスト比 4.5 を下回る結果となっている。コントラスト比の問題が指摘された画面例として表 4-1-10 に示しているようにいず

表 4-1-8　目視による検証結果と問題点

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
34	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**名前 (name)・役割 (role) 及び値 (value)**	A	視覚的にはパネルの開閉が確認できますが、音声で閲覧している利用者には開閉状態が伝わらない状態です。 WAI-ARIA を用いるなどしてパネルの開閉のタイミングにあわせて、状態が利用者に伝わるように調整します。 実装例参考： https://www.w3.org/WAI/ARIA/apg/example-index/disclosure/disclosure-faq.html
9	全ページ	**文字画像**	AA	文字が画像化されています。 画像化されている場合、色や大きさ、フォントの種類などを利用者が調整することができません。テキストで表現可能なものはテキストによって表現し、利用者が調整可能なようにします。
50	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/certificate	**文字画像**	AA	文字が画像化されています。 画像化されている場合、色や大きさ、フォントの種類などを利用者が調整することができません。テキストで表現可能なものはテキストによって表現し、利用者が調整可能なようにします。
57	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt	**文字画像**	AA	文字が画像化されています。 画像化されている場合、色や大きさ、フォントの種類などを利用者が調整することができません。テキストで表現可能なものはテキストによって表現し、利用者が調整可能なようにします。
67	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/54/232 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/63/244 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/79/274	**文字画像**	AA	テキストで表現可能な文字を画像化しています。 画像化されている場合、色や大きさ、フォントの種類などを利用者が調整することができません。テキストで表現可能なものはテキストによって表現し、利用者が調整可能なようにします。
88	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**文字画像**	AA	文字が画像化されています。 画像化されている場合、色や大きさ、フォントの種類などを利用者が調整することができません。テキストで表現可能なものはテキストによって表現し、利用者が調整可能なようにします。
5	全ページ	**複数の手段**	AA	利用者が目的のページを探し出す方法を複数用意する必要があります。 例えば、サイトマップや検索機能を実装します。その他の方法については下記ページの「十分な達成方法」をご確認ください。 https://waic.jp/docs/WCAG21/Understanding/multiple-ways.html#sufficient
61	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259	**非テキストコンテンツ**	A	発言者の画像に figure 要素を用いていますが、対象箇所は画像のキャプション（画像についての説明）がありませんので、figure 要素ではなく div 要素などでマークアップします。
75	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288	**非テキストコンテンツ**	A	動画の再生・一時停止の状態にあわせてボタンのアイコンが変わるため、機能が切り替わったことが視覚的に利用者に伝わります。しかし、代替テキストは「再生・一時停止」で変わらないため、音声で閲覧している利用者には機能が切り替わったことが伝わらない状態です。 機能のオンオフによってアイコンが変更される場合、代替テキストもあわせて切り替えます。 音声・ミュートも同様にご対応ください。
96	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/ https://dcnet.marutto.biz/e-learning/users/login	**入力時**	A	ログインＩＤまたはパスワードがブランクの状態でログインボタンを押下すると入力欄にフォーカスが移動しますが、コンテキストの変化（利用者が予測できないような挙動）を引き起こさないようにする必要があります。未入力であることを伝える目的がある場合は代わりにエラーメッセージが表示されるようにします。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合 レベル	問題点
55	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt	**色の使用**	A	表の下の文言が赤で表現されています。 文言が重要な意味を持つことを表現するために赤を用いている場合は、色だけでなくマークアップでも重要度にあわせた要素を用いるようにします。 また、視覚的には下線や太字など、色以外でも重要さが伝わるようにする なお、赤を装飾として用いている場合は問題に該当しません。
79	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/certificate	**色の使用**	A	表の下の文言が赤で表現されています。 文言が重要な意味を持つことを表現するために赤を用いている場合は、色だけでなくマークアップでも重要度にあわせた要素を用いるようにします。 また、視覚的には下線や太字など、色以外でも重要さが伝わるようにする なお、赤を装飾として用いている場合は問題に該当しません。
6	全ページ	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造上、ページの主題と考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 ページの主題と考えられる見出しは h1 要素でマークアップするようにします。
7	全ページ（ヘッダー）	**情報及び関係性**	A	ヘッダーのロゴ画像が h1 要素でマークアップされていますが、h1 要素は各ページの主題となる文言に使用します。 例えば、修了証書発行ページの場合はメインコンテンツ冒頭の「修了証書発行」に h1 要素を用います。
15	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest2/109 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/7 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/3 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/5 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/9	**情報及び関係性**	A	セマンティクスを持たない div 要素でマークアップされており、コンテンツの情報構造が適切に伝わっていません。 対象箇所は、以下のような構造と考えられますが、 問題 No. 　└問題文 　　└選択肢 1 　　└選択肢 2 見出しやリスト要素を用いるなどして問題文と選択肢の関係性を示します。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
16	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest2/109 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/54/232 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/7 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/63/244 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/3 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/96/291 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/96/291 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/5 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/106/303 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/79/274 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/9	**情報及び関係性**	A	「ほかの言葉はこちら」が dl 要素でマークアップされており、その子孫に dt 要素がありません。 メインメニュー └Mypage TOP └修了証書発行 └操作マニュアル～ └お問い合わせフォーム └ほかの言葉はこちら という情報構造を意図している場合は、 <dl> <dt> メインメニュー └<dd>Mypage TOP └<dd> 修了証書発行 └<dd> 操作マニュアル～ └<dd> お問い合わせフォーム └<dd> ほかの言葉はこちら のように、ひとつの dl 要素でまとめるようにします。「ほかの言葉はこちら」は、「メインメニュー」の子の項目ではない場合は、dt 要素に相当する情報がコンテンツにありませんので、セマンティクスに即したほかの要素によってマークアップするようにします。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
17	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest2/109 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/54/232 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/7 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/63/244 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/3 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/96/291 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/96/291 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/5 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/106/303 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/79/274 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/9	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造上、見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 後続のコンテンツの内容を表す情報は見出しの意味を持つ要素でマークアップするようにします。
19	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/users/login	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造として、見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 コンテンツの情報構造に応じた見出しレベルを確認し、見出し要素によってマークアップします。
20	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/users/login	**情報及び関係性**	A	「ログイン」フォームの各入力欄に対してテキストラベルは用意されていますが、入力欄とテキストラベルが関連付けられていません。 label 要素などを用いて、テキストラベルと入力欄を関連付けます。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
21	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/remindermails	**情報及び関係性**	A	dl 要素の子として div 要素や form 要素などが用いられています。いずれも、dl 要素の子として持つことはできません。HTML の仕様に即してマークアップするようにします。
22	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/remindermails	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造として、見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 コンテンツの情報構造に応じた見出しレベルを確認し、見出し要素によってマークアップします。
23	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/remindermails	**情報及び関係性**	A	「送信（パスワード再設定）」のあとに空の dd 要素があります。 不要な空の要素は削除します。
24	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/remindermails	**情報及び関係性**	A	「ログイン ID が分からなくなった場合に、～」などの文章が div 要素でマークアップされています。 div 要素はセマンティクスを持たない要素ですので、情報とマークアップが一致していない状態です。 それぞれのコンテンツがもつ情報に合わせたセマンティクスを持つ要素でマークアップするようにします。例えば、段落の場合は p 要素を用います。
25	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/remindermails	**情報及び関係性**	A	「TOP に戻る」のあとに空の p 要素があります。 不要な空の要素は削除します。
27	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/special_commercial_transaction	**情報及び関係性**	A	「コンテンツを視聴～」～「対応ブラウザ」は以下のような構造になっていると思われます。 コンテンツを視聴するための動作環境 └必須環境： 　└HTML5 対応ブラウザ および～ └対応端末： 　└上記環境を満たした PC・各種～ └対応ブラウザ 　└：Microsoft Edge，Google Chrome，～ 上記のような入れ子の構造が伝わるようにマークアップを調整します。
28	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/special_commercial_transaction	**情報及び関係性**	A	該当箇所は、以下のような構造になっていると考えられます。 返金・返品・キャンセルに関する特約 └1．受講を開始していない場合 　└(1) 受講者 I D発行日以後～ 　└(2) 受講料を支払っている場合は、～ └2．受講を開始している場合 　受講開始後のキャンセルおよび～ └3．手続き方法 　└・キャンセルについては、～ 　└・コンビニ店舗では返金を～ 1., 2., (1), (2) など番号が振られている項目は順序に意味があるリスト（ol/li 要素）、番号が振られていない項目は順序が異なっていても問題がないリスト（ul/li 要素）のように、情報の階層構造が伝わるようにマークアップします。 なお、「・キャンセルについては、～」を ul/li 要素でマークアップする場合、「・」はリストビュレットとして CSS で記述するようにします。
29	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/kiyaku	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造として、見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 コンテンツの情報構造に応じた見出しレベルを確認し、見出し要素によってマークアップします。
31	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**情報及び関係性**	A	チェックボックスとして実装されていますが、コンテンツの情報からは input 要素（checkbox）や label 要素が用いられる内容ではないと考えられます。（また、視覚的にもチェックボックスが非表示になっています。） 情報のセマンティクスに即した要素でマークアップするようにします。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合 レベル	問題点
32	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**情報及び関係性**	A	視覚的には A の内容は Q のパネルを開いて表示されるまで見えない状態ですが、音声で閲覧している利用者からは Q のパネルの開閉状態にかかわらず表示されている状態です。 CSS の display:none や visibility:hidden を用いるなどしてパネルの開閉の状態にあわせて、アクセシビリティツリー上の A のコンテンツの表示・非表示を切り替えるようにします。
35	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**情報及び関係性**	A	質問の文章を表す文字「Q」、回答の文章を表す文字「A」がそれぞれ CSS 内に記述されています。 それぞれ情報を持つテキストですので、CSS ではなく HTML に記述するようにします。（Q、A の装飾の部分は CSS で問題ありません。）
36	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**情報及び関係性**	A	dl 要素の子に dt 要素がなく、dd 要素のみ用いられています。 dt 要素と dd 要素は 1 対 1 あるいは 1 対多のようにペアで用いる必要があります。HTML の仕様に即してマークアップするようにします。 また、空の dd 要素は削除します。
38	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**情報及び関係性**	A	br 要素によって間隔を空けるような視覚的なレイアウトを行っている箇所があります。間隔などレイアウトの調整は CSS で行うようにします。 また、「■」の記号をビュレット、あるいは見出し的に用いていると思われる箇所があります。 「■」を装飾として用いている場合は、CSS で記述するようにします。
39	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**情報及び関係性**	A	「①事務所名」～「④修正後の情報」は、リストと考えられます。リスト要素を用いるなどして適切にマークアップします。
40	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**情報及び関係性**	A	Q、A の各コンテンツは以下のような情報構造を持つと考えられますが、マークアップに反映されていません。 例） 【事業所の登録方法について】 └ Q 事業所の登録を入力しようとすると～ 　└ A このｅラーニングシステムは事業所～ └ Q 一つの法人で複数の事業所がある場合～ 　└ A 同じ法人であっても、～ ： dl/dt/dd 要素あるいは ul/li 要素などを用いて、関係性をあらわすようにマークアップします。
41	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**情報及び関係性**	A	「【事業所の登録方法について】」や「【受講者の登録方法について】　」など QA のカテゴリをあらわす見出しと考えられますが、セマンティクスを持つ要素でマークアップされていません。 後続の Q&A コンテンツの見出しに相当する意味を持つ要素でマークアップするようにします。
44	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userRegister	**情報及び関係性**	A	リストの構造を持つコンテンツがリストとしてマークアップされていません。 「1. 受講する方のメールアドレス～」から「3. メールが届きましたら、～」は順序に意味があるリストと考えられますので、ol/li 要素でマークアップします。 一方、「※ 1 つのメールアドレス～」～「※ドメイン設定～」は順序に意味を持たないリストと考えられますので、ul/li 要素でマークアップします。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
46	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userRegister	**情報及び関係性**	A	文中に strong 要素でマークアップされた箇所があります。文中で強調することを目的としている場合は strong 要素ではなく em 要素のほうが適しています。 コンテンツの情報として重要度が高い、ということでしたら、strong 要素で問題ありません。ご確認ください。 なお、br 要素で間隔の調整をしている箇所があります。レイアウトの調整は CSS で行うようにします。
47	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userRegister など	**情報及び関係性**	A	文中に strong 要素でマークアップされた箇所があります。文中で強調することを目的としている場合は strong 要素ではなく em 要素のほうが適しています。 コンテンツの情報として重要度が高い、ということでしたら、strong 要素で問題ありません。ご確認ください。
48	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userRegister	**情報及び関係性**	A	h1 要素が重複しています。 ロゴ（h1 要素）のマークアップを修正することで問題は解消されますが、ロゴのマークアップを修正しない場合は、該当箇所の見出し要素のレベルを調整する必要があります。
53	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select	**情報及び関係性**	A	「やさしい日本語（N4） ／ Japanese（N4）」の前に空の li 要素があります。 不要な空の要素は削除します。
56	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt	**情報及び関係性**	A	「■受講者情報」や「■決済情報」は後続のコンテンツ（テーブル）に対する見出しと考えられます。 テーブルの見出しの意味を表す要素でマークアップするようにします。 なお、「■」をテキストを目立たせるために用いている場合は装飾にあたりますので、CSS で表現するようにします。
58	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造として、見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 コンテンツの情報構造に応じた見出しレベルを確認し、見出し要素によってマークアップします。
59	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259 ほか多数	**情報及び関係性**	A	レイアウト調整を目的とした空要素が多数見受けられます。 レイアウト調整は空要素ではなく CSS によって行うようにします。
62	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259	**情報及び関係性**	A	回答例（「「うちに帰りたいんですね」といった～」など）がセマンティクスを持たない div 要素でマークアップされています。 段落やリストなど、文書構造に沿って適切にマークアップします。
63	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259	**情報及び関係性**	A	セマンティクスを持たない div 要素でマークアップされており、コンテンツの情報構造が適切に伝わっていません。 以下は、 第４章　認知症ケアの基礎技術（自由記述問題） └自由記述問題　解説 └事例演習 └あなたの答え └「うちに帰り のような情報構造を持っていると思われます。見出し、段落、リストなど文書構造に沿って適切にマークアップします。
65	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造上、見出しと思われる内容が見出しとしてマークアップされていません。 該当箇所が見出しの意味を持つ場合は、意味に応じた要素でマークアップするようにします。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
69	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/54/232 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/63/244 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/79/274	**情報及び関係性**	A	セマンティクスを持たない div 要素でマークアップされており、コンテンツの情報構造が適切に伝わっていません。 例えば、 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/59/240 のコンテンツは以下のような情報構造と考えられますが、情報構造を伝えることのできる要素でマークアップされていない状態です。 第２章．認知症の定義と原因疾患 └ここまでの復習 └〇正解 └【正しい解答】 5：5）ＡとＣ └【貴方の解答】 5：5）ＡとＣ └血管性認知症は階段状に進行していくのが特徴です。また脳の血管が詰まることが原因のひとつです。 └Ｂが間違いなのは、「主に幻視があらわれやすい」のはレビー小体型認知症の特徴だからです。 ： 情報構造を確認いただき、構造に適した要素でマークアップするようにします。
71	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造上、見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 該当箇所は、「「３．介護者の視点」「４．認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援とは」について復習しましょう」に対する見出しと考えられます。 また、「認知症ケアの考え方について、間違っているものはどれでしょうか。」は選択肢に対する見出しと考えられます。 後続のコンテンツの内容を表す情報は見出しの意味を持つ要素でマークアップするようにします。
72	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288	**情報及び関係性**	A	動画に対する見出しと考えられますが、見出しとしてマークアップされていません。 後続のコンテンツの内容を表す情報は見出しの意味を持つ要素でマークアップするようにします。
77	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/certificate	**情報及び関係性**	A	コンテンツの情報構造として、見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 コンテンツの情報構造に応じた見出しレベルを確認し、見出し要素によってマークアップします。
80	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/certificate	**情報及び関係性**	A	dl 要素の子に空の p 要素があります。 dl 要素の子には p 要素を持つことはできません。 また、空の要素となっていますので、削除するようにします。
86	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**情報及び関係性**	A	「【Gmail・docomo 等のキャリアメールをご利用の皆様へ】」は後続の内容に対する見出し、「★ Gmail は古いバージョンのままでは、～」や「★ docomo 等のキャリアメールは、～」はリストと考えられます。 情報のセマンティクスを表す要素でそれぞれマークアップするようにします。
87	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**情報及び関係性**	A	br 要素によって間隔を空けるような視覚的なレイアウトを行っている箇所があります。間隔などレイアウトの調整は CSS で行うようにします。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
89	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**情報及び関係性**	A	dl 要素の子に dt 要素がなく、dd 要素のみ用いられています。 dt 要素と dd 要素は 1 対 1 あるいは 1 対多のようにペアで用いる必要がありますので、dt 要素を省略することはできません。 「サンプル動画」～「お問い合わせフォーム」は一つのまとまりをもつコンテンツと考えられます。 項目一つずつで区切るのではなく、以下のように一つまとまりのリストとしてマークアップするようにします。 ul └li サンプル動画再生 └li 操作マニュアル （認知症介護基礎研修受講者用） └li お問い合わせフォーム
91	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**情報及び関係性**	A	「受講料」「事業所担当者の皆様へ」「ログイン」など、情報の構造から見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 逆に、「事業所の受講料一括支払はこちら（上記の地域の方）」ボタンが h3 要素でマークアップされており、文書構造と異なる状態と考えられます。 コンテンツ全体の構造を再確認し、見出しとしてマークアップするべき内容にのみ見出し要素を用いるようにします。
92	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**情報及び関係性**	A	タブ「受講料」と、画像「受講料 3,000 円（消費税込み）」～「事業所の受講料一括支払～」に ul, li 要素が用いられていますが、文書構造上はリストではないと考えます。 ul, li 要素は削除し、例えば「受講料」を見出し要素に変更するなどして構造化します。
93	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**情報及び関係性**	A	dl 要素の子として form 要素や p 要素が用いられています。いずれも、dl 要素の子として持つことはできません。HTML の仕様に即してマークアップするようにします。
76	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288	**感覚的な特徴**	A	「動画が止まった場合はこちら」の「こちら」が指すものが音声で閲覧している利用者には不明瞭な可能性があります。 「動画が止まった場合は「動画を再読込」ボタンを押してください」など、指している対象箇所を明瞭にします。
51	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select	**一部分の言語**	AA	言語の選択ボタンをクリックすると、各フッターリンクの言語が切り替わりますが、lang 属性が付加されていない状態です。 選択した言語にあわせて、lang 属性を設定するようにします。
52	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select	**一部分の言語**	AA	「 Please select a display language.」や「Tiếng Việt（ベトナム語）」などの言語選択ボタンの言語名は、ページの主言語と異なる言語を用いていると考えられますので、マークアップでも lang 属性によってそのことを表すようにします。
81	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/ https://dcnet.marutto.biz/e-learning/users/login	**一貫した識別性**	AA	「ログイン」の ID を入力する欄のテキストラベルがページによって揺れています。音声で閲覧している利用者や、認知に問題がある利用者などが混乱する可能性があります。間違いなく情報を特定できるよう、ラベルを一致させます。
94	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**リンクの目的（コンテキスト内）**	A	画像リンクとなっている画像の、代替テキストが空のため、どのようなリンクなのかが音声で閲覧している利用者に伝わらない状態になっています。 文字画像の問題に対応しない場合は、代替テキストを用意します。

項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
43	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userRegister	**ラベル又は説明**	A	メールアドレスを送信するフォームの入力欄に対してテキストラベルは用意されていますが、入力欄とテキストラベルが関連付けられていません。 label 要素などを用いて、テキストラベルと入力欄を関連付けます。
3	全ページ	**ページの言語**	A	html 要素に lang 属性が指定されていません。ページの主言語を lang 属性に設定するようにします。
4	全ページ	**ページタイトル**	A	対象画面のページタイトルがすべて同一となっています。 各ページを識別できるように、コンテンツの内容が伝わる文言をページタイトルに記載します。
8	全ページ	**ブロックスキップ**	A	ヘッダーのロゴ画像以外に見出しが設定されていません。コンテンツ内の見出しと考えられる要素に見出し要素を用います。
74	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288	**フォーカス順序**	A	キーボードで操作している場合、動画のコントロールをするツールバーの各ボタンにフォーカスが当たらない状態です。 ツールバーの各ボタンにそれぞれフォーカスが当たるように調整します。
33	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**フォーカスの可視化**	AA	キーボードで操作している場合、Q のパネルのどこにフォーカスが当たっているかが視認できません。そのため、利用者がどこを選択しているのかを見失う可能性があります。 フォーカスアウトラインを表示するようにします。
10	全ページ（フッター）	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 対象画面すべてについて、同じ色の組み合わせを用いている箇所はあわせてご調整ください。 前景色：#A6A6A6 背景色：#FFFFFF コントラスト比 : 2.4:1
11	全ページ（パンくずリスト）	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 対象画面すべてについて、同じ色の組み合わせを用いている箇所はあわせてご調整ください。 前景色：#999999 背景色：#FFFFFF コントラスト比 : 2.8:1
12	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest2/109 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/7 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/3 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/5 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/9	**コントラスト（最低限）**	AA	文字画像のコントラスト比が不足しています。 コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 前景色 : #359A0D 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.6:1
13	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest2/109 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/7 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/3 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/5 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/9	**コントラスト（最低限）**	AA	文字画像のコントラスト比が不足しています。 コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 エラーメッセージ 前景色 : #FF0000 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 4:1

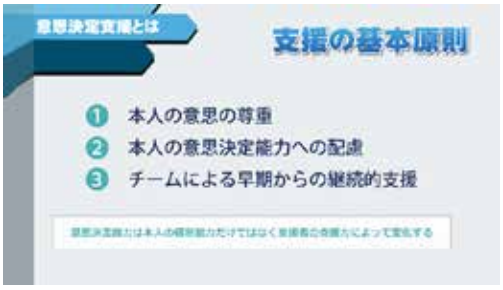
項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
18	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest2/109 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/54/232 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/7 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/63/244 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/3 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/96/291 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/96/291 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/5 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/106/303 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/79/274 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/9	**コントラスト（最低限）**	AA	文字画像のコントラスト比が不足しています。 コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 前景色 : #444444 背景色 : #999999 コントラスト比 : 3.4:1
26	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/special_commercial_transaction	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 対象画面すべてについて、同じ色の組み合わせを用いている箇所はあわせてご調整ください。 前景色 : #FF0000 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 4:1

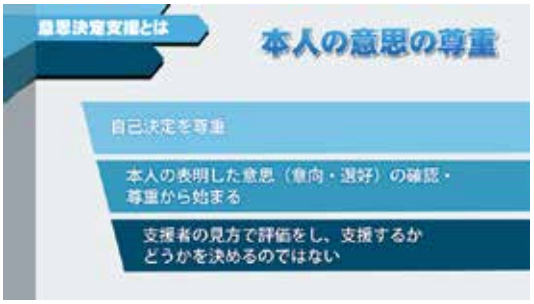
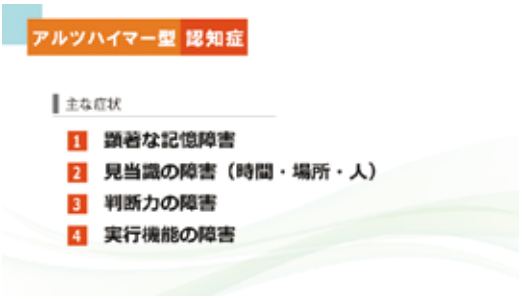
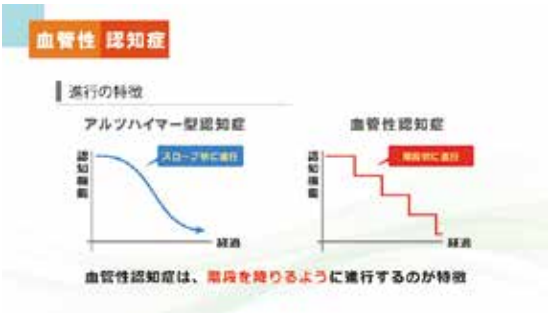
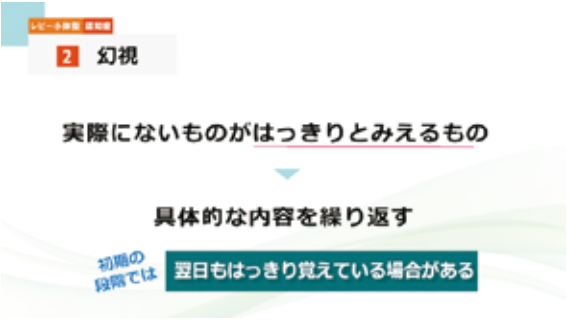
項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
30	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 前景色 : #00838F 背景色 : #E8E9EB コントラスト比 : 3.7:1
37	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 対象画面すべてについて、同じ色の組み合わせを用いている箇所はあわせてご調整ください。 前景色 : #444444 背景色 : #999999 コントラスト比 : 3.4:1
45	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/offices/userRegister	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 対象画面すべてについて、同じ色の組み合わせを用いている箇所はあわせてご調整ください。 前景色 : #FF0000 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 4:1
49	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/languages/select https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt	**コントラスト（最低限）**	AA	画像内の文字についてコントラスト比が不足しています。グラデーションの背景に対して、文字のどの位置もコントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 例）ボタン上部 前景色 : #3C93C8 背景色 : #E5E6E6 コントラスト比 : 2.7:1
54	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 対象画面すべてについて、同じ色の組み合わせを用いている箇所はあわせてご調整ください。 前景色 : #FF0000 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 4:1
60	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 前景色 : #019FB7 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.2:1
64	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 前景色 : #FF0000 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 4:1
68	別シート参照	**コントラスト（最低限）**	AA	文字情報を含む画像について、コントラスト比が不足している箇所があります。 コントラスト比 4.5:1（サイズの大きな文字は 3:1）を満たすように調整します。 対象箇所と問題点は、コントラスト比シートを参照してください。

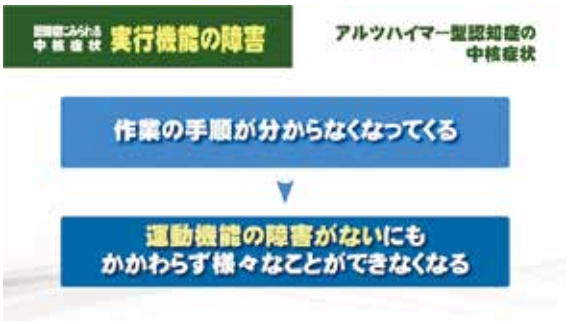
項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
70	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274	**コントラスト（最低限）**	AA	文字画像のコントラスト比が不足しています。 コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 前景色 : #359A0D 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.6:1
78	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/certificate	**コントラスト（最低限）**	AA	コントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 対象画面すべてについて、同じ色の組み合わせを用いている箇所はあわせてご調整ください。 前景色：#FF0000 背景色：#FFFFFF コントラスト比 : 4:1
82	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/ https://dcnet.marutto.biz/e-learning/remindermails https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/special_commercial_transaction https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/faq https://dcnet.marutto.biz/e-learning/pages/kiyaku https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/certificate https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/receipt	**コントラスト（最低限）**	AA	右サイドバーの「サンプル動画」についてコントラスト比が不足しています。グラデーションの背景に対して、文字のどの位置もコントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 同じコンポーネントを用いている箇所について、同様にご対応ください。 例）「動画再生」の「生」の下部 前景色：#548DD4 背景色：#EEEEEE コントラスト比 : 2.9:1 例）同じ箇所でマウスホバーした場合 前景色：#0F71B8 背景色：#EEEEEE コントラスト比 : 4.4:1
83	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**コントラスト（最低限）**	AA	画像内の文字についてコントラスト比が不足しています。グラデーションや写真の背景に対して、文字のどの位置でもコントラスト比 3:1（サイズの大きな文字に該当）を満たすように調整します。 例）認知症介護基礎研修の「認」の上部 前景色：#FFFFFF 背景色：#80C3C1 コントラスト比 : 2:1
84	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**コントラスト（最低限）**	AA	画像内の文字についてコントラスト比が不足しています。コントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 例）受講料 前景色：#FFFFFF 背景色：#28A2D4 コントラスト比 : 2.9:1
73	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/87/14 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/56/236 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecMovie/93/288	**キーボード**	A	動画の下部にあるツールバーをキーボードで操作することができません。 キーボードで操作している利用者が操作できるように調整します。

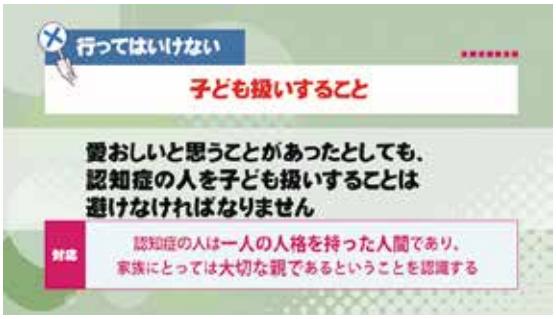
項番	問題が生じているページ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	問題点
90	https://dcnet.marutto.biz/e-learning/	**キーボード**	A	キーボードで操作している場合、フォーカスが当たらないためこの画像リンクを操作できません。 該当箇所にフォーカスが当たるようにし、Enterキー押下などでページ遷移できるように調整します。
14	https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest2/109 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/7 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/3 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/5 https://el.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecTest/9 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/54/232 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/91/287 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/59/240 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/63/244 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/84/249 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/67/253 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/68/255 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/70/258 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTest/79/274 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTestResult/71/259 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecReportTest/106/303	**エラー回避（法的、金融、データ）**	AA	確認テストで、選択肢や記入を行い確認ボタンをクリックすると、そのまま結果が送信される状態です。 選択した回答や記入した回答内容を送信する前に、利用者が選択・記入内容を確認できるように、選択内容を表示したり、送信してよいかを確認するステップを挟むようにします。 ※備考欄の参照先をあわせてご確認ください。

表 4-1-9　目視による非テキストコンテンツの課題

項番	問題点	画像
1	情報を持つ画像の alt 属性が空になっています。画像の内容を代替テキストとして書き起こします。	
2	情報を持つ画像の alt 属性が空になっています。それぞれ、画像内の文字情報は過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。	
3	画像内の情報と代替テキストが一致していません。 画像内の文字情報は過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。	
4	情報を持つ画像の alt 属性が空になっています。それぞれ、画像内の文字情報は過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。	
5	情報を持つ画像の alt 属性が空になっています。それぞれ、画像内の文字情報は過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。	
6	情報を持つ画像の alt 属性が空になっています。それぞれ、画像内の文字情報は過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。	
7	画像内の情報と代替テキストが一致していません。 画像内の文字情報は過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。なお、PDF で領収書が発行されると思われますので、その情報も含めるようにします。	
8	正解や不正解を伝える画像の alt 属性が空になっています。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。	
9	解答の説明の情報を伝えている画像の alt 属性が空になっています。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	

項番	問題点	画像
10	解答の説明の情報を伝えている画像の alt 属性が空になっています。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
11	解答の説明の情報を伝えている画像の alt 属性が空になっています。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
12	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
13	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
14	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	

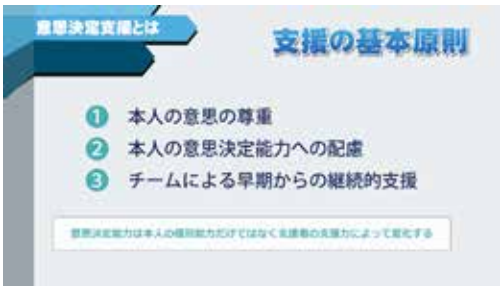
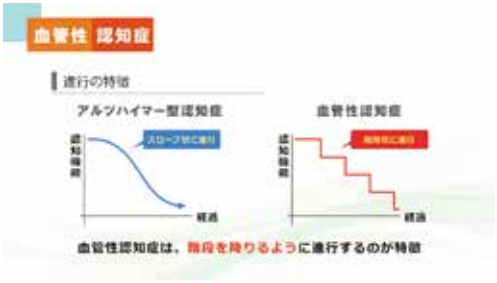
項番	問題点	画像
15	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
16	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
17	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
18	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
19	正解や不正解を伝える画像の alt 属性が空になっています。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。	

項番	問題点	画像
20	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
21	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
22	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	
23	文字画像の代替テキストが、文字と一致していません。一致させるようにします。	
24	文字画像の代替テキストが、文字と一致していません。一致させるようにします。	
25	解答の説明の情報を伝えている画像と代替テキストの内容が一致していません。画像内のテキストは過不足なく代替テキストに書き起こすようにします。 なお、画像に含まれるテキストが多い場合、あるいは表や箇条書きなど、文書構造を有する情報の場合、alt 属性の中ではその構造を表現できないため、画像が閲覧できない利用者に情報が伝わりきらない可能性があります。 上記のような場合は、画像に隣接する位置に、テキストによるコンテンツとして情報を伝えるようにすることを推奨します。	

項番	問題点	画像
26	それぞれの画像は、発言者が異なることを表していますが、代替テキストがなく音声で閲覧している利用者に、発言者の違いがわからない状態です。 各画像に発言者が異なることがわかるような代替テキストを記載します。	

表 4-1-10　コントラスト比に関する課題画面例

以下は代表的な問題例です。下表内にない画像や、指摘されていない箇所でも、コントラスト比が不足している箇所についてご対応ください。

項番	画像	問題点
1		「支援の基本原則」の「支」上部 Foreground: #FCFBF2 Background: #5AA2DF コントラスト比 : 2.6:1 「①」 Foreground: #FFFFFF Background: #5EA99E コントラスト比 : 2.7:1
2		「アルツハイマー型」※ Foreground: #FFFFFF Background: #D06520 コントラスト比 : 3.8:1 ※ PC 表示の際は、サイズの大きい文字に相当すると考えられますが、SP 表示の際は画像そのものが縮小されるため、コントラスト比が不足します。
3		「スロープ状に進行」 Foreground: #FCE045 Background: #0371F4 コントラスト比 : 3.4:1 「階段状に進行」 Foreground: #FCE045 Background: #ED1C24 コントラスト比 : 3.3:1 「階段を降りるように」※ Foreground: #FF0000 Background: #E0F5E0 コントラスト比 : 3.5:1 ※ PC 表示の際は、サイズの大きい文字に相当すると考えられますが、SP 表示の際は画像そのものが縮小されるため、コントラスト比が不足します。
4		「作業の手順が分からなくなってくる」※ Foreground: #FFFFFF Background: #447DF5 コントラスト比 : 3.8:1 ※ PC 表示の際は、サイズの大きい文字に相当すると考えられますが、SP 表示の際は画像そのものが縮小されるため、コントラスト比が不足します。
5		「行動・心理症状（BPCD)」 Foreground: #FFFF92 Background: #61ACA2 コントラスト比 : 2.5:1

項番	画像	問題点
6		「様々な要因が加わって」 Foreground: #DD2E9B Background: #FFFFFF コントラスト比 : 4.3:1
7		「刺激」 Foreground: #FFFFFF Background: #6AB577 コントラスト比 : 2.5:1 「感情」 Foreground: #FFFFFF Background: #66ABE0 コントラスト比 : 2.5:1

れもテキスト色が白で、テキスト背景色が淡い色、あるいは背景が白色に対してテキストが淡い色で構成されておりコントラスト比が 4.5 : 1 を下回っている割合が高かった。

(2) 動画コンテンツに関する検証結果

ⅰ）目視による検証結果（表 4-1-11）

学習に関する視聴用動画 37 ファイルについてアクセシビリティ検証の技術者 3 名の目視による検証を実施した結果、108 画面、216 か所の問題点が指摘された。最も多い指摘項目は「原則 1 知覚可能性のコントラスト」が 111 か所（51.4%）であり、次に「原則 1 知覚可能性の音声解説」が 57 か所（26.3%)、「原則 1 知覚可能性のキャプション（収録済)」が 37 か所（17.2%)、「原則 1 知覚可能性の色の使用」が 11 か所（5.1%）であった。「コントラスト」「音声解説」「キャプション」で全体の約 9 割以上を占めていた。37 ファイル中における問題を指摘された 108 画面の内、約半数以上がコントラスト比 4.5：1 を下回る結果となりテキスト色と背景色の対比について問題が多くみられている。また、全体の 1/4 を音声解説に関する問題が指摘されており、視覚による認識が困難な場合画面に表示される情報を音声情報として補償する必要性が指摘されている。約 2 割を占めるキャプションに関する問題点は、聴覚による認識が困難な場合に音声による情報の全てを視覚認識可能なテキスト情報として表示する必要性が指摘されている。また、学習章別の指摘数の傾向では第 4 章における問題指摘数 68 か所（31.4%）が最も多く、動画ファイル数および動画視聴にかかる所要時間数に比例した結果となっている。

以下では指摘された主な達成基準別に本学習用視聴画面を例に具体的な問題点を記述する。

（ⅰ）コントラスト比に関する問題点の例（表 4-1-12）

表 4-1-12 は、学習項目順に各ファイル内の画面コントラストについて問題を指摘された内容とコントラスト比および実際の画面イメージを表している。項番 1 は、序章認知症施策推進大綱に関する学習画面の内、新オレンジプランに関する解説画面であるが、フォントサイズ 14 ポイント以上である「新オレンジプラン」という淡いオレンジ色の文字が、淡いグレー色の画面背景色に対してコントラスト比が 2.5:1 と低く、文字が認識しにくい状態である。また、項番 3 の画面では「Person Centered Care」の明るいオレンジ色に対して、淡いオレンジ色の画面背景色がコントラスト比 2.9：1 となっており文字の認識が困難な状態である。

（ⅱ）音声解説に関する問題点の例（表 4-1-13）

表 4-1-13 は学習章、学習項目順に問題が指摘されている画面イメージおよび達成基準の内容と問題点を示したものである。項番 8 では、画面内の学習内容に関する文字表記についてはナレーションで読み上げているが、画面下部の引用文献の内容についてはナレーションでは読み上げられておらず、視覚による認識が難しい場合は引用文献に関する情報が認識できないため、引用文献に関する音声情報を付記

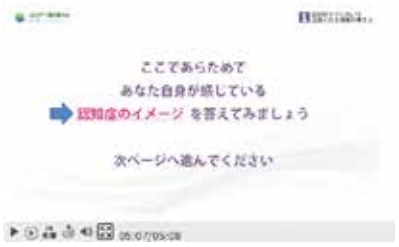
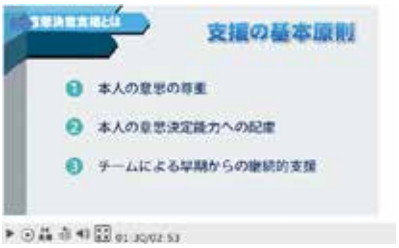
表 4-1-11　動画ファイルに関する検証結果と項目別課題数

項番	学習章	学習用視聴動画ファイル	音声のみ及び映像のみ（収録済）	キャプション（収録済）	音声解説、又はメディアに対する代替（収録済）	音声解説（収録済）	感覚的な特徴	色の使用	音声の制御	コントラスト（最低限）	3回の閃光、又は閾値以下	ファイル別指摘箇所数	章別指摘箇所数
1	研修の目的		—	1	—	2	—	0	—	0	—	3	3
2	序章	認知症施策推進大綱	—	1	—	5	—	1	—	1	—	8	44
3	第１章．認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方	はじめに	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	
4		１．パーソン・センタード・ケア	—	3	—	2	—	0	—	5	—	10	
5		２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	—	0	—	2	—	0	—	5	—	7	
6		３．介護者の視点	—	4	—	4	—	0	—	1	—	9	
7		４．認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援とは	—	0	—	1	—	0	—	9	—	10	
8	第２章．認知症の定義と原因疾患	１．認知症とはなにか①	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	50
9		１．認知症とはなにか②	—	2	—	3	—	0	—	9	—	14	
10		２．認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状	—	1	—	3	—	0	—	11	—	15	
11		２．血管性認知症の原因と主要な症状	—	1	—	1	—	1	—	5	—	8	
12		２．レビー小体型認知症の原因と主要な症状	—	0	—	1	—	0	—	6	—	7	
13		２．前頭側頭型認知症の原因と主要な症状	—	0	—	2	—	0	—	4	—	6	
14	第３章　認知症の中核症状と行動・心理症状の理解	１．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解①	—	0	—	0	—	0	—	1	—	1	51
15		１．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解②	—	1	—	2	—	0	—	4	—	7	
16		２．中核症状の生活への影響	—	0	—	0	—	1	—	3	—	4	
17		３．中核症状が心理面に与える影響	—	1	—	1	—	2	—	9	—	13	
18		４．行動・心理症状のとらえ方と出現原因	—	1	—	0	—	1	—	6	—	8	
19		５．認知症の人にとっての環境①	—	0	—	1	—	0	—	0	—	1	
20		５．認知症の人にとっての環境②	—	2	—	2	—	1	—	4	—	9	
21		６．健康管理①	—	0	—	1	—	0	—	0	—	1	
22		６．健康管理②	—	2	—	1	—	1	—	3	—	7	
23	第４章　認知症ケアの基礎技術	１．認知症の治療①	—	1	—	0	—	0	—	0	—	1	68
24		１．認知症の治療②	—	2	—	1	—	0	—	2	—	5	
25		２．認知症の人の適切な関わり方（事例演習）	—	1	—	2	—	0	—	0	—	3	
26		解説動画をみてみましょう	—	1	—	0	—	0	—	0	—	1	
27		解説動画をみてみましょう	—	1	—	2	—	0	—	0	—	3	
28		２．認知症の人の適切な関わり方②	—	1	—	3	—	0	—	13	—	17	
29		３．認知症の症状への対応（事例演習）	—	1	—	2	—	0	—	0	—	3	
30		解説動画をみてみましょう	—	1	—	0	—	0	—	0	—	1	
31		解説動画をみてみましょう	—	1	—	0	—	0	—	0	—	1	
32		３．認知症の症状への対応②	—	3	—	3	—	1	—	2	—	9	
33		４．意思を尊重する支援方法とは①	—	0	—	1	—	0	—	0	—	1	
34		４．意思を尊重する支援方法とは②	—	1	—	1	—	1	—	3	—	6	
35		５．チームケアの基本	—	2	—	2	—	1	—	0	—	5	
36		６．家族介護者の理解と支援方法①	—	1	—	3	—	0	—	2	—	6	
37		６．家族介護者の理解と支援方法②	—	0	—	3	—	0	—	3	—	6	
合計				37		57		11		111		216	

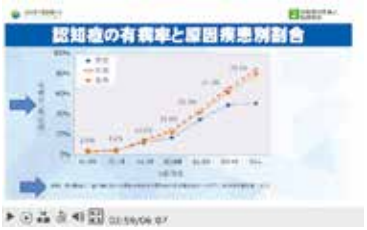
表 4-1-12　動画ファイルに関するコントラスト比の課題例

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
1	2	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #EA7D37 背景色 : #F3F3F3 コントラスト比 : 2.5:1 前景色 : #8D4011 背景色 : #F3F3F3 コントラスト比 : 6.59 : 1	カラーサンプル	
2	4	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #ECEAEE 背景色 : #B98BAC コントラスト比 : 2.4:1 前景色 : #ECEAEE 背景色 : #7F2F68 コントラスト比 : 7 : 1	カラーサンプル	
3	4	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FF6700 背景色 : #FEFDF6 コントラスト比 : 2.9:1 変更後 前景色 : #C24E00 背景色 : #FEFDF6 コントラスト比 :5.16:1	カラーサンプル	
4	4	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F1EB00 背景色 : #F82828 コントラスト比 : 3.1:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #920707 7.36:1	カラーサンプル	
5	4	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #F1EB00 背景色 : #F2581C コントラスト比 : 2.7:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #842A06 7.18:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
6	4	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FCFFFD 背景色 : #FD5C20 コントラスト比 : 3.1:1 変更後 前景色 : #FCFFFD 背景色 : #842A06 9.01:1	カラーサンプル	
7	5	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #00AA9E コントラスト比 : 2.9:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル	
8	5	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #CBCBCB 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.5:1 変更後 前景色 : #595959 背景色 : #FFFFFF 7:1	カラーサンプル	
9	5	背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FF109D 背景色 : #F7FFF6 コントラスト比 : 3.5:1 変更後 前景色 : #990059 背景色 : #F7FFF6 7.89:1	カラーサンプル	
10	5	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #F84211 コントラスト比 : 3.6:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #A62A08 7.1:1	カラーサンプル	

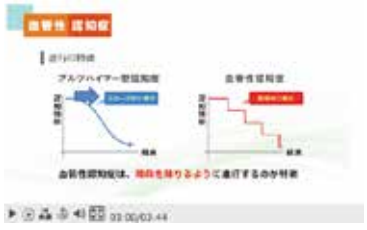
項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
11	5	背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #E90973 背景色 : #EDDDE5 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #EDDDE5 背景色 : #A2064F 6.008 下線トル	カラーサンプル	
12	6	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #ECEAEE 背景色 : #B98BAC コントラスト比 : 2.4:1 前景色 : #ECEAEE 背景色 : #7F2F68 コントラスト比 : 7 : 1	カラーサンプル	
13	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #00A5E1 コントラスト比 : 2.8:1 前景色 : #00658A 背景色 : #FFFFFF 6.5:1	カラーサンプル	
14	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #46BDE8 コントラスト比 : 2.2:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : ##147FA6 コントラスト比 : 5.13:1 これに伴い、真ん中も色変更	カラーサンプル	
15	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #69AD19 コントラスト比 : 2.8:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #38640C 7:1	カラーサンプル	
16	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFF800 背景色 : #69AD19 コントラスト比 : 2.5:1 前景色 : #FFFB94 背景色 : #38640C 6.5:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
17	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FDFFFF 背景色 : #CB6E08 コントラスト比 : 3.6:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #7F4406 7.68:1	カラーサンプル	
18	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFF800 背景色 : #CB6E08 コントラスト比 : 3.2:1 変更後 前景色 : #FFFB94 背景色 : #7F4406 7.13:1	カラーサンプル	
19	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFF800 背景色 : #EA1F09 コントラスト比 : 4:1 変更後 前景色 : #FFFB94 背景色 : #BE1B09 5.81:1	カラーサンプル	
20	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FAFFFF 背景色 : #EA1F09 コントラスト比 : 4.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #BE1B09 6.26:1	カラーサンプル	
21	7	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #00A496 背景色 : #FAFFFF コントラスト比 : 3.1:1 変更後 前景色 : #005C54 背景色 : #FAFFFF 7.82:1	カラーサンプル	
22	9	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
23	9	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #1292D4 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.4:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル	
24	9	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #FF6F1E 背景色 : #F8F9ED コントラスト比 : 2.6:1 前景色 : #BD4500 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 5.23:1	カラーサンプル	
25	9	背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #5B6A71 背景色 : #B6DFFA コントラスト比 : 4:1 前景色 : #373C43 背景色 : #B6DFFA コントラスト比 : 7.89:1	カラーサンプル	
26	9	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FAEE22 背景色 : #0071BB コントラスト比 : 4.2:1 前景色 : #FAEE22 背景色 : #00568F コントラスト比 : 6.34:1	カラーサンプル	
27	9	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #006BB4 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 4.3:1 前景色 : #00497A 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 7.23:1 修正に伴い「第 1 位 第 2 位」の文字色も #00497A に修正	カラーサンプル	
28	9	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #D11304 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 4.2:1 前景色 : #8D0B02 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 7.4:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
29	9	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #BE3E70 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 3.9:1 前景色 : #782645 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 7.47:1	カラーサンプル	
30	9	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #FFB013 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 1.8:1 前景色 : #946300 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 5.19:1	カラーサンプル	
31	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていることを確認する	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #97C631 コントラスト比 : 2:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #57721D コントラスト比 : 5.48:1	コントラスト サンプル	
32	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしているかを確認する 対象が、サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たしているかを確認す "	前景色 : #E86A27 背景色 : #FBF25E コントラスト比 : 2.8:1 前景色 : #AC4711 背景色 : #FBF25E コントラスト比 : 4.9:1	コントラスト サンプル	
33	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていることを確認する	前景色 : #E46825 背景色 : #F7D36B コントラスト比 : 2.3:1 前景色 : #8B3D13 背景色 : #F7D36B コントラスト比 : 5.22:1	コントラスト サンプル	
34	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていることを確認する	前景色 : #FFF596 背景色 : #ED9961 コントラスト比 : 2:1 前景色 : #FFFAD1 背景色 : #AA4F13 コントラスト比 : 5.17:1	コントラスト サンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
35	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしているかを確認する 対象が、サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たしているかを確認する	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	コントラスト サンプル	
36	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしているかを確認する 対象が、サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たしているかを確認する	前景色 : #1292D4 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.4:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	コントラスト サンプル	
37	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていることを確認する	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #F05025 コントラスト比 : 3.6:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #A62A08 7.1:1	コントラスト サンプル	
38	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていることを確認する	前景色 : #777777 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.6:1 前景色 : #666666 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 5.74 : 1	コントラスト サンプル	
39	10	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしているかを確認する	前景色 : #00A7EC 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0076A8 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 5.05:1	コントラスト サンプル	
40	10	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしているかを確認する	前景色 : #83D8DC 背景色 : #FFFD6E コントラスト比 : 1.5:1 前景色 : #FFFC66 背景色 : #24797F コントラスト比 : 4.7:1	コントラスト サンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
41	10	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしているかを確認する 対象が、サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たしているかを確認する	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #EA6C8C コントラスト比 : 1.5:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #D21E4B コントラスト比 : 5.21:1	コントラスト サンプル	
42	11	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	カラーサンプル	
43	11	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #1292D4 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.4:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル	
44	11	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #F05025 コントラスト比 : 3.6:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #A62A08 コントラスト比 : 7.1:1	カラーサンプル	
45	11	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #EEE063 背景色 : #0271F5 コントラスト比 : 3.3:1 前景色 : #EEE168 背景色 : #024CA7 コントラスト比 : 6.01:1	カラーサンプル	
46	11	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FCD563 背景色 : #ED1D23 コントラスト比 : 3.1:1 前景色 : #EEE168 背景色 : #B30F14 コントラスト比 : 5.21:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
47	12	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	カラーサンプル	
48	12	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #1292D4 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.4:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル	
49	12	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #878787 コントラスト比 : 3.6:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #6B6B6B コントラスト比 : 5.32:1	カラーサンプル	
50	12	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F05025 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.6:1 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル	
51	12	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #EB6418 コントラスト比 : 3.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #C8360E コントラスト比 : 5.26:1	カラーサンプル	
52	0	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #E73B17 コントラスト比 : 3.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #CC3314 コントラスト比 : 5.18:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
53	13	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	カラーサンプル	
54	13	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #1292D4 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.4:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル	
55	13	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #F05025 コントラスト比 : 3.6:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #C8360E コントラスト比 : 5.26:1	カラーサンプル	
56	13	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #00A7EC 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0079AD 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 4.84:1	カラーサンプル	
57	14	背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #E90973 背景色 : #EDDDE5 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #A2064F コントラスト比 : 7.84:1	カラーサンプル	
58	15	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFEC04 背景色 : #D03766 コントラスト比 : 3.9:1 前景色 : #FFED9E 背景色 : #B22A52 コントラスト比 : 5.33:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
59	15	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F5002D 背景色 : #FFFDFF コントラスト比 : 4.2:1 前景色 : #BD0023 背景色 : #FFFDFF コントラスト比 : 6.5:1	カラーサンプル	
60	15	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #D40051 背景色 : #E4DFDF コントラスト比 : 4.1:1 前景色 : #D40051 背景色 : #A3003F コントラスト比 : 6.05:1	カラーサンプル	
61	15	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #EEFDFA 背景色 : #22B674 コントラスト比 : 2.5:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #277C45 コントラスト比 : 5.17:1	カラーサンプル	
62	16	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。「る」の文字と背景色のコントラスト比が不足しています。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #E9978E コントラスト比 : 2.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #BE3627 コントラスト比 : 5.6:1	カラーサンプル	
63	16	背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #C57681 コントラスト比 : 3.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #B04A56 コントラスト比 : 5.3:1	カラーサンプル	
64	16	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #CB2EA9 背景色 : #FAF8F2 コントラスト比 : 4.4:1 前景色 : #B72A98 背景色 : #FAF8F2 コントラスト比 : 5.2:1	カラーサンプル	

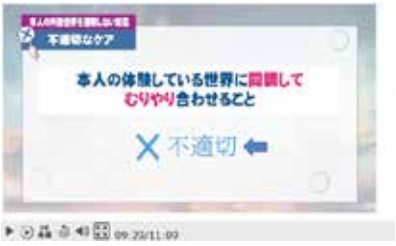
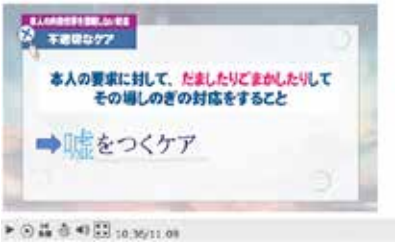
項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
65	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFE 背景色 : #92A12C コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #FFFFFE 背景色 : #505818 コントラスト比 : 7.63:1	カラーサンプル	
66	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #EBFF3E 背景色 : #0082B2 コントラスト比 : 3.9:1 前景色 : #EBFF3E 背景色 : #00698F コントラスト比 : 5.53:1	カラーサンプル	
67	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFF8 背景色 : #AD5400 コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #FFFFF8 背景色 : #AD5400 コントラスト比 : 5.19:1	カラーサンプル	
68	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル	
69	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル	
70	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル	

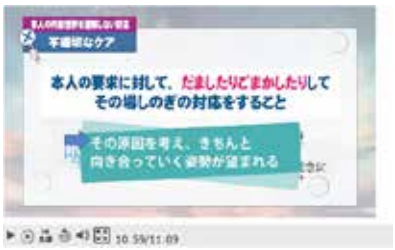
項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
71	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル	
72	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル	
73	17	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #ED4E16 背景色 : #F4F2E7 コントラスト比 : 3.3:1 前景色 : #A2330B 背景色 : #F4F2E7 コントラスト比 : 6.2:1	カラーサンプル	
74	18	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 コントラスト比 :7.87:1	カラーサンプル	
75	18	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 コントラスト比 :7.87:1	カラーサンプル	
76	18	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
77	18	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル	
78	18	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル	
79	18	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル	
80	20	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #E69E00 コントラスト比 : 2.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #8F6200 コントラスト比 : 5.36:1	カラーサンプル	
81	20	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFE 背景色 : #E69E00 コントラスト比 : 2.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #8F6200 コントラスト比 : 5.36:1	カラーサンプル	
82	20	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #7393A7 コントラスト比 : 3.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #516F81 コントラスト比 : 5.32:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
83	20	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #A69B77 コントラスト比 : 2.8:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #72704B コントラスト比 : 5.07:1	カラーサンプル	
84	22	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #F9D008 背景色 : #EC2E41 コントラスト比 : 2.8:1 前景色 : #FDEA7C 背景色 : #A30F1E コントラスト比 : 6.51:1	カラーサンプル	
85	22	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #EF464A 背景色 : #FFFAF9 コントラスト比 : 3.6:1 前景色 : #D41114 背景色 : #FFFAF9 コントラスト比 : 5.21:1	カラーサンプル	
86	22	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FBD10A 背景色 : #D35821 コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #FDEA7C 背景色 : #A30F1E コントラスト比 : 6.51:1	カラーサンプル	
87	24	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #EEFDFA 背景色 : #22B674 コントラスト比 : 2.5:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #277C45 コントラスト比 : 5.17:1	カラーサンプル	
88	24	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F9FEFF 背景色 : #2AABE2 コントラスト比 : 2.6:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 コントラスト比 : 7.87:1	カラーサンプル	

項番	ファイルNo	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
89	28	文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#F25A25 背景色：#E8F5F1 コントラスト比：3:1 前景色：#A9340A 背景色：#E8F5F1 コントラスト比：5.89:1	カラーサンプル	
90	28	文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FEFF00 背景色：#45AEFE コントラスト比：2.2:1 前景色：#FEFF00 背景色：#0165B2 コントラスト比：5.56:1	カラーサンプル	
91	28	文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFFFFF 背景色：#45AEFE コントラスト比：2.4:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#0165B2 コントラスト比：5.99:1	カラーサンプル	
92	28	文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#F4FCEE 背景色：#8EBE69 コントラスト比：2.1:1 前景色：#F4FCEE 背景色：#4D7231 コントラスト比：5.31:1	カラーサンプル	
93	28	文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFCFD 背景色：#ED869A コントラスト比：2.4:1 前景色：#FFFCFD 背景色：#CC1E41 コントラスト比：5.3:1	カラーサンプル	
94	28	文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#F8FDFF 背景色：#21AFE5 コントラスト比：2.5:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#127197 コントラスト比：5.47:1	カラーサンプル	

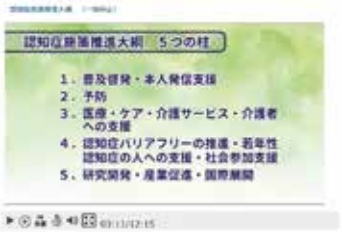
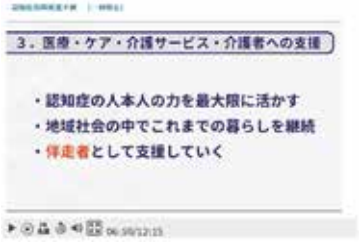
項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
95	28	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #EBFF03 背景色 : #239DB1 コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #EBFF03 背景色 : #186E7B コントラスト比 : 5.29:1	カラーサンプル	
96	28	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 複数個所に有ります。	前景色 : #E4F2F1 背景色 : #73A49B コントラスト比 : 2.4:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #4B726A コントラスト比 :5.36:1	カラーサンプル	
97	28	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #2393EB 背景色 : #DBEBFA コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0D61A0 背景色 : #DBEBFA コントラスト比 : 5.34:1	カラーサンプル	
98	28	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #2294ED 背景色 : #F4F4F7 コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #0D61A0 背景色 : #F4F4F7 コントラスト比 : 5.91:1	カラーサンプル	
99	28	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #2AABE2 コントラスト比 : 2.6:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #127197 コントラスト比 : 5.47:1	カラーサンプル	
100	28	サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #2AA9DF 背景色 : #EBECF1 コントラスト比 : 2.3:1 前景色 : #0D61A0 背景色 : #F4F4F7 コントラスト比 : 5.91:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
101	28	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FEFFFF 背景色 : #00AA9D コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #FEFFFF 背景色 : #00756C コントラスト比 : 5.57:1	カラーサンプル	
102	32	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #4AB901 背景色 : #E8EFF4 コントラスト比 : 2.2:1 前景色 : #276001 背景色 : #E8EFF4 コントラスト比 : 6.55:1	カラーサンプル	
103	32	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #989898 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #575757 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 7.22:1	カラーサンプル	
104	34	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #166FAB 背景色 : #CDEAF1 コントラスト比 : 4.3:1 前景色 : #166FAB 背景色 : #11496E コントラスト比 : 7.55:1	カラーサンプル	
105	34	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #E6FFFF 背景色 : #279DD1 コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #E6FFFF 背景色 : #1C7297 コントラスト比 : 5.15:1	カラーサンプル	
106	34	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FAFDFB 背景色 : #538A61 コントラスト比 : 4:1 前景色 : #FAFDFB 背景色 : #45734D コントラスト比 : 5.37:1	カラーサンプル	

項番	ファイル No	問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所
107	36	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #CACACA 背景色 : #676767 コントラスト比 : 3.5:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #676767 コントラスト比 : 5.65:1	カラーサンプル	
108	36	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #00A7EB 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル	
109	37	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F3FAFD 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.3:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	カラーサンプル	
110	37	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FEFFFF 背景色 : #008D48 コントラスト比 : 4.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #277C45 コントラスト比 : 5.17:1	カラーサンプル	
111	37	文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #00A7EB 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル	

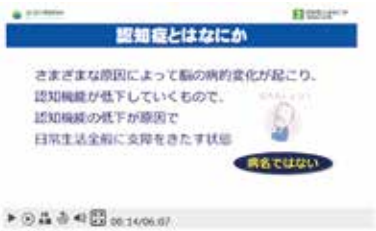
表 4-1-13　動画ファイルに関する画面ごとの課題点

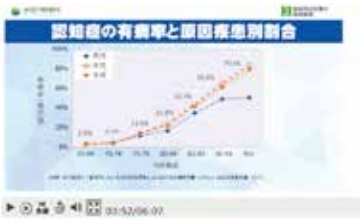
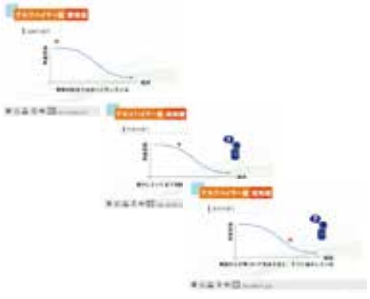
項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
1		全体	動画全体	**キャプション（収録済）**	A	キャプションを提供する	キャプションが用意されていません。 視覚によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報を視覚によってもれなく取得できるように、ナレーションやセリフ、効果音など音声によって表現されている情報を含めて、キャプションを作成します。	–
2		全体	動画全体	**音声解説（収録済）**	AA	音声解説を提供する	音声解説が用意されていません。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	–
3		全体	動画全体	**コントラスト（最低限）**	AA	文字のコントラスト比を満たしていることを確認する	コントラスト比シートを参照してください。	–
4		研修の目的	動画全体	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こしている 発話者などの情報も併せて伝える	動画内で表示されている文字情報の多くはナレーションで伝えられていますが、ナレーションのみで伝えられている情報もあります。 視覚のみで動画を閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。 また、BGM が鳴っている場合は、「(BGM が鳴っている)」や「(BGM) ♪～」などのような表現で、キャプションに含めるようにします。	
5		研修の目的	動画全体	**音声解説（収録済）**	A	音声解説を提供する	動画内で表示されている文字情報の多くはナレーションで伝えられていますが、ナレーションのみで伝えられている情報もあります。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。	
6		研修の目的	動画全体	**音声解説（収録済）**	AA	音声解説を提供する	動画内のナレーションで伝えられている情報と、動画内の映像で表示されている文字情報が一致していない部分があります。「心理症状（BPSD）」、「学習前の確認」などに差異が見られます。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。	
7	序章	認知症施策推進大綱	0:01 ～	**キャプション（収録済）**	A	動画の理解に影響しない音楽（BGM）の場合は♪を付けるなどして音楽が流れていることを伝える	動画の冒頭で音楽がなっています。 BGM が鳴っている場合は、「(BGM が鳴っている)」や「(BGM) ♪～」などのような表現で、キャプションに含めるようにします。	

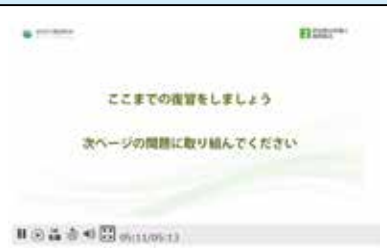
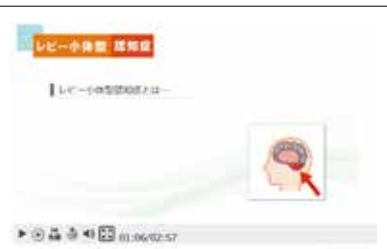
項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
8		認知症施策推進大綱	0:58 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では引用されている出典が表示されていますが、音声では伝えられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には、出典の情報が伝わらない状態です。 音声によって閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
9	序章	認知症施策推進大綱	1:44 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画ではタイトルが表示されていますが、音声では伝えられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には、タイトルが伝わらない状態です。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。	
10		認知症施策推進大綱	3:07 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	ナレーションでは「ご覧の 5 つの柱が～」と話していますが、「1. 普及啓発・本人発信支援」～「5. 研究開発・～」までは読み上げられないため、音声で閲覧している利用者には、柱の内容が伝わらない状態です。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。	
11		認知症施策推進大綱	5:12 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では、引用された動画のタイトルなどが表示されていますが、音声ではその情報が読み上げられていないため、音声で閲覧している利用者に伝わらない状態です。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。	
12		認知症施策推進大綱	6:18 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	ナレーションで「2. 予防」の施策の内容を説明しているシーンのうち、「介護予防教室なにわ元気塾」で実際に取り組んでいる様子が画面に表示されていますが、音声で閲覧している利用者には、「実際に取り組んでいる人々の様子」の情報が伝わらない状態です。 音声によって閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
13		認知症施策推進大綱	6:59 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「伴走者」がほかテキストと異なる色によって表現されていますが、色覚などに問題がある利用者からはわかりにくい状態です。 強調を意図している場合、下線やフォントの大きさなど、色以外で強調されていることがわかるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
14	第１章	１．パーソン・セ ンタード・ケア	0:01 ～	**キャプション（収録済）**	A	動画の理解に影響しない音楽（ＢＧＭ）の場合は♪を付けるなどして音楽が流れていることを伝える	動画の冒頭で音楽がなっています。 BGM が鳴っている場合は、「(BGM が鳴っている)」や「(BGM) ♪～」などのような表現で、キャプションに含めるようにします。	
15		１．パーソン・セ ンタード・ケア	00:38 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	背景に表示されている人物や様子など、視覚では登場人物に関する情報が伝わりますが、音声で閲覧している利用者には伝わりません。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
16		１．パーソン・セ ンタード・ケア	5:24 ～ 42	**キャプション（収録済）**	A	動画の理解に影響しない音楽（ＢＧＭ）の場合は♪を付けるなどして音楽が流れていることを伝える	ナレーションの背景として、Ｙさんが畑の手入れをしている様子とＹさんの音声が再生されています。 主の情報はナレーションが伝えており、Ｙさんの発話内容を書き起こさなくてもよいと考えられます。動画の理解に影響しない音楽（BGM）と同様に、Ｙさんが話している声がバックグラウンドとして入っていることを伝えるようにします。	
17		１．パーソン・セ ンタード・ケア	5:43 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	該当のシーンでは、ナレーションはなく、Ｙさんと(映像に映っていない) もう一人との会話の音声が聞き取れる状態です。 コンテンツとして、Ｙさんの会話が、畑で楽しく過ごしている様子を伝えるための情報として重要であれば、発話者とセリフをキャプションに書き起こすようにします。	
18		１．パーソン・セ ンタード・ケア	8:36 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	画面に表示されている画像や、「認知症という病気を～」「サービス提供者側が～」といったテキストボックスが順を追って表示される様子など、視覚で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
19		２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	0:39 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内にトム・キットウッド氏と思われる人物像と、フルネームや生没年、人物の説明などが表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
20	第１章	２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	1:13 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画の下部に記載されている出展について、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
21		２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	0:38 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	画像では「S さんの困りごと」というタイトルが表示されていますが、音声では読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には、シーンのタイトルの情報が伝わらない状態です。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。	
22		２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	0:38 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている発話者などの情報も併せて伝える	ナレーションから、S さん本人の音声へ切り替わっています。視覚によって閲覧している利用者にも、発話者が変更されたことがわかるように、「(S さん) いろんな、みんなで歌を歌う機会も～」のように発話者の情報を記載するようにします。	
23		２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	1:03 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	S さんがグループホームで過ごしている様子を音声解説で伝えるようにします。	
24		２．認知症の人への偏見・誤解とその解消	0:38 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている発話者などの情報も併せて伝える	ナレーションから、S さん本人の音声へ切り替わっています。視覚によって閲覧している利用者にも、発話者が変更されたことがわかるように、「(S さん) いろんな、みんなで歌を歌う機会も～」のように発話者の情報を記載するようにします。	
25		３．介護者の視点	4:33 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	映像に文字が表示されていますが、音声あるいはトランスクリプトによる情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
26	第１章	３．介護者の視点	4:38 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	動画内で表示されている文字情報のうち、ナレーションのみで伝えられている情報もあります。 視覚のみで動画を閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。	
27		３．介護者の視点	6:23 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	動画内で表示されている文字情報のうち、ナレーションのみで伝えられている情報もあります。 視覚のみで動画を閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。	
28		３．介護者の視点	7:22 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内では多くの文字情報が表示されていますが、音声ではすべてが伝えられておらず、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
29		４．認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援とは	2:13 ～	**音声解説（収録済）**	AA	音声解説を提供する	「（出展）厚生労働省～」の文字列が動画内で表示されていますが、ナレーションなど音声では読み上げられていません。そのため、音声によって動画を閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。	
30	第２章	１．認知症とはなにか②	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画に表示されている「病名ではない」情報がナレーションでは伝えられていないため、音声で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
31		１．認知症とはなにか②	00:23 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	ナレーションでは説明が続いていますが、画面上ではタイトル以外の情報が表示されておらず、視覚によって閲覧している利用者に情報が伝わらない状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
32	第２章	１．認知症とはなにか②	1:03 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画に表示されている「息子に牛乳を～」などの情報がナレーションでは伝えられていないため、音声で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
33		１．認知症とはなにか②	3:52 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画に表示されているグラフの数値や出典などの情報がナレーションでは伝えられていないため、音声で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
34		１．認知症とはなにか②	5:23 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	ナレーションでは「2020 年の東京長寿～」などの情報を読み上げていますが、動画では文字情報として表示されておらず、視覚で閲覧している利用者に情報が伝わらない状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。	
35		２．認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状	0:00 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。	
36		２．認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状	0:09 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こす 発話者などの情報も併せて伝える	聴覚に障害があったり、音が出せない環境で閲覧している利用者は、「認知症は病名ではありません。」など、ナレーションのみで伝えられる情報を知ることができません。 ナレーションで伝えている情報をキャプションとして用意します。	
37		２．認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状	4:29～4:55	**音声解説（収録済）**	AA	音声解説を提供する	映像では、なだらかな下降曲線のグラフが表示され、グラフの縦軸横軸がそれぞれ「認知機能」「経過」、グラフの説明として「病気の始まりはゆっくりしている」といったことが視覚的に確認できます。 ナレーションには含まれない、映像内の情報を持つビジュアル要素については、音声でどのような情報がビジュアルで伝えられているかを説明し、音声のみで閲覧している利用者にも情報が把握できるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
38	第２章	２．認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状	5:09 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
39		２．血管性認知症の原因と主要な症状	2:08 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「比較的急激に発症」の「急激に」について、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストを太字にするなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	
40		２．血管性認知症の原因と主要な症状	00:42 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている発話者などの情報も併せて伝える	「しかし、B さんは悲観的なことを言うこともなく、特に困ったこともありません」など、B さんの様子について動画に表示されている説明以外の情報をナレーションのみで説明しています。 音声のみで閲覧している利用者には、動画内に表示される情報以外が伝わらない状態です。 音声で伝えられている情報をキャプションに書き起こします。	
41		２．血管性認知症の原因と主要な症状	1:00 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	「あの～」や「えっと」など、動画内に表示されている文字情報や、B さんの表情の様子の違いなど、音声によって動画を閲覧している利用者には伝わらない状態です。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
42		２．レビー小体型認知症の原因と主要な症状	1:06 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内では、小脳あるいは脳幹と思われる場所が赤く塗られ、矢印で指し示されていますが、同シーン内でナレーションでは脳内の場所については説明されていません。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
43		２．前頭側頭型認知症の原因と主要な症状	1:20 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内では、「やきとり」と書かれた提灯を見て D さんが「やきとり！」と読み上げている様子が表示されていますが、音声のみで閲覧している利用者には伝わらない状態です。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	

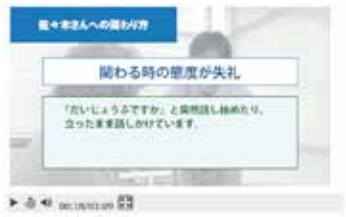
項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
44	第２章	２．前頭側頭型認知症の原因と主要な症状	1:49 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内では、症状の特徴に１～４までの番号が振られていますが、音声では読み上げられていません。 また、後続のシーンで、画面左上にスライドの見出し的に「1 人格変化」などが表示されていますが、こちらも音声では読み上げられていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。	
45	第３章	１．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解②	0:26 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内では、BPSD のフルスペルが表示されていますが、音声では読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
46		１．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解②	00:29 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内で、人物がうろうろしている様子や、介護者のセリフなどが表示されていますが、音声で閲覧している利用者にはその情報が伝わらない状態です。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
47		１．認知症の中核症状と行動・心理症状の理解②	1:59 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明されていますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。（また、タイムスタンプが動いていても、動画が正しく再生されているかがわからない、など利用者が混乱する可能性があります。） ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
48		２．中核症状の生活への影響	0:21 ～ 1:47 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「電話があったこと自体」がほかのテキストと異なる色で表現されており、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストに下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
49	第３章	２．中核症状の生活への影響	0:11 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	ナレーションでは画面に表示される多くの情報を読み上げていますが、「E さんのある昼」など、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
50		３．中核症状が心理面に与える影響	2:25 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「なにを考えていた」や「どのような気持ち」のテキストがほかの色と異なっており、色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストを太字にするなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	
51		３．中核症状が心理面に与える影響	6:12 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「心理面」がほかのテキストと異なる色で表現されており、、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストに下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	
52		３．中核症状が心理面に与える影響	7:08 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明していますが、動画では情報の一部のみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
53		４．行動・心理症状のとらえ方と出現原因	0:20 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「＝問題行動」はテキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を設定するなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	
54		４．行動・心理症状のとらえ方と出現原因	1:01 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明されていますが、動画では表示されている内容はそのうちの一部にとどまっています。視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容がすべて伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
55	第３章	５．認知症の人にとっての環境①	0:00 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。	
56		５．認知症の人にとっての環境②	0:01～0:04	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画ではタイトルが表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に動画タイトルなどの情報が伝わっていません。 動画のタイトルをナレーションで読み上げるようにするか、音声解説によって利用者に伝わるようにします。	
57		５．認知症の人にとっての環境②	0:01～0:04	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明が始まりますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。（また、再生はされているけれども、動画そのものが始まっているかもわかりにくい状況と考えられます。） ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
58		５．認知症の人にとっての環境②	00:15 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では「・混乱しにくい住環境」や「・安定した関係性の構築」といった、各環境例が表示されていますが、音声では読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には各環境の例という情報が伝わっていません。 音声解説あるいはトランスクリプトによって、動画内で表示されている文字情報が、音声によって動画を閲覧している利用者に伝わるように用意します。	
59		５．認知症の人にとっての環境②	0:32 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	動画では例として「トイレの場所に関する工夫」が表示されていますが、ナレーションで紹介されている自室の例は画面に表示されていません。そのため、視覚で閲覧している利用者に自室の例に関する情報が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
60		５．認知症の人にとっての環境②	1:55	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「自宅に近い」がほかテキストと異なる色によって表現されており、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストを太字にするなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
61	第３章	６．健康管理①	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。	
62		６．健康管理②	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	画面ではスライドタイトルが表示されていますが、ナレーションではタイトルが読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
63		６．健康管理②	0:01 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「疾病」や「ケガ」など、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	
64		６．健康管理②	1:47 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明されていますが、動画ではタイトルと、ボックスが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
65		６．健康管理②	3:13 ～	**キャプション（収録済）**	A	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	内容についてナレーションで説明されていますが、動画で表示されている文字情報と異なっている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、音声で説明されている内容が伝わらりません。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
66	第４章	１．認知症の治療①	0:07 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	聴覚に障害があったり、音が出せない環境で閲覧している利用者は、ナレーションのみで伝えられる情報を知ることができません。 ナレーションで伝えている情報をキャプションとして用意します。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
67	第４章	１．認知症の治療②	0:13 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	画面ではスライドタイトルが表示されていますが、ナレーションではタイトルが読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
68		１．認知症の治療②	00:13 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	画面で表示されている文字情報と、ナレーションによって説明される内容や文言に差異があります。視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
69		１．認知症の治療②	1:56 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	画面で表示されている文字情報と、ナレーションによって説明される内容や文言に差異があります。視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
70		２．認知症の人の適切な関わり方（事例演習）	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画ではタイトルが表示されていますが、読み上げられていません。音声によって動画を閲覧している利用者には、情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
71		２．認知症の人の適切な関わり方（事例演習）	0:17 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明されていますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
72		２．認知症の人の適切な関わり方（事例演習）	00:32 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では、佐々木さんがお茶を飲んだり、お菓子のことが気になって手を机の上で動かしたりする様子や、介護者が話しかける様子などが映像情報として伝えられていますが、音声で閲覧している利用者には、どんな部屋なのか、佐々木さんの表情といった佐々木さんの様子に関する情報が伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
73	第４章	解説動画をみてみましょう	0:18 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	動画では佐々木さんへの関わり方のポイントが表示されていますが、ナレーションでは、画面に表示されていないポイントを説明しています。 視覚で閲覧している利用者に情報が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
74		解説動画をみてみましょう	0:00 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明が始まりますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。（また、再生はされているけれども、動画そのものが始まっているかもわかりにくい状況と考えられます。） ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
75		解説動画をみてみましょう	動画全体	**音声解説（収録済）**	AA	音声解説を提供する	動画ではタイトルが表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に動画タイトルなどの情報が伝わっていません。 動画のタイトルをナレーションで読み上げるようにするか、音声解説あるいによって利用者に伝わるようにします。	
76		解説動画をみてみましょう	動画全体	**音声解説（収録済）**	AA	音声解説を提供する	音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。 動画の背景画像（介護施設と思われる部屋に二人の人物がいること、二人がどのような人物か、また片方が話しかけている様子など）に関する説明や、「適切な言葉づかいと態度」「見当識障害～」といった時間を追ってテキストボックスがどのように表示されているかといった様子などもわかるようにします。	
77		２．認知症の人の適切な関わり方②	7:26 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内では多くの文字情報が表示されていますが、音声ではすべてが伝えられておらず、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 「理解できない言葉」について、画面では例が記載されていますが、音声解説によって情報を得られるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
78	第４章	２．認知症の人の適切な関わり方②	4:40 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	画面ではスライドタイトルが表示されていますが、ナレーションではタイトルが読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
79		２．認知症の人の適切な関わり方②	7:32 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明されていますが、動画では説明が表示されていません。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
80		２．認知症の人の適切な関わり方②	9:08 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	ナレーションで画面に表示された文字情報について説明していますが、映像で「× 不適切」の吹き出しが表示されるといった映像の動きについては、音声で閲覧している利用者には伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
81		３．認知症の症状への対応（事例演習）	0:01 ～ 0:30	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画ではタイトルが表示されていますが、読み上げられていません。音声によって動画を閲覧している利用者には、情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説用意します。	
82		３．認知症の症状への対応（事例演習）	0:01 ～ 0:30	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明されていますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
83		３．認知症の症状への対応（事例演習）	0:30 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では、佐々木さんがお茶を飲んだり、お菓子のことが気になって手を机の上で動かしたりする様子や、介護者が話しかける様子などが映像情報として伝えられていますが、音声で閲覧している利用者には、どんな部屋なのか、佐々木さんの表情といった佐々木さんの様子に関する情報が伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
84	第４章	解説動画をみてみましょう	動画全体	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明されていますが、動画で表示されている文字情報と異なっている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、音声で説明されている内容が伝わらりません。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
85		解説動画をみてみましょう	動画全体	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	内容についてナレーションで説明されていますが、動画で表示されている文字情報と異なっている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、音声で説明されている内容が伝わらりません。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
86		３．認知症の症状への対応②	0:01 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	ナレーションで説明されている情報と、動画内で表示されている文字情報が異なるため、視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
87		３．認知症の症状への対応②	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	ナレーションで説明されている情報と、動画内で表示されている文字情報が異なるため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
88		３．認知症の症状への対応②	0:54 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	動画内の吹き出し「初めて」が、ほかのテキストと異なる色で表現されており、強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	
89		３．認知症の症状への対応②	2:15 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	動画内で表示されていない内容についてナレーションで説明しており、視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
90	第４章	３．認知症の症状への対応②	2:26 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	ナレーションで説明されている内容について、例として画像内のイラストや効果などで表現されていますが、音声で閲覧している利用者には伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
91		３．認知症の症状への対応②	3:49 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	動画内で表示されていない内容についてナレーションで説明しており、視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
92		３．認知症の症状への対応②	5:00 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	ナレーションで説明されている内容について、例として画像内のイラストや効果などで表現されていますが、音声で閲覧している利用者には伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	
93		４．意思を尊重する支援方法とは①	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。	
94		４．意思を尊重する支援方法とは②	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	画面ではスライドタイトルが表示されていますが、ナレーションではタイトルが読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
95		４．意思を尊重する支援方法とは②	0:01 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「意思を尊重」や「表明しやすい」の文字列が、ほかのテキストと異なる色で表現されており、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
96	第４章	４．意思を尊重する支援方法とは②	03:47 ～	**キャプション（収録済）**	A	キャプションを提供する	ナレーションの説明と画像に表示された文字情報が一致していないため、視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
97		５．チームケアの基本	0:01 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	ナレーションでは内容が説明されていますが、視覚的には確認することができません。そのため、視覚で閲覧している利用者には伝わらない情報があります。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
98		５．チームケアの基本	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画ではタイトルが表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者にはその情報が伝わりません。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
99		５．チームケアの基本	00:47 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では、ナレーションに含まれていない文字情報が表示されており、音声で閲覧している利用者には伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
100		５．チームケアの基本	00:42 ～	**色の使用**	A	映像の内容を理解するために必要な情報を色のみで提供していないことを確認する	「うまくいったのか」や「うまくいかなかったのか」が、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。	
101		５．チームケアの基本	1:34 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	ナレーションでは、動画で表示されていない情報が説明されています。そのため、視覚で閲覧している利用者には伝わらない情報があります。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
102	第４章	６．家族介護者の理解と支援方法①	1:42 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画ではタイトルが表示されていませんがナレーションでは読み上げられておらず、そのため音声で閲覧している利用者にはタイトルの情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
103		６．家族介護者の理解と支援方法①	1:42 ～	**キャプション（収録済）**	A	発話内容を全て書き起こされている 発話者などの情報も併せて伝える	ナレーションでは、動画の画面に表示されていない情報を説明していますが、視覚によって閲覧している利用者には伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。	
104		６．家族介護者の理解と支援方法①	2:39 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では説明されている内容の出典が表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため音声で閲覧している利用者には出典の情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
105		６．家族介護者の理解と支援方法①	4:23 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画内では多くの文字情報が表示されていますが、音声ではすべてが伝えられておらず、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
106		６．家族介護者の理解と支援方法②	0:01 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画ではタイトルが表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報があります。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	
107		６．家族介護者の理解と支援方法②	00:18 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では、A さんの表情が相談したりやアドバイスを受けることによって明るくなっている様子が表現されています。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	

項番	学習章	学習項目	タイムスタンプ ※ 複数の場合は代表するもの	達成基準	適合レベル	チェック内容	問題点	スクリーンショット
108	第 4 章	6．家族介護者の理解と支援方法②	1:05 ～	**音声解説（収録済）**	AA	映像に含まれる動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報を全てテキストに書き起こす	動画では、タイトルや、それぞれのサービス内容が表示されていますが、音声では説明されていません。そのため、音声で閲覧している利用者には伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。	

する必要がある。このように画面内に表記されている視覚によって認識可能な情報を全て音声情報にして解説する必要性が指摘されている。また項番 11 の画面では女性がマイクを持ち大きな会場で聴衆を前にして話をしているシーンが表示されるが、視覚情報の認識が困難な場合、話をしている女性の発語しか認識ができず場面状況に関する音声ナレーションによる解説が必要となる。あるいは項番 19 の画面にように画面内に表示されているテキスト量が多い場合は音声ナレーションでは全てを解説していない場合が多く、この場合も視覚情報の認識が困難な方は一部の学習内容を認識できない可能性が高いため、画面内に表示される全ての情報について音声解説が必要となる。項番 32 における画面のようにイラストアニメーションについても動画映像表示と同様に状況に関する音声解説が必要であり、このイラストアニメーションにおける吹き出し内のセリフ全てを音声解説する必要がある。項番 33 に示されるグラフや表などの数値情報についても、通常はグラフを視聴しながらナレーションで傾向や特徴の学習を行うが、視覚情報の認識が難しい場合は、グラフに表記される情報全てを音声によって解説する必要がある。項番 37 に示されるような 3 つのイラストの対比によって説明がなされている場合も、全てのイラストの情報について音声解説を行った上で、学習内容に関するナレーションを準備する必要がある。以上のように、動画映像、イラスト、グラフ、表、イラストアニメーションなど視覚による情報表示を特徴とする e ラーニングコンテンツでは、視覚情報の認識が困難な場合の学習に大きな障壁が生じやすいため、ユニバーサルな多くの方が利用できる学習コンテンツを構築する上で音声解説によるアクセシビリティの向上は必須の機能と考えられる。

（ⅲ）キャプションに関する問題点の例（表 4-1-13）

キャプションに関する問題点の例としては、項番 4 の画面では背景で BGM が流れており聴覚情報の認識が困難な場合、認識が難しいためテキスト情報によって音楽が流れていることを表示する必要がある。また、画面内の表示テキストはタイトルのみであるがナレーション音声ではこの学習科目に関する概要を説明しており、画面に表示されている情報以外の情報を音声で伝えているため、全てのナレーション情報をテキスト表示する必要がある。項番 16 では人が他者に対して発話し会話をしている動画であるが、聴覚情報の認識が困難な場合は会話内容が認識できないため会話内容も全てテキスト表示する必要がある。

（ⅳ）色の使用に関する問題点の例（表 4-1-13）

色の使用に関する問題点の例としては、項番 13 に示される画面では「伴走者」も文字が赤色で示されており強調されているが、色覚情報の認識が困難な場合、強調されている用語や部分を認識できない場合があるため、下線や波線、太字など色を使用せず強調することが必要となる。色によって学習内容を強調する場合は、色覚認識が困難な場合を想定し形態上で強調することが重要である。

２．検証結果に対する問題点の修正

１）操作機能に関する問題点の修正（表 4-2-1）

(1) HTML チェッカーによる検証結果への対応

HTML チェッカーによる操作画面に関する検証の結果、「原則 4 堅牢性の構文分析」「原則 1 知覚可能性の情報及び関係性」「原則 2 操作性のラベルまたは説明」「原則 2 操作性のページ言語」「原則 1 知覚可能性の非テキストコンテンツ」に関する 4 つの基準に関する問題点が指摘された。これら 4 つの達成基準に関する主な問題点別の対応内容を表 4-2-1 に示す。HTML チェッカーによる検証では主に HTML 文法に関する矛盾や齟齬の問題点が中心であるため、対応についても HTML を構成している要素あるいは要素の属性に関する追加、変更、削除等によって問題点の修正を行った。

(2) 目視検証による結果への対応

操作画面についてアクセシビリティ検証の技術者 3 名の目視によって検証を実施した結果、「原則 2 操作性の情報及び関係性」「原則 1 知覚可能性の非テキストコンテンツ」「原則 1 知覚可能性のコントラスト」「原則 1 知覚可能性の文字画像」「原則 3 理解可能性」「原則 3 操作可能性」に関する達成基準内容において問題点が検証されており、各達成基準別の代表的な問題点に対する対応内容について表 4-2-1 に示した。それぞれの問題点に対して HTML 要素および要素の属性の追加、変更、削除等によって修正を実施した。

特に非テキストコンテンツに関する指摘については、「alt 属性（代替テキスト情報）が無い」「alt 属性における代替テキストと画像情報の不一致性」「alt 属性における代替テキストの不足」など alt 属性に関する指摘が多いため、テキスト情報になっていない文字画像部分について代替テキスト情報を追記して対応した。

(3) コントラスト比の問題に対する対応

操作画面に関するコントラスト比の問題点については文字色と背景色のコントラスト比 4.5：1 以下に関する指摘が多くを占めていることから、適合レベル AA で推奨されるコントラスト比 4.5：1 以上に修正した。

２）動画コンテンツに関する問題点の修正

(1) コントラスト比の問題に対する対応（表 4-2-2）

学習用に関する視聴用動画ファイルにおいて検証されたコントラスト比の問題については、全ての画面における文字色と背景色のコントラスト比を 4.5：1 以上に修正した。

(2) 音声解説の問題に関する対応（表 4-2-3、表 4-2-4）

視覚情報の認識が困難な場合に画面上の表示されている情報の全てを音声ナレーションにし、聴覚情報のみでも動画の表示内容が認識可能な仕様とした。

画面中に表示されている引用文献は音声ナレーションによって説明するよう修正した。また、テキスト表示以外の映像についても映写されている背景、画面状況、人物の所作等の説明文を作成し、全て音声ナレーションとして読み上げる仕様とした。映像動画と同様にイラストアニメーションについてもイラストの形態や動きなど全ての情報を

音声情報に変換し音声ナレーションとして読み上げる仕様とした。グラフや表などの数値情報についても、説明文を作成し音声ナレーションによって読み上げる仕様とした。以上のように、動画映像、イラスト、グラフ、表、イラストアニメーションなど視覚による情報表示を特徴とするｅラーニングコンテンツでは、視覚情報の認識が困難な場合の学習に大きな障壁が生じやすいため、ユニバーサルな多くの方が利用できる学習コンテンツを構築する上で音声解説によって知覚可能な修正を実施した。

以下は、学習コンテンツ内に用意されている介護事例動画についての状況説明をテキスト化した一例である。映像では、落ち着かない高齢女性に対して介護職員がコミュニケーンを取りながら対応している１分程度の映像となっており、学習内容としてはこの映像を参考に学習者が問いに解答する形式となっている。教育意図としては、高齢女性の表情やしぐさ、発声、ふるまいなど非言語的なサインや介護職員の発声、話し方、表情、姿勢、態度、しぐさなどを観察し適切な介護を学習する教材構成となっている。よって視覚情報の認識が困難な場合、学習に必要な音声情報以外の情報を知覚することが困難であり適切な学習に支障をきたすため、可能な限り音声以外の詳細な視覚情報を文字化し、音声情報として提示することが必要となる。

事例「お菓子が気になる佐々木さん」

・ある老人ホームの小さい会議室のような部屋で、高齢の女性が、四角いテーブルを前に、無表情な様子で椅子に座り、お茶が入った湯飲みを両手で持っている
・女性は、座ったまま机を見ながらきょろきょろと心配そうな表情で、右手をもっていた湯飲みから離し、右手で机をさすっている
・しばらくすると落ち着かない様子で左手でもっていた湯飲みを机におき、視線が定まらない様子で机の一点を見ながら、左手で机をさすり続けている
・そこへ急に、淡い緑色のポロシャツを第一ボタンまで閉め清潔な身なりをした、40 歳代？半ばくらいの女性の介護職員が笑顔であらわれ、高齢女性から 50 センチぐらい離れた机の際に立ったまま、女性の方に顔を近づけるように上半身を前傾し話しかけている
・話しかけられた高齢の女性は、ちょっと驚いた表情で、座ったまま女性職員の方に顔を向け、はっきりと返答している
・女性の介護職員は、先ほどと同じ位置と姿勢で、笑顔で顔を近づけて話しかけている
・話しかけられた高齢の女性は、女性の介護職員に言われたことには答えず、座ったまま、両手を机におき、職員の方には視線も向けず、うつろな表情で考え事をしているような様子で静止している
・高齢女性の様子に関係なく、女性の介護職員は話しかけ続けている
・高齢女性は女性の介護職員の方に少しだけ身体を向け、職員とは視線を合わせないままで、職員の腹部あたりを見ながら話している

・女性の介護職員は、笑顔で、同じ姿勢のまま、高齢女性の様子を気にも止めず話しかけ続けている
・高齢女性は、身体を少し揺らしながら落ち着かない様子で、女性の介護職員に視線も向けず、無反応で、前方に顔をむけたまま座っている
・反応があまりない高齢女性に対して、職員の女性は、顔をより近づけながら、少し真剣な表情で、やや強めの口調で話しかけている

(3) キャプションの問題に対する対応（表 4-2-3）

キャプションに関する問題点の修正については、背景でＢＧＭが流れており聴覚情報の認識が困難なファイルについて、音声ナレーションの内容を全てテキスト化し画面内に表示した。また画面内に表示されていない音声ナレーションについても全てテキスト化し画面内に表示をした。動画内において会話をしている内容についても全てをテキスト化し画面内に表示した。動画内の全ての音声ナレーションについては、画面内にテキスト表示し聴覚認識が困難な場合でも視覚情報として認識可能な仕様とした。

(4) 色の使用に関する問題への対応（表 4-2-5）

色の使用の問題点については、赤色など、色覚情報によって強調されているテキスト情報について、全ての強調部分を下線を加え形態上からも認識可能な修正を行った。

表 4-2-1　操作機能に関する修正内容（達成基準別主な対応）

達成基準	適合レベル	問題点	問題点に対する修正内容
文字画像	AA	文字が画像化されています。 画像化されている場合、色や大きさ、フォントの種類などを利用者が調整することができません。テキストで表現可能なものはテキストによって表現し、利用者が調整可能なようにします。	Alt で文言を追加
複数の手段	AA	利用者が目的のページを探し出す方法を複数用意する必要があります。 例えば、サイトマップや検索機能を実装します。	サイトマップを実装
非テキストコンテンツ	A	動画の再生・一時停止の状態にあわせてボタンのアイコンが変わるため、機能が切り替わったことが視覚的に利用者に伝わります。しかし、代替テキストは「再生・一時停止」で変わらないため、音声で閲覧している利用者には機能が切り替わったことが伝わらない状態です。 機能のオンオフによってアイコンが変更される場合、代替テキストもあわせて切り替えます。	ボタンが切り替わった際に alt 属性も変わるように修正
非テキストコンテンツ	A	発言者の画像に figure 要素を用いていますが、対象箇所は画像のキャプション（画像についての説明）がありませんので、figure 要素ではなく div 要素などでマークアップします。	figure 要素を廃止し、alt を追加
色の使用	A	表の下の文言が赤で表現されています。 文言が重要な意味を持つことを表現するために赤を用いている場合は、色だけでなくマークアップでも重要度にあわせた要素を用いるようにします。 また、視覚的には下線や太字など、色以外でも重要さが伝わるようにする なお、赤を装飾として用いている場合は問題に該当しません。	strong 要素に変更
情報及び関係性	A	「【Gmail・docomo 等のキャリアメールをご利用の皆様へ】」は後続の内容に対する見出し、 「★ Gmail は古いバージョンのままでは、～」や「★ docomo 等のキャリアメールは、～」はリストと考えられます。 情報のセマンティクスを表す要素でそれぞれマークアップするようにします。	dl 要素で適切な構造をもつように変更
情報及び関係性	A	「【事業所の登録方法について】」や「【受講者の登録方法について】　」など QA のカテゴリをあらわす見出しと考えられますが、セマンティクスを持つ要素でマークアップされていません。 後続の Q&A コンテンツの見出しに相当する意味を持つ要素でマークアップするようにします。	日本語版の当該ページはなくなったため未対応。
情報及び関係性	A	「■受講者情報」や「■決済情報」は後続のコンテンツ（テーブル）に対する見出しと考えられます。 テーブルの見出しの意味を表す要素でマークアップするようにします。 なお、「■」をテキストを目立たせるために用いている場合は装飾にあたりますので、CSS で表現するようにします。	th 要素に変更しました。
情報及び関係性	A	「TOP に戻る」のあとに空の p 要素があります。 不要な空の要素は削除します。	空の p 要素を削除
情報及び関係性	A	「コンテンツを視聴～」～「対応ブラウザ」は以下のような構造になっていると思われます。 コンテンツを視聴するための動作環境 └必須環境： 　└HTML5 対応ブラウザ および～ └対応端末： 　└上記環境を満たした PC・各種～ └対応ブラウザ 　└：Microsoft Edge，Google Chrome，～ 上記のような入れ子の構造が伝わるようにマークアップを調整します。	それぞれ適切な要素に修正
情報及び関係性	A	「受講料」「事業所担当者の皆様へ」「ログイン」など、情報の構造から見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 逆に、「事業所の受講料一括支払はこちら（上記の地域の方）」ボタンが h3 要素でマークアップされており、文書構造と異なる状態と考えられます。 コンテンツ全体の構造を再確認し、見出しとしてマークアップするべき内容にのみ見出し要素を用いるようにします。	h3 要素に変更

達成基準	適合レベル	問題点	問題点に対する修正内容
情報及び関係性	A	「ほかの言葉はこちら」が dl 要素でマークアップされており、その子孫に dt 要素がありません。 メインメニュー └ Mypage TOP └修了証書発行 └操作マニュアル～ └お問い合わせフォーム └ほかの言葉はこちら という情報構造を意図している場合は、 <dl> <dt> メインメニュー └ <dd>Mypage TOP └ <dd> 修了証書発行 └ <dd> 操作マニュアル～ └ <dd> お問い合わせフォーム └ <dd> ほかの言葉はこちら のように、ひとつの dl 要素でまとめるようにします。 「ほかの言葉はこちら」は、「メインメニュー」の子の項目ではない場合は、dt 要素に相当する情報がコンテンツにありませんので、セマンティクスに即したほかの要素によってマークアップするようにします。	「ほかの言葉はこちら」の <dl> 要素を削除。
情報及び関係性	A	「やさしい日本語（N4） ／ Japanese（N4）」の前に空の li 要素があります。 不要な空の要素は削除します。	空の li 要素を削除
情報及び関係性	A	「ログイン」フォームの各入力欄に対してテキストラベルは用意されていますが、入力欄とテキストラベルが関連付けられていません。 label 要素などを用いて、テキストラベルと入力欄を関連付けます。	→ <label> 要素に変更＋紐づけ。
情報及び関係性	A	「ログイン ID が分からなくなった場合に、～」などの文章が div 要素でマークアップされています。 div 要素はセマンティクスを持たない要素ですので、情報とマークアップが一致していない状態です。 それぞれのコンテンツがもつ情報に合わせたセマンティクスを持つ要素でマークアップするようにします。例えば、段落の場合は p 要素を用います。	修正対応しました。(1/30) p 要素に変更しました。
情報及び関係性	A	「送信（パスワード再設定）」のあとに空の dd 要素があります。不要な空の要素は削除します。	空の dd 要素を削除
情報及び関係性	A	br 要素によって間隔を空けるような視覚的なレイアウトを行っている箇所があります。間隔などレイアウトの調整は CSS で行うようにします。	br 要素を削除
情報及び関係性	A	dl 要素の子に空の p 要素があります。 dl 要素の子には p 要素を持つことはできません。また、空の要素となっていますので、削除するようにします。	修正対応いたしました。(2/3) 空の p 要素を削除しました。
情報及び関係性	A	dl 要素の子として div 要素や form 要素などが用いられています。いずれも、dl 要素の子として持つことはできません。HTML の仕様に即してマークアップするようにします。	dl 要素を廃止。
情報及び関係性	A	dl 要素の子として form 要素や p 要素が用いられています。いずれも、dl 要素の子として持つことはできません。HTML の仕様に即してマークアップするようにします。	dl 要素の子を dt、dd のみに修正
情報及び関係性	A	dl 要素の子に dt 要素がなく、dd 要素のみ用いられています。 dt 要素と dd 要素は 1 対 1 あるいは 1 対多のようにペアで用いる必要がありますので、dt 要素を省略することはできません。 「サンプル動画」～「お問い合わせフォーム」は一つのまとまりをもつコンテンツと考えられます。 項目一つずつで区切るのではなく、以下のように一つまとまりのリストとしてマークアップするようにします。 ul └ li サンプル動画再生 └ li 操作マニュアル （認知症介護基礎研修受講者用） └ li お問い合わせフォーム	ul 要素に変更
情報及び関係性	A	h1 要素が重複しています。 ロゴ（h1 要素）のマークアップを修正することで問題は解消されますが、ロゴのマークアップを修正しない場合は、該当箇所の見出し要素のレベルを調整する必要があります。	ロゴの h1 要素を廃止

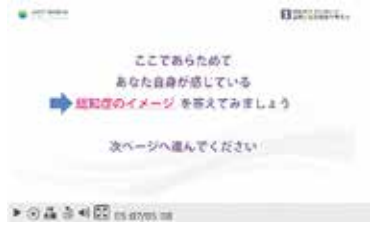
達成基準	適合レベル	問題点	問題点に対する修正内容
情報及び関係性	A	該当箇所は、以下のような構造になっていると考えられます。 返金・返品・キャンセルに関する特約 └1．受講を開始していない場合 　└(1) 受講者ＩＤ発行日以後～ 　└(2) 受講料を支払っている場合は、～ └2．受講を開始している場合 　受講開始後のキャンセルおよび～ └3．手続き方法 　└・キャンセルについては、～ 　└・コンビニ店舗では返金を～ 1., 2., (1), (2) など番号が振られている項目は順序に意味があるリスト（ol/li 要素）、番号が振られていない項目は順序が異なっていても問題がないリスト（ul/li 要素）のように、情報の階層構造が伝わるようにマークアップします。 なお、「・キャンセルについては、～」を ul/li 要素でマークアップする場合、「・」はリストビュレットとして CSS で記述するようにします。	正しい構造になるよう修正
情報及び関係性	A	回答例（「「うちに帰りたいんですね」といった～」など）がセマンティクスを持たない div 要素でマークアップされています。 段落やリストなど、文書構造に沿って適切にマークアップします。	ul 要素に変更
情報及び関係性	A	コンテンツの情報構造上、見出しと考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 後続のコンテンツの内容を表す情報は見出しの意味を持つ要素でマークアップするようにします。	指摘箇所を見出し要素に変更。
情報及び関係性	A	コンテンツの情報構造上、ページの主題と考えられる内容が見出しとしてマークアップされていません。 ページの主題と考えられる見出しは h1 要素でマークアップするようにします。	全ページに適切な h1 要素を設定
情報及び関係性	A	コンテンツの情報構造上、見出しと思われる内容が見出しとしてマークアップされていません。 該当箇所が見出しの意味を持つ場合は、意味に応じた要素でマークアップするようにします。	h3 要素に変更
情報及び関係性	A	セマンティクスを持たない div 要素でマークアップされており、コンテンツの情報構造が適切に伝わっていません。 例えば、 https://dcnet.marutto.biz/e-learning/exercises/learningExecRenshuTestResult/59/240 のコンテンツは以下のような情報構造と考えられますが、情報構造を伝えることのできる要素でマークアップされていない状態です。 第２章．認知症の定義と原因疾患 └ここまでの復習 　└〇正解 　　└【正しい解答】　5：5）ＡとＣ 　　└【貴方の解答】　5：5）ＡとＣ 　└血管性認知症は階段状に進行していくのが特徴です。また脳の血管が詰まることが原因のひとつです。 　└Ｂが間違いなのは、「主に幻視があらわれやすい」のはレビー小体型認知症の特徴だからです。 情報構造を確認いただき、構造に適した要素でマークアップするようにします。	ul 要素に変更、適切な構造に設定
情報及び関係性	A	セマンティクスを持たない div 要素でマークアップされており、コンテンツの情報構造が適切に伝わっていません。 以下は、 第４章　認知症ケアの基礎技術（自由記述問題） └自由記述問題　解説 　└事例演習 　　└あなたの答え 　　└「うちに帰り のような情報構造を持っていると思われます。見出し、段落、リストなど文書構造に沿って適切にマークアップします。	見出し要素の追加。UI 要素に変更
情報及び関係性	A	セマンティクスを持たない div 要素でマークアップされており、コンテンツの情報構造が適切に伝わっていません。 対象箇所は、以下のような構造と考えられますが、 問題 No. 　└問題文 　　└選択肢 1 　　└選択肢 2 見出しやリスト要素を用いるなどして問題文と選択肢の関係性を示します。	見出し <h2> 追加。 問題文、選択肢をリストに修正。
情報及び関係性	A	タブ「受講料」と、画像「受講料 3,000 円（消費税込み）」～「事業所の受講料一括支払～」に ul, li 要素が用いられていますが、文書構造上はリストではないと考えます。 ul, li 要素は削除し、例えば「受講料」を見出し要素に変更するなどして構造化します。	div 要素に変更

達成基準	適合レベル	問題点	問題点に対する修正内容
情報及び関係性	A	動画に対する見出しと考えられますが、見出しとしてマークアップされていません。 後続のコンテンツの内容を表す情報は見出しの意味を持つ要素でマークアップするようにします。	h2 要素に変更
情報及び関係性	A	文中に strong 要素でマークアップされた箇所があります。文中で強調することを目的としている場合は strong 要素ではなく em 要素のほうが適しています。 コンテンツの情報として重要度が高い、ということでしたら、strong 要素で問題ありません。ご確認ください。 なお、br 要素で間隔の調整をしている箇所があります。レイアウトの調整は CSS で行うようにします。	em 要素に変更
情報及び関係性	A	ヘッダーのロゴ画像が h1 要素でマークアップされていますが、h1 要素は各ページの主題となる文言に使用します。 例えば、修了証書発行ページの場合はメインコンテンツ冒頭の「修了証書発行」に h1 要素を用います。	ヘッダー部分の h1 要素を廃止
情報及び関係性	A	リストの構造を持つコンテンツがリストとしてマークアップされていません。 「1.受講する方のメールアドレス～」から「3.メールが届きましたら、～」は順序に意味があるリストと考えられますので、ol/li 要素でマークアップします。 一方、「※ 1 つのメールアドレス～」～「※ドメイン設定～」は順序に意味を持たないリストと考えられますので、ul/li 要素でマークアップします。	それぞれ ol 要素、ul 要素に変更
情報及び関係性	A	レイアウト調整を目的とした空要素が多数見受けられます。 レイアウト調整は空要素ではなく CSS によって行うようにします。	空の要素を削除
情報及び関係性	A	文中に strong 要素でマークアップされた箇所があります。文中で強調することを目的としている場合は strong 要素ではなく em 要素のほうが適しています。 コンテンツの情報として重要度が高い、ということでしたら、strong 要素で問題ありません。	em 要素に変更 （一部そのまま）
感覚的な特徴	A	「動画が止まった場合はこちら」の「こちら」が指すものが音声で閲覧している利用者には不明瞭な可能性があります。 「動画が止まった場合は「動画を再読込」ボタンを押してください」など、指している対象箇所を明瞭にします。	文面を「動画が止まった場合は「動画を再読込」ボタンを押してください」に変更
一部分の言語	AA	「 Please select a display language.」や「Tiếng Việt（ベトナム語）」などの言語選択ボタンの言語名は、ページの主言語と異なる言語を用いていると考えられますので、マークアップでも lang 属性によってそのことを表すようにします。	それぞれ適切な lang 属性を指定
一貫した識別性	AA	「ログイン」の ID を入力する欄のテキストラベルがページによって揺れています。音声で閲覧している利用者や、認知に問題がある利用者などが混乱する可能性があります。間違いなく情報を特定できるよう、ラベルを一致させます。	ユーザー ID に統一。
リンクの目的（コンテキスト内）	A	画像リンクとなっている画像の、代替テキストが空のため、どのようなリンクなのかが音声で閲覧している利用者に伝わらない状態になっています。 文字画像の問題に対応しない場合は、代替テキストを用意します。	画像→テキストに変更。
ラベル又は説明	A	メールアドレスを送信するフォームの入力欄に対してテキストラベルは用意されていますが、入力欄とテキストラベルが関連付けられていません。 label 要素などを用いて、テキストラベルと入力欄を関連付けます。	「メールアドレス」を label 要素に変更。
ページの言語	A	html 要素に lang 属性が指定されていません。ページの主言語を lang 属性に設定するようにします。	lang 属性を追加
ページタイトル	A	対象画面のページタイトルがすべて同一となっています。 各ページを識別できるように、コンテンツの内容が伝わる文言をページタイトルに記載します。	各ページに独自のタイトルを設定。
ブロックスキップ	A	ヘッダーのロゴ画像以外に見出しが設定されていません。コンテンツ内の見出しと考えられる要素に見出し要素を用います。	全ページに適切な h1 要素を設定
フォーカス順序	A	キーボードで操作している場合、動画のコントロールをするツールバーの各ボタンにフォーカスが当たらない状態です。 ツールバーの各ボタンにそれぞれフォーカスが当たるように調整します。	全て a 要素に変更 動画速度の部分未対応（2023/3/7）
コントラスト（最低限）	AA	画像内の文字についてコントラスト比が不足しています。グラデーションの背景に対して、文字のどの位置もコントラスト比 4.5:1 を満たすように調整します。 例）ボタン上部 前景色：#3C93C8 背景色：#E5E6E6 コントラスト比：2.7:1	色指定を変更。 前景色：#1470a7 背景色：#f9f9f9

達成基準	適合レベル	問題点	問題点に対する修正内容
キーボード	A	キーボードで操作している場合、フォーカスが当たらないためこの画像リンクを操作できません。 該当箇所にフォーカスが当たるようにし、Enter キー押下などでページ遷移できるように調整します。	a 要素に変更
キーボード	A	動画の下部にあるツールバーをキーボードで操作することができません。 キーボードで操作している利用者が操作できるように調整します。	全て a 要素に変更 動画速度の部分未対応 (2023/3/7)
エラー回避 (法的、金融、データ)	AA	確認テストで、選択肢や記入を行い確認ボタンをクリックすると、そのまま結果が送信される状態です。 選択した回答や記入した回答内容を送信する前に、利用者が選択・記入内容を確認できるように、選択内容を表示したり、送信してよいかを確認するステップを挟むようにします。 ※備考欄の参照先をあわせてご確認ください。	ダイアログボックスを表示。

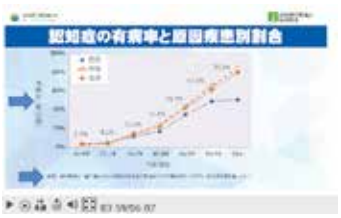
表 4-2-2　学習用動画ファイルにおける画面コントラスト比の修正内容

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は 14ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色：#EA7D37 背景色：#F3F3F3 コントラスト比：2.5:1 前景色：#8D4011 背景色：#F3F3F3 コントラスト比：6.59：1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：6.59：1
サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は 14ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色：#ECEAEE 背景色：#B98BAC コントラスト比：2.4:1 前景色：#ECEAEE 背景色：#7F2F68 コントラスト比：7：1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：7：1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は 14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色：#FF6700 背景色：#FEFDF6 コントラスト比：2.9:1 変更後 前景色：#C24E00 背景色：#FEFDF6 コントラスト比:5.16:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比:5.16:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色：#F1EB00 背景色：#F82828 コントラスト比：3.1:1 変更後 前景色：#F1EB00 背景色：#920707 7.36:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比:7.36:1
サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は 14ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色：#F1EB00 背景色：#F2581C コントラスト比：2.7:1 変更後 前景色：#F1EB00 背景色：#842A06 7.18:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比:7.18:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は 14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色：#FCFFFD 背景色：#FD5C20 コントラスト比：3.1:1 変更後 前景色：#FCFFFD 背景色：#842A06 9.01:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比:9.01:1

問題点	コントラスト比	カラー サンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #00AA9E コントラスト比 : 2.9:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.87:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #CBCBCB 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.5:1 変更後 前景色 : #595959 背景色 : #FFFFFF 7:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7:1
背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FF109D 背景色 : #F7FFF6 コントラスト比 : 3.5:1 変更後 前景色 : #990059 背景色 : #F7FFF6 7.89:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.89:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #F84211 コントラスト比 : 3.6:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #A62A08 7.1:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.1:1
背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #E90973 背景色 : #EDDDE5 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #EDDDE5 背景色 : #A2064F 6.008 下線トル	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :6:1
サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #ECEAEE 背景色 : #B98BAC コントラスト比 : 2.4:1 前景色 : #ECEAEE 背景色 : #7F2F68 コントラスト比 : 7 : 1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7:1

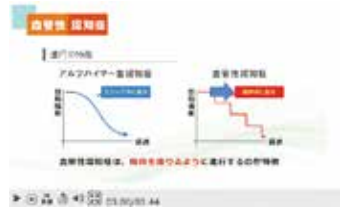
問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFFFF 背景色：#00A5E1 コントラスト比：2.8:1 前景色：#00658A 背景色：#FFFFFF 6.5:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：6.5:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFFFFF 背景色：#46BDE8 コントラスト比：2.2:1 前景色：#FFFFFF 背景色：##147FA6 コントラスト比：5.13:1 これに伴い、真ん中も色変更	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.13:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFFFFF 背景色：#69AD19 コントラスト比：2.8:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#38640C 7:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：7:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFF800 背景色：#69AD19 コントラスト比：2.5:1 前景色：#FFFB94 背景色：#38640C 6.5:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：6.5:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FDFFFF 背景色：#CB6E08 コントラスト比：3.6:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#7F4406 7.68:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：7.68:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFF800 背景色：#CB6E08 コントラスト比：3.2:1 変更後 前景色：#FFFB94 背景色：#7F4406 7.13:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：7.13:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は 14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFF800 背景色 : #EA1F09 コントラスト比 : 4:1 変更後 前景色 : #FFFB94 背景色 : #BE1B09 5.81:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :5.81:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は 14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FAFFFF 背景色 : #EA1F09 コントラスト比 : 4.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #BE1B09 6.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :6.26:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #00A496 背景色 : #FAFFFF コントラスト比 : 3.1:1 変更後 前景色 : #005C54 背景色 : #FAFFFF 7.82:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.82:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :6.29:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #1292D4 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.4:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :6.29:1
サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は 14ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #FF6F1E 背景色 : #F8F9ED コントラスト比 : 2.6:1 前景色 : #BD4500 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 5.23:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :5.23:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #5B6A71 背景色 : #B6DFFA コントラスト比 : 4:1 前景色 : #373C43 背景色 : #B6DFFA コントラスト比 : 7.89:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.89:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FAEE22 背景色 : #0071BB コントラスト比 : 4.2:1 前景色 : #FAEE22 背景色 : #00568F コントラスト比 : 6.34:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :6.34:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #006BB4 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 4.3:1 前景色 : #00497A 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 7.23:1 修正に伴い「第 1 位 第 2 位」の文字色も #00497A に修正	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.23:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #D11304 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 4.2:1 前景色 : #8D0B02 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 7.4:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.4:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #BE3E70 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 3.9:1 前景色 : #782645 背景色 : #F3E1AA コントラスト比 : 7.47:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.47:1
サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #FFB013 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 1.8:1 前景色 : #946300 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 5.19:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :5.19:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていることを確認する	前景色：#FFFFFF 背景色：#97C631 コントラスト：2:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#57721D コントラスト比：5.48:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：5.48:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしているかを確認する 対象が、サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たしているかを確認する	前景色：#E86A27 背景色：#FBF25E コントラスト：2.8:1 前景色：#AC4711 背景色：#FBF25E コントラスト：4.9:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：4.9:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていることを確認する	前景色：#E46825 背景色：#F7D36B コントラスト：2.3:1 前景色：#8B3D13 背景色：#F7D36B コントラスト比：5.22:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：5.22:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていることを確認する	前景色：#FFF596 背景色：#ED9961 コントラスト：2:1 前景色：#FFFAD1 背景色：#AA4F13 コントラスト比：5.17:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：5.17:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしているかを確認する 対象が、サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たしているかを確認する	前景色：#FFFFFF 背景色：#1292D4 コントラスト：3.4:1 変更後 前景色：#FFFFFF 背景色：#0B6693 コントラスト比：6.29:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：6.29:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしているかを確認する 対象が、サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たしているかを確認する	前景色：#1292D4 背景色：#FFFFFF コントラスト：3.4:1 前景色：#0B6693 背景色：#FFFFFF コントラスト：6.29:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：6.29:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていることを確認する	前景色：#FFFFFF 背景色：#F05025 コントラスト比：3.6:1 変更後 前景色：#FFFFFF 背景色：#A62A08 7.1:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：7.1:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていることを確認する	前景色：#777777 背景色：#FFFFFF コントラスト比：3.6:1 前景色：#666666 背景色：#FFFFFF コントラスト比：5.74：1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：5.74：1
サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）のコントラスト比が3:1を満たしているかを確認する	前景色：#00A7EC 背景色：#FFFFFF コントラスト比：2.7:1 前景色：#0076A8 背景色：#FFFFFF コントラスト比：5.05:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：5.05:1
サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）のコントラスト比が3:1を満たしているかを確認する	前景色：#83D8DC 背景色：#FFFD6E コントラスト比：1.5:1 前景色：#FFFC66 背景色：#24797F コントラスト比：4.7:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：4.7:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしているかを確認する 対象が、サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たしているかを確認する	前景色：#FFFFFF 背景色：#EA6C8C コントラスト比：1.5:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#D21E4B コントラスト比：5.21:1	コントラストサンプル		対応済み コントラスト比：5.21:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFFFF 背景色：#1292D4 コントラスト比：3.4:1 変更後 前景色：#FFFFFF 背景色：#0B6693 コントラスト比：6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：6.29:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #1292D4 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.4:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 6.29:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #F05025 コントラスト比 : 3.6:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #A62A08 コントラスト比 : 7.1:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 7.1:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #EEE063 背景色 : #0271F5 コントラスト比 : 3.3:1 前景色 : #EEE168 背景色 : #024CA7 コントラスト比 : 6.01:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 6.01:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FCD563 背景色 : #ED1D23 コントラスト比 : 3.1:1 前景色 : #EEE168 背景色 : #B30F14 コントラスト比 : 5.21:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.21:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :6.29:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #1292D4 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 3.4:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :6.29:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFFFF 背景色：#878787 コントラスト比：3.6:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#6B6B6B コントラスト比：5.32:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.32:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#F05025 背景色：#FFFFFF コントラスト比：3.6:1 前景色：#C8360E 背景色：#FFFFFF コントラスト比：5.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.26:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFFFF 背景色：#EB6418 コントラスト比：3.3:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#C8360E コントラスト比：5.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.26:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFFFF 背景色：#E73B17 コントラスト比：3.3:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#CC3314 コントラスト比：5.18:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.18:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFFFF 背景色：#1292D4 コントラスト比：3.4:1 変更後 前景色：#FFFFFF 背景色：#0B6693 コントラスト比：6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：6.29:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#1292D4 背景色：#FFFFFF コントラスト比：3.4:1 前景色：#0B6693 背景色：#FFFFFF コントラスト比：6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：6.29:1

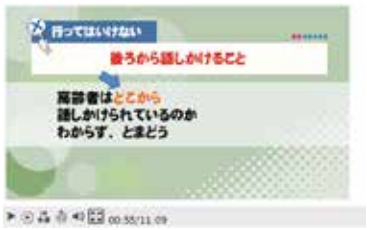
問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #F05025 コントラスト比 : 3.6:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #C8360E コントラスト比 : 5.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.26:1
サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #00A7EC 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0079AD 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 4.84:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 4.84:1
背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #E90973 背景色 : #EDDDE5 コントラスト比 : 3.4:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #A2064F コントラスト比 : 7.84:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 7.84:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFEC04 背景色 : #D03766 コントラスト比 : 3.9:1 前景色 : #FFED9E 背景色 : #B22A52 コントラスト比 : 5.33:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.33:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F5002D 背景色 : #FFFDFF コントラスト比 : 4.2:1 前景色 : #BD0023 背景色 : #FFFDFF コントラスト比 : 6.5:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 6.5:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #D40051 背景色 : #E4DFDF コントラスト比 : 4.1:1 前景色 : #D40051 背景色 : #A3003F コントラスト比 : 6.05:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 6.05:1

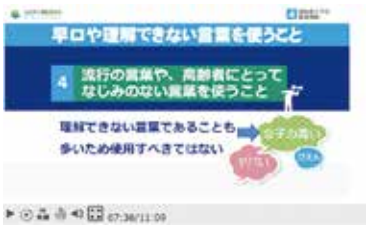
問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色：#EEFDFA 背景色：#22B674 コントラスト比：2.5:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#277C45 コントラスト比：5.17:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.17:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 「る」の文字と背景色のコントラスト比が不足しています。	前景色：#FFFFFF 背景色：#E9978E コントラスト比：2.3:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#BE3627 コントラスト比：5.6:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.6:1
背景との組み合わせにより、文字のコントラスト比が部分的に 4.5:1 を満たしていません。	前景色：#FFFFFF 背景色：#C57681 コントラスト比：3.3:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#B04A56 コントラスト比：5.3:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.3:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色：#CB2EA9 背景色：#FAF8F2 コントラスト比：4.4:1 前景色：#B72A98 背景色：#FAF8F2 コントラスト比：5.2:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.2:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色：#FFFFFE 背景色：#92A12C コントラスト比：2.9:1 前景色：#FFFFFE 背景色：#505818 コントラスト比：7.63:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：7.63:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色：#EBFF3E 背景色：#0082B2 コントラスト比：3.9:1 前景色：#EBFF3E 背景色：#00698F コントラスト比：5.53:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.53:1

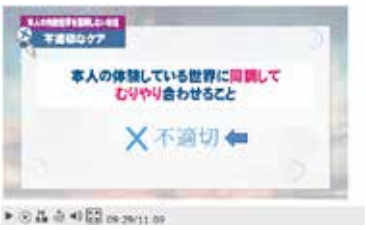
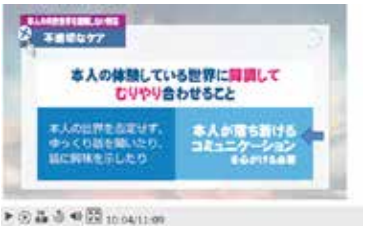
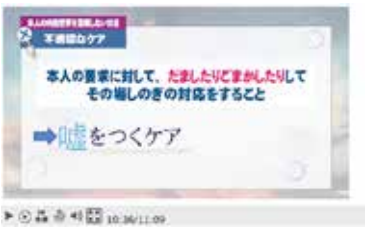
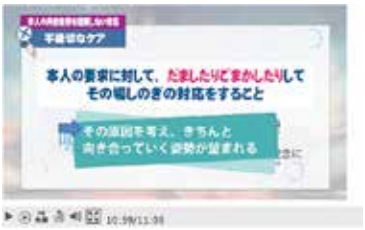
問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFF8 背景色 : #AD5400 コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #FFFFF8 背景色 : #AD5400 コントラスト比 : 5.19:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.19:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :5.26:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :5.26:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :5.26:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :5.26:1
文字のコントラスト比が4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F07200 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : just below 3:1 (2.953:1) 前景色 : #C8360E 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 :5.26:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :5.26:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #ED4E16 背景色 : #F4F2E7 コントラスト比 : 3.3:1 前景色 : #A2330B 背景色 : #F4F2E7 コントラスト比 : 6.2:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 6.2:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 コントラスト比 :7.87:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.87:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 コントラスト比 :7.87:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.87:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.87:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.87:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0CACA1 コントラスト比 : 2.8:1 変更後 前景色 : #F1EB00 背景色 : #005C56 7.87:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :7.87:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFFFFF 背景色：#0CACA1 コントラスト比：2.8:1 変更後 前景色：#F1EB00 背景色：#005C56 7.87:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：7.87:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFFFFF 背景色：#E69E00 コントラスト比：2.3:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#8F6200 コントラスト比：5.36:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.36:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFFFE 背景色：#E69E00 コントラスト比：2.3:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#8F6200 コントラスト比：5.36:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.36:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFFFFF 背景色：#7393A7 コントラスト比：3.3:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#516F81 コントラスト比：5.32:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.32:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFFFFF 背景色：#A69B77 コントラスト比：2.8:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#72704B コントラスト比：5.07:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.07:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#F9D008 背景色：#EC2E41 コントラスト比：2.8:1 前景色：#FDEA7C 背景色：#A30F1E コントラスト比：6.51:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：6.51:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色：#EF464A 背景色：#FFFAF9 コントラスト比：3.6:1 前景色：#D41114 背景色：#FFFAF9 コントラスト比：5.21:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.21:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色：#FBD10A 背景色：#D35821 コントラスト比：2.7:1 前景色：#FDEA7C 背景色：#A30F1E コントラスト比：6.51:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：6.51:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色：#EEFDFA 背景色：#22B674 コントラスト比：2.5:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#277C45 コントラスト比：5.17:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.17:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色：#F9FEFF 背景色：#2AABE2 コントラスト比：2.6:1 変更後 前景色：#F1EB00 背景色：#005C56 コントラスト比：7.87:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：7.87:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色：#F25A25 背景色：#E8F5F1 コントラスト比：3:1 前景色：#A9340A 背景色：#E8F5F1 コントラスト比：5.89:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.89:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色：#FEFF00 背景色：#45AEFE コントラスト比：2.2:1 前景色：#FEFF00 背景色：#0165B2 コントラスト比：5.56:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.56:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#FFFFFF 背景色：#45AEFE コントラスト比：2.4:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#0165B2 コントラスト比：5.99:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.99:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#F4FCEE 背景色：#8EBE69 コントラスト比：2.1:1 前景色：#F4FCEE 背景色：#4D7231 コントラスト比：5.31:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.31:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#FFFCFD 背景色：#ED869A コントラスト比：2.4:1 前景色：#FFFCFD 背景色：#CC1E41 コントラスト比：5.3:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.3:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。	前景色：#F8FDFF 背景色：#21AFE5 コントラスト比：2.5:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#127197 コントラスト比：5.47:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.47:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 サイズの大きな文字（18ポイント以上、又は14ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が3:1を満たすようにします。	前景色：#EBFF03 背景色：#239DB1 コントラスト比：2.9:1 前景色：#EBFF03 背景色：#186E7B コントラスト比：5.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.29:1
文字のコントラスト比が4.5:1を満たしていません。 複数個所に有ります。	前景色：#E4F2F1 背景色：#73A49B コントラスト比：2.4:1 前景色：#FFFFFF 背景色：#4B726A コントラスト比：5.36:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比：5.36:1

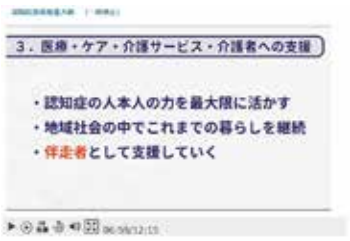
問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #2393EB 背景色 : #DBEBFA コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0D61A0 背景色 : #DBEBFA コントラスト比 : 5.34:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.34:1
サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #2294ED 背景色 : #F4F4F7 コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #0D61A0 背景色 : #F4F4F7 コントラスト比 : 5.91:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.91:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FFFFFF 背景色 : #2AABE2 コントラスト比 : 2.6:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #127197 コントラスト比 : 5.47:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.47:1
サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）のコントラスト比が 3:1 を満たしていません。	前景色 : #2AA9DF 背景色 : #EBECF1 コントラスト比 : 2.3:1 前景色 : #0D61A0 背景色 : #F4F4F7 コントラスト比 : 5.91:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.91:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FEFFFF 背景色 : #00AA9D コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #FEFFFF 背景色 : #00756C コントラスト比 : 5.57:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.57:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #4AB901 背景色 : #E8EFF4 コントラスト比 : 2.2:1 前景色 : #276001 背景色 : #E8EFF4 コントラスト比 : 6.55:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 6.55:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #989898 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #575757 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 7.22:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 7.22:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #166FAB 背景色 : #CDEAF1 コントラスト比 : 4.3:1 前景色 : #166FAB 背景色 : #11496E コントラスト比 : 7.55:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 7.55:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #E6FFFF 背景色 : #279DD1 コントラスト比 : 2.9:1 前景色 : #E6FFFF 背景色 : #1C7297 コントラスト比 : 5.15:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.15:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。 サイズの大きな文字（18 ポイント以上、又は 14 ポイント以上の太字）に該当する場合は、コントラスト比が 3:1 を満たすようにします。	前景色 : #FAFDFB 背景色 : #538A61 コントラスト比 : 4:1 前景色 : #FAFDFB 背景色 : #45734D コントラスト比 : 5.37:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.37:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #CACACA 背景色 : #676767 コントラスト比 : 3.5:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #676767 コントラスト比 : 5.65:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.65:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #00A7EB 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 6.29:1

問題点	コントラスト比	カラーサンプル	対象箇所	修正内容
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #F3FAFD 背景色 : #1292D4 コントラスト比 : 3.3:1 変更後 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #0B6693 コントラスト比 :6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 :6.29:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #FEFFFF 背景色 : #008D48 コントラスト比 : 4.3:1 前景色 : #FFFFFF 背景色 : #277C45 コントラスト比 : 5.17:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 5.17:1
文字のコントラスト比が 4.5:1 を満たしていません。	前景色 : #00A7EB 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 2.7:1 前景色 : #0B6693 背景色 : #FFFFFF コントラスト比 : 6.29:1	カラーサンプル		対応済み コントラスト比 : 6.29:1

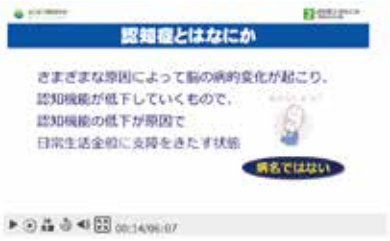
表 4-2-3　学習用動画ファイルに関する修正対応

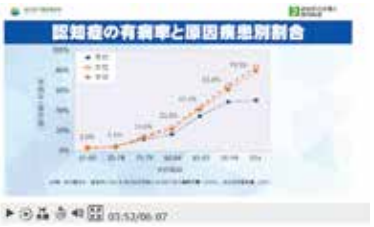
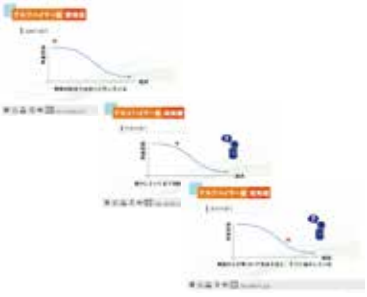
達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
キャプション（収録済）	A	キャプションが用意されていません。 視覚によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報を視覚によってもれなく取得できるように、ナレーションやセリフ、効果音など音声によって表現されている情報を含めて、キャプションを作成します。	－	字幕で対応
音声解説（収録済）	AA	音声解説が用意されていません。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。	－	音声を追加
キャプション（収録済）	A	動画内で表示されている文字情報の多くはナレーションで伝えられていますが、ナレーションのみで伝えられている情報もあります。 視覚のみで動画を閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。 また、BGM が鳴っている場合は、「(BGM が鳴っている)」や「(BGM) ♪～」などのような表現で、キャプションに含めるようにします。		ナレーション原稿の字幕を追加
音声解説（収録済）	A	動画内で表示されている文字情報の多くはナレーションで伝えられていますが、ナレーションのみで伝えられている情報もあります。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。		タイトルテキストの読み上げ音声追加
音声解説（収録済）	AA	動画内のナレーションで伝えられている情報と、動画内の映像で表示されている文字情報が一致していない部分があります。「心理症状(BPSD)」、「学習前の確認」などに差異が見られます。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。		スライドに記載されている文言の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	動画の冒頭で音楽がなっています。 BGM が鳴っている場合は、「(BGM が鳴っている)」や「(BGM) ♪～」などのような表現で、キャプションに含めるようにします。		BGM の字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	動画では引用されている出典が表示されていますが、音声では伝えられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には、出典の情報が伝わらない状態です。 音声によって閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		出典情報の読み上げ音声を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	動画ではタイトルが表示されていますが、音声では伝えられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には、タイトルが伝わらない状態です。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	ナレーションでは「ご覧の５つの柱が～」と話していますが、「1. 普及啓発・本人発信支援」～「5. 研究開発・～」までは読み上げられないため、音声で閲覧している利用者には、柱の内容が伝わらない状態です。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。		スライドに表示されている文言の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画では、引用された動画のタイトルなどが表示されていますが、音声ではその情報が読み上げられていないため、音声で閲覧している利用者に伝わらない状態です。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。		引用元動画や発言者の情報の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	ナレーションで「2. 予防」の施策の内容を説明しているシーンのうち、「介護予防教室なにわ元気塾」で実際に取り組んでいる様子が画面に表示されていますが、音声で閲覧している利用者には、「実際に取り組んでいる人々の様子」の情報が伝わらない状態です。 音声によって閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		表示されているシーンの説明文の読み上げ音声を追加
色の使用	A	「伴走者」がほかテキストと異なる色によって表現されていますが、色覚などに問題がある利用者からはわかりにくい状態です。 強調を意図している場合、下線やフォントの大きさなど、色以外で強調されていることがわかるようにします。		下線を追加
キャプション（収録済）	A	動画の冒頭で音楽がなっています。 BGM が鳴っている場合は、「(BGM が鳴っている)」や「(BGM) ♪～」などのような表現で、キャプションに含めるようにします。		BGM の字幕を追加

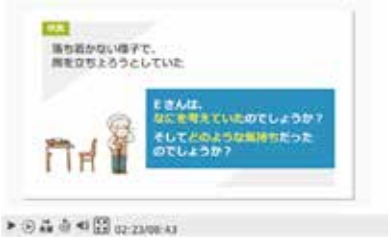
達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	背景に表示されている人物や様子など、視覚では登場人物に関する情報が伝わりますが、音声で閲覧している利用者には伝わりません。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		Sさんの説明文の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションの背景として、Yさんが畑の手入れをしている様子とYさんの音声が再生されています。 主の情報はナレーションが伝えており、Yさんの発話内容を書き起こさなくてもよいと考えられます。動画の理解に影響しない音楽（BGM）と同様に、Yさんが話している声がバックグラウンドとして入っていることを伝えるようにします。		BGMの字幕を追加
キャプション（収録済）	A	該当のシーンでは、ナレーションはなく、Yさんと（映像に映っていない）もう一人との会話の音声が聞き取れる状態です。 コンテンツとして、Yさんの会話が、畑で楽しく過ごしている様子を伝えるための情報として重要であれば、発話者とセリフをキャプションに書き起こすようにします。		会話の字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	画面に表示されている画像や、「認知症という病気を～」「サービス提供者側が～」といったテキストボックスが順を追って表示される様子など、視覚で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		表示されている図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画内にトム・キットウッド氏と思われる人物像と、フルネームや生没年、人物の説明などが表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		画面に表示されている文献情報等の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画の下部に記載されている出展について、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		出典情報の読み上げ音声を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	画像では「S さんの困りごと」というタイトルが表示されていますが、音声では読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には、シーンのタイトルの情報が伝わらない状態です。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。		S さん、T さん、Y さんについて、タイトルの読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションから、S さん本人の音声へ切り替わっています。 視覚によって閲覧している利用者にも、発話者が変更されたことがわかるように、「（S さん）いろんな、みんなで歌を歌う機会も～」のように発話者の情報を記載するようにします。		S さん、T さん、Y さんの発言内容の字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	S さんがグループホームで過ごしている様子を音声解説で伝えるようにします。		S さん、T さん、Y さんの様子の説明文を作成のうえ、読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションから、S さん本人の音声へ切り替わっています。 視覚によって閲覧している利用者にも、発話者が変更されたことがわかるように、「（S さん）いろんな、みんなで歌を歌う機会も～」のように発話者の情報を記載するようにします。		項番 22 と同様の指摘項目
音声解説（収録済）	AA	映像に文字が表示されていますが、音声あるいはトランスクリプトによる情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	動画内で表示されている文字情報のうち、ナレーションのみで伝えられている情報もあります。 視覚のみで動画を閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。		ナレーションの字幕を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
キャプション（収録済）	A	動画内で表示されている文字情報のうち、ナレーションのみで伝えられている情報もあります。 視覚のみで動画を閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	動画内では多くの文字情報が表示されていますが、音声ではすべてが伝えられておらず、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		スライドに記載されている文言の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	「（出展）厚生労働省～」の文字列が動画内で表示されていますが、ナレーションなど音声では読み上げられていません。そのため、音声によって動画を閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。		出典情報の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画に表示されている「病名ではない」情報がナレーションでは伝えられていないため、音声で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		スライドに表示されている文言の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションでは説明が続いていますが、画面上ではタイトル以外の情報が表示されておらず、視覚によって閲覧している利用者に情報が伝わらない状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	動画に表示されている「息子に牛乳を～」などの情報がナレーションでは伝えられていないため、音声で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		スライドに表示されている文言の読み上げ音声を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	動画に表示されているグラフの数値や出典などの情報がナレーションでは伝えられていないため、音声で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		出典情報とグラフの説明文の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションでは「2020 年の東京長寿～」などの情報を読み上げていますが、動画では文字情報として表示されておらず、視覚で閲覚している利用者に情報が伝わらない状態です。 ナレーションなど音声で伝えている情報を書き起こし、キャプションによって伝えるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	聴覚に障害があったり、音が出せない環境で閲覧している利用者は、「認知症は病名ではありません。」など、ナレーションのみで伝えられる情報を知ることができません。 ナレーションで伝えている情報をキャプションとして用意します。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	映像では、なだらかな下降曲線のグラフが表示され、グラフの縦軸横軸がそれぞれ「認知機能」「経過」、グラフの説明として「病気の始まりはゆっくりしている」といったことが視覚的に確認できます。 ナレーションには含まれない、映像内の情報を持つビジュアル要素については、音声でどのような情報がビジュアルで伝えられているかを説明し、音声のみで閲覚している利用者にも情報が把握できるようにします。		グラフの説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		スライドに表示されている文言の読み上げ音声を追加

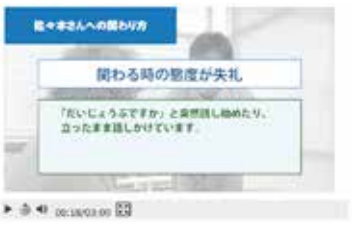
達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
色の使用	A	「比較的急激に発症」の「急激に」について、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストを太字にするなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
キャプション（収録済）	A	「しかし、Bさんは悲観的なことを言うこともなく、特に困ったこともありません」など、Bさんの様子について動画に表示されている説明以外の情報をナレーションのみで説明しています。 音声のみで閲覧している利用者には、動画内に表示される情報以外が伝わらない状態です。 音声で伝えられている情報をキャプションに書き起こします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	「あの～」や「えっと」など、動画内に表示されている文字情報や、Bさんの表情の様子の違いなど、音声によって動画を閲覧している利用者には伝わらない状態です。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		スライドに記載されている文言の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画内では、小脳あるいは脳幹と思われる場所が赤く塗られ、矢印で指し示されていますが、同シーン内でナレーションでは脳内の場所については説明されていません。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
（収録済）	AA	動画内では、「やきとり」と書かれた提灯を見てDさんが「やきとり！」と読み上げている様子が表示されていますが、音声のみで閲覧している利用者には伝わらない状態です。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画内では、症状の特徴に１～４までの番号が振られていますが、音声では読み上げられていません。 また、後続のシーンで、画面左上にスライドの見出し的に「1 人格変化」などが表示されていますが、こちらも音声では読み上げられていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されているものと同じ情報が伝わるように、音声解説を用意します。		図の説明文の読み上げ音声を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	動画内では、BPSD のフルスペルが表示されていますが、音声では読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画内で、人物がうろうろしている様子や、介護者のセリフなどが表示されていますが、音声で閲覧している利用者にはその情報が伝わらない状態です。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。（また、タイムスタンプが動いていても、動画が正しく再生されているかがわからない、など利用者が混乱する可能性があります。） ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
色の使用	A	「電話があったこと自体」がほかのテキストと異なる色で表現されており、、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストに下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
音声解説（収録済）	AA	ナレーションでは画面に表示される多くの情報を読み上げていますが、「E さんのある昼」など、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
色の使用	A	「なにを考えていた」や「どのような気持ち」のテキストがほかの色と異なっており、色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストを太字にするなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
色の使用	A	「心理面」がほかのテキストと異なる色で表現されており、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストに下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明していますが、動画では情報の一部のみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
色の使用	A	「＝問題行動」はテキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を設定するなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画では表示されている内容はそのうちの一部にとどまっています。視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容がすべて伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画ではタイトルが表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に動画タイトルなどの情報が伝わっていません。 動画のタイトルをナレーションで読み上げるようにするか、音声解説あるいによって利用者に伝わるようにします。		タイトルの読み上げ音声を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明が始まりますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。（また、再生はされているけれども、動画そのものが始まっているかもわかりにくい状況と考えられます。） ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	動画では「・混乱しにくい住環境」や「・安定した関係性の構築」といった、各環境例が表示されていますが、音声では読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者には各環境の例という情報が伝わっていません。 音声解説あるいはトランスクリプトによって、動画内で表示されている文字情報が、音声によって動画を閲覧している利用者に伝わるように用意します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	動画では例として「トイレの場所に関する工夫」が表示されていますが、ナレーションで紹介されている自室の例は画面に表示されていません。そのため、視覚で閲覧している利用者に自室の例に関する情報が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
色の使用	A	「自宅に近い」がほかテキストと異なる色によって表現されており、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 テキストを太字にするなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
音声解説（収録済）	AA	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	画面ではスライドタイトルが表示されていますが、ナレーションではタイトルが読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
色の使用	A	「疾病」や「ケガ」など、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画ではタイトルと、ボックスが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画で表示されている文字情報と異なっている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、音声で説明されている内容が伝わらりません。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		図の説明文の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	聴覚に障害があったり、音が出せない環境で閲覧している利用者は、ナレーションのみで伝えられる情報を知ることができません。 ナレーションで伝えている情報をキャプションとして用意します。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	画面ではスライドタイトルが表示されていますが、ナレーションではタイトルが読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	画面で表示されている文字情報と、ナレーションによって説明される内容や文言に差異があります。視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
キャプション（収録済）	A	画面で表示されている文字情報と、ナレーションによって説明される内容や文言に差異があります。視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	動画ではタイトルが表示されていますが、読み上げられていません。音声によって動画を閲覧している利用者には、情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	動画では、佐々木さんがお茶を飲んだり、お菓子のことが気になって手を机の上で動かしたりする様子や、介護者が話しかける様子などが映像情報として伝えられていますが、音声で閲覧している利用者には、どんな部屋なのか、佐々木さんの表情といった佐々木さんの様子に関する情報が伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		状況説明文の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	動画では佐々木さんへの関わり方のポイントが表示されていますが、ナレーションでは、画面に表示されていないポイントを説明しています。 視覚で閲覧している利用者に情報が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明が始まりますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。（また、再生はされているけれども、動画そのものが始まっているかもわかりにくい状況と考えられます。） ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	動画ではタイトルが表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に動画タイトルなどの情報が伝わっていません。 動画のタイトルをナレーションで読み上げるようにするか、音声解説あるいによって利用者に伝わるようにします。		タイトルの読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。 動画の背景画像（介護施設と思われる部屋に二人の人物がいること、二人がどのような人物か、また片方が話しかけている様子など）に関する説明や、「適切な言葉づかいと態度」「見当識障害～」といった時間を追ってテキストボックスがどのように表示されているかといった様子などもわかるようにします。		図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画内では多くの文字情報が表示されていますが、音声ではすべてが伝えられておらず、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 「理解できない言葉」について、画面では例が記載されていますが、音声解説によって情報を得られるようにします。		図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	画面ではスライドタイトルが表示されていますが、ナレーションではタイトルが読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画では説明が表示されていません。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	ナレーションで画面に表示された文字情報について説明していますが、映像で「× 不適切」の吹き出しが表示されるといった映像の動きについては、音声で閲覧している利用者には伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		図の説明文の読み上げ音声を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	動画ではタイトルが表示されていますが、読み上げられていません。音声によって動画を閲覧している利用者には、情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画ではタイトルのみが表示されている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、説明内容が伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	動画では、佐々木さんがお茶を飲んだり、お菓子のことが気になって手を机の上で動かしたりする様子や、介護者が話しかける様子などが映像情報として伝えられていますが、音声で閲覧している利用者には、どんな部屋なのか、佐々木さんの表情といった佐々木さんの様子に関する情報が伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		状況説明文の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画で表示されている文字情報と異なっている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、音声で説明されている内容が伝わらりません。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
キャプション（収録済）	A	内容についてナレーションで説明されていますが、動画で表示されている文字情報と異なっている状態です。 視覚によって動画を閲覧している利用者には、音声で説明されている内容が伝わらりません。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
キャプション（収録済）	A	ナレーションで説明されている情報と、動画内で表示されている文字情報が異なるため、視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	ナレーションで説明されている情報と、動画内で表示されている文字情報が異なるため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
色の使用	A	動画内の吹き出し「初めて」が、ほかのテキストと異なる色で表現されており、強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
キャプション（収録済）	A	動画内で表示されていない内容についてナレーションで説明しており、視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	ナレーションで説明されている内容について、例として画像内のイラストや効果などで表現されていますが、音声で閲覧している利用者には伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	動画内で表示されていない内容についてナレーションで説明しており、視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	ナレーションで説明されている内容について、例として画像内のイラストや効果などで表現されていますが、音声で閲覧している利用者には伝わらない状態です。 映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	映像に文字が表示されていますが、音声による情報が用意されていません。 音声のみで動画を閲覧している利用者に、映像で表示されている情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説など視覚以外の方法によって用意します。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	画面ではスライドタイトルが表示されていますが、ナレーションではタイトルが読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
色の使用	A	「意思を尊重」や「表明しやすい」の文字列が、ほかのテキストと異なる色で表現されており、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションの説明と画像に表示された文字情報が一致していないため、視覚で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションでは内容が説明されていますが、視覚的には確認することができません。そのため、視覚で閲覧している利用者には伝わらない情報があります。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加

達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	動画ではタイトルが表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者にはその情報が伝わりません。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画では、ナレーションに含まれていない文字情報が表示されており、音声で閲覧している利用者には伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
色の使用	A	「うまくいったのか」や「うまくいかなかったのか」が、テキストの色の差異のみで強調・重要であることを表していると考えられます。 下線を引くなど、情報の意味の差異を色以外の方法でも利用者に伝わるようにします。		下線を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションでは、動画で表示されていない情報が説明されています。そのため、視覚で閲覧している利用者には伝わらない情報があります。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加
音声解説（収録済）	AA	動画ではタイトルが表示されていませんがナレーションでは読み上げられておらず、そのため音声で閲覧している利用者にはタイトルの情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		タイトルの読み上げ音声を追加
キャプション（収録済）	A	ナレーションでは、動画の画面に表示されていない情報を説明していますが、視覚によって閲覧している利用者には伝わらない状態です。 ナレーションなど、音声によって伝えられている情報をキャプションによって表示し、視覚で閲覧している利用者にも情報が伝わるようにします。		ナレーションの字幕を追加

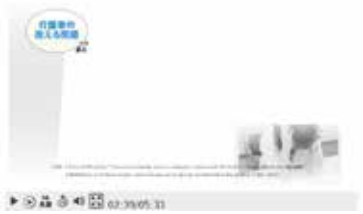
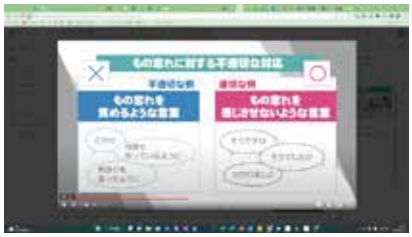
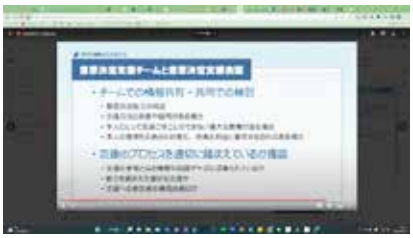
達成基準	適合レベル	問題点	対象画面	対応方法
音声解説（収録済）	AA	動画では説明されている内容の出典が表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため音声で閲覧している利用者には出典の情報が伝わらない状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		出典内容の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画内では多くの文字情報が表示されていますが、音声ではすべてが伝えられておらず、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画ではタイトルが表示されていますが、ナレーションでは読み上げられていません。そのため、音声で閲覧している利用者に伝わらない情報があります。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画では、A さんの表情が相談したりやアドバイスを受けることによって明るくなっている様子が表現されています。 音声によってサイトを閲覧している利用者が動画の情報をもれなく取得できるように、映像や動きなどビジュアル要素によって表現されている情報を含めて、音声解説を作成します。		図の説明文の読み上げ音声を追加
音声解説（収録済）	AA	動画では、タイトルや、それぞれのサービス内容が表示されていますが、音声では説明されていません。そのため、音声で閲覧している利用者には伝わらない情報がある状態です。 映像で表示されている情報を、音声解説によって用意します。		図の説明文の読み上げ音声を追加

表 4-2-4　学習用動画ファイルにおける音声解説例

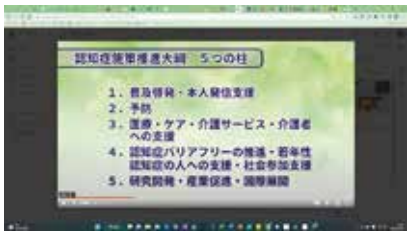
学習用動画画面	修正対応方針	音声解説例
	向精神薬の表示　説明が必要	画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「治療と薬物療法　薬物療法と表記されています。 画面左側には「行動・心理症状（BPSD）と表記されています。 右画面じょう部には「身体疾患の治療や他の薬物療法の見直し、 環境調整を行ったうえで実施と表記されており、 画面中央には「向精神薬」と記載されています。 その下に「行動・心理症状（BPSD）に対しての第１選択肢は、 非　薬物療法と表記されています。
	右側の図の説明が必要	「非薬物的介入」の音声は削除 画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「非薬物的介入」と表記されています。 画面ひだり側に大き目の文字で「心理療法」その下に「アクティビティ」と表記されており、「アクティビティ」の下には小さ目の文字で、「生活行為や趣味活動等を活かした活動プログラムやレクリエーション活動」と表記されています。 画面みぎ側には「認知、刺激、行動、感情」の４つの言葉が横並びで表記されており、その下に下向きの矢印があり、その下に「焦点を当てたアプローチ（BPSD への対応の第一選択）」と表記されています。
	スライドタイトルの読み上げと、図の説明が必要	画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「行動心理症状 BPSD への対応」と表記されています。 画面ひだり側に大き目の文字で「中核症状」と表記されており、その周りに右上から時計回りに「ストレス、不快感、不適切なケア、不適切な環境、不安感、身体不調」という言葉があり、右側に矢印があります。 画面みぎ側には、上から BPSD、行動症状、心理症状と表記されており、行動症状の下に「排諧・攻撃性・不穏・焦燥・不適切な行動・多動・性的脱抑制など」、心理症状の下に「妄想・幻覚・抑うつ・不眠・不安・誤認・無気力・情緒不安定など」と表記されており、下向きに矢印があります。 その下に、左側の「中核症状」と右側の「BPSD」にまたがるように「BPSD だけをみて対処するのではなく、原因を探り、その原因に沿った対処をする」と表記されており、画面左側の「中核症状」に上向きの矢印があります。
	６つの表記内容の読み上げが必要	「なぜ佐々木さんは帰りたい～」の音声は削除 画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「なぜ佐々木さんは帰りたいのでしょうか、原因を考えてみましょう」と表記されています。 その下に、左上から、「身体要因」「心理的要因」「認知機能」「環境要因」「人間関係」「生活要因」と表記されています。
	４つの表記内容の読み上げが必要	画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「どのような対応が望ましいでしょうか」と表記されています。 その下に、左上から、「記憶障害、見当識の障害、思考力や判断力の障害、実行機能の障害等」「心理、環境、対応、身体的不調等」「内的世界を理解した対応を」「チームで対応する」と表記されています。

学習用動画画面	修正対応方針	音声解説例
	６つの表記内容の読み上げが必要	「佐々木さんへのかかわり方」の音声は削除 画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「佐々木さんへのかかわり方」と表記されています。 その下に、左上から、「かかわる時の態度が失礼」「曖昧な表現が多い」「一方的に一度に多くの情報を伝えている」「最近の用語・言葉の理解は難しい」「抽象的、さらに記憶にかかわる質問は難しい」「子供に対するような話し方が不適切」と表記されています。
	スライドタイトルの読み上げと、写真を除いた文章の読み上げが必要	画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「不適切な態度」と表記されています。 その下に、行ってはいけない例として「上から見下ろすこと」「後ろから話しかけること」「遠くから大声で名前をよぶこと」「無視すること」「本人の前で平気でほかのスタッフと関係のない話をすること」「無言でケアすること」「こども扱いすること」が表記されています
	スライドタイトルの読み上げが必要	「不適切な言葉づかい」
	画面説明が必要	画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「もの忘れに対する不適切な対応」と表記されています。 画面左側には記号のバツと「不適切な例」「もの忘れを責めるような言葉」として「だから」「何度も言っているように」「先ほども言ったように」と表記されています。 画面右側には記号のマルと「適切な例」「もの忘れを感じさせないような言葉」として「そうですね」「そうでしたか」「わかりました」と表記されています。
	スライドタイトルの読み上げが必要 1．～　のタイトル読み上げが必要	「早口や理解できない言葉を使うこと」 「1　早口で情報を伝えること」
	2．～　のタイトル読み上げが必要	「2　多くの情報を一度に伝えること」

学習用動画画面	修正対応方針	音声解説例
	3．～　のタイトル読み上げが必要	「3　本人が分からないことを質問すること」
	4．～　のタイトル読み上げが必要	「4　流行の言葉や、高齢者にとってなじみのない言葉を使うこと」
	タイトル読み上げが必要 行ってはいけないまで	「無理強いや強制すること」 「おこなってはいけない」
	タイトル読み上げが必要	「本人の内的世界を理解しない対応」 「不適切なケア」
	スライドタイトルと、支援者の態度まで読み上げが必要	※意思を尊重する～は音声あり 「支援者の態度」
	①～の読み上げが必要	「まるいち　意思形成支援」

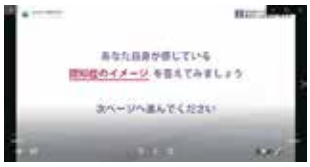
学習用動画画面	修正対応方針	音声解説例
	②～の読み上げが必要	「まるに　意思表明支援」
	③～の読み上げが必要	「まるさん　意思実現支援」
	タイトル読み上げが必要	「意思決定支援チームと意思決定支援会議」
	画面表示全体の説明が必要	画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「意思決定支援チームと意思決定支援会議」と表記されています。 その下に「チームでの情報共有　共同での検討」として「意思決定支援の判定」「支援方法に困難や疑問がある場合」「本人にとって見過ごすことのできない重大な影響がある場合」「本人の意思を反映させた場合、他社の利益と衝突する恐れのある場合」と表記されています。
	画面表示全体の説明が必要	画面の説明です。 「チームでの情報共有　共同での検討」の下に「支援のプロセスを適切に踏まえているか確認」として「支援の参考となる情報や記録が十分に収集されているか」「能力を踏まえた適切な支援か」「支援への参加者の構成は適切か」と表記されています。
	画面文字の読み上げが必要	「ケアの共有に必要な情報」 「ケア内容の記録の重要性」

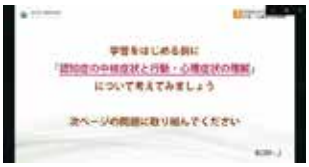
学習用動画画面	修正対応方針	音声解説例
	画面文字の読み上げが必要	「ケアの共有に必要な情報」 「ケアの内容の根拠を考えることの大切さ」
	画面文字の読み上げが必要	「ケアの共有に必要な情報」 「認知症の人と介護家族の生活の質の向上を目指したケア」
	介護家族のストレスや介護負担の音声が差し変わってるので再度作成	「介護家族のストレスや介護負担」
	出典の英語の発音がおかしいので、正しい英語発音に修正	出典 1　コーヘン　ディー　アンド　アイスドーファー　シーディプレッションインファミリーメンバーズ　ケアリングフォーア　レラティブウィズ　アルツハイマーズディズィーズ ジャーナルオブ　ジ　アメリカンジェリアトリックスソサイエティ　34　(1988) 2　ダブリューエイチオー　メディアセンターニュースリリース　ディメンシアケースィーズ　セットトゥートリプル　バイトゥーサウザンドフィフティー　バットスティルラージリーイグノアードイレブン　エイプリル　(2012)"
	スライドタイトル読み上げが必要	「認知症介護特有の問題点」
	スライドタイトルと、①～　の読み上げが必要	「家族支援と家族の心構え」 「まるいち　家族支援を含めた認知症介護の視点」

学習用動画画面	修正対応方針	音声解説例
	画面内文章の読み上げが必要	画面スライドの説明です。 画面上部には、「認知症セ策推進大綱　５つの柱」と表記されています。 その下に 1.　普及啓発・本人発信支援 2.　予防 3.　医療・ケア・介護サービス・介護者への支援 4.　認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援 5.　研修開発・産業促進・国際展開 と表記されています。
	画面説明が必要	背景の説明です。 認知症カフェに詳しい認知症介護研究・研修仙台センター研修部長の矢吹知之さんが画面に向かって話している様子が映っています。
	画面説明が必要	背景の説明です。 広いカフェのような場所で、たくさんのテーブルに２～４名程度の方がお茶を飲みながら座っており、椅子に座って話している女性の話を聞いている様子が映っています。
	画面説明が必要	広いカフェのカウンターで、２人の女性がコーヒーを入れるために、コーヒー豆にお湯を注いでいる様子が映っています。
	画面説明が必要	40 人前後の方々がカフェの中で、集合して写真に写っている様子が表示されています。
	画面内文章の読み上げが必要	画面スライドの説明です。 画面上部には、「認知症バリアフリーの推進」と表記されています。 その下に 1.　バリアフリーのまちづくりの推進 2.　移動手段の確保の推進 3.　交通安全の確保の推進 4.　住宅の確保の推進 5.　地域支援体制の強化 6.　認知症に関する取り組みを実施している企業等の認証制度や表彰 7.　商品・サービス開発の推進 8.　金融商品開発の推進 9.　成年後見制度の利用推進 10.　消費者被害防止セ策の推進 11.　虐待防止セ策の推進 12.　認知症に関する様々な民間保険の推進 13.　違法行為を行った高齢者等への福祉的支援 と表記されています。

学習用動画画面	修正対応方針	音声解説例
	画面説明が必要	全国若年性認知症支援センター室長の山口喜樹さんが画面に向かって話している様子が映っています。
	画面説明が必要	中くらいの研修会場の部屋で、多くの人が、講師の話を聞いて勉強している様子が映っています
	画面説明が必要	老若男女、色々な年代の方々 30 名から 40 名程度の方々が、野球場の廊下で集合写真に写っている様子が表示されています。
	タイトル読み上げ	画面の説明です。 画面じょう部のタイトルには「問題行動から行動心理症状へ」と表記されています。 その下に大きい文字で「問題行動というとらえ方」と表記されています。 画面かぶに左から「徘徊」「妄想」「攻撃的行動」「「不潔行為」「異食」と表記されています。 5 つの文字から矢印が伸びており、その先には「ケアを困惑させる行為 イコール 問題行動としてとらえる」と表記されています
	画面内文章の読み上げが必要	画面の説明です。 画面じょう部左側に「行動症状」と表記されています。 その下には、「徘徊「不穏」「不適切な行動」「攻撃性」「焦燥」「多動」「性的脱却制」と表記されています。
	画面内文章の読み上げが必要	画面の説明です。 画面じょう部右側に「心理症状」と表記されています。 その下には、「妄想「そう鬱」「不安」「無気力」「幻覚」「不眠」「誤認」「情緒不安定」と表記されています。

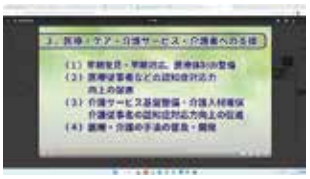
表 4-2-5　学習用動画ファイルに関する追加修正対応

達成基準	学習章	学習項目	対象画面	対応方法
誤字	認知症の人の理解と対応の基本	研修の目的		身に付けるに修正
色の使用	序章　認知症を取り巻く現状	認知症施策推進大綱		「認知症と共に生きる希望宣言」のスライドは、行間が詰まっているため、枠線を追加 それ以外は下線を追加
色の使用	第１章　認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方	はじめに		「認知症のイメージ」に下線追加
色の使用		1. パーソン･センタード･ケア		「病気」下線追加
色の使用		2. 認知症の人への偏見・誤解とその解消		下線の追加
色の使用		3. 介護者の視点		下線の追加
色の使用		4. 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援とは		「形成」「表明」「実現」に下線

達成基準	学習章	学習項目	対象画面	対応方法
色の使用	第２章．認知症の定義と原因疾患	1. 認知症とはなにか１		「認知症とは何か」に下線
色の使用		2. 認知症の原因疾患：アルツハイマー型認知症の原因と主要な症状		下線の追加
色の使用		2. 血管性認知症の原因と主要な症状		「日常生活の障害」「感情面の障害」下線追加
色の使用		2. レビー小体型認知症の原因と主要な症状		下線の追加
色の使用	第３章　認知症の中核症状と行動・心理症状の理解	1. 認知症の中核症状と行動・心理症状の理解１		「認知症の中核症状と行動・心理症状の理解」に下線追加
色の使用		1. 認知症の中核症状と行動・心理症状の理解２		「判断力が低下」に下線を追加。「運動機能の障害がない」に下線を追加
色の使用		2. 中核症状の生活への影響		下線の追加
色の使用		4. 行動・心理症状のとらえ方と出現原因		「不適切な表現」に下線追加 （介護者の視点）に下線追加

達成基準	学習章	学習項目	対象画面	対応方法
色の使用		6. 健康管理 2		下線の追加
色の使用	第 4 章　認知症ケアの基礎技術	1. 認知症の治療 1		「認知症の治療」に下線を追加
色の使用		2. 認知症の人の適切な関わり方 2（自由記述問題 2）		下線の追加
誤字		3. 認知症の症状への対応（自由記述問題 1）		字幕の修正
色の使用		3. 認知症の症状への対応（自由記述問題 2）		「初めて」に下線追加

達成基準	学習章	学習項目	対象画面	対応方法
色の使用		4. 意思を尊重する支援方法とは 1		「意思を尊重する支援方法」に下線を追加
色の使用		4. 意思を尊重する支援方法とは 2		意思決定支援のスライド下線追加 「環境の整備」に下線を追加 「本人の意思に沿っているかが重要」に下線を追加
色の使用		5. チームケアの基本		ケアの共有に必要な情報「優れた」「重要な」「チーム」「円滑」下線を追加
色の使用		6. 家族介護者の理解と支援方法 1		下線の追加
色の使用		6. 家族介護者の理解と支援方法 2		下線の追加

達成基準	学習章	学習項目	対象画面	対応方法
音声解説	序章　認知症を取り巻く現状	認知症施策推進大綱	① ② ③ 	①「認知症瀬策推進大綱　認知症瀬策推進関係閣僚会議（令和元年６月18日）資料より　」の説明を追加 ②「介護要望教室なにわ元気塾大阪市」の説明を追加 →既存の説明に上記を追加 ③画面の説明を追加 →以下の説明を追加 画面の説明です 3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援として 1　早期発見・早期対応、医療体制の整備 2　医療従事者などの認知症対応力向上の促進 3　介護サービス基盤整備・介護人材確保 介護従事者の認知症対応力向上の促進 4　医療・介護の手法の普及・開発 5　認知症の人の介護者の負担軽減の推進 と表記されています
音声解説			④ ⑤ 	・画面の説明を追加 ・「全国若年性認知症支援センター　室長　山口喜樹」さんの説明を追加 　専門職向けの研修会、一般の方向けの啓発事業、本人・家族交流会の外出イベント
音声解説		4. 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援とは		画面表記の文字を全て音声説明
音声解説		2. 血管性認知症の原因と主要な症状		「B さん」の説明（83 歳、男性）の説明が必要 上記の音声を追加
音声解説		2. レビー小体型認知症の原因と主要な症状		「C さん」の説明（82 歳、女性）の説明が必要 上記の音声を追加

達成基準	学習章	学習項目	対象画面	対応方法
音声解説		2. 前頭側頭型認知症の原因と主要な症状		「D さん」の説明（78 歳、女性）の説明が必要 上記の音声を追加
音声解説		1. 認知症の中核症状と行動・心理症状の理解 2		画面表記の文字を全て音声説明
音声解説		4. 行動・心理症状のとらえ方と出現原因	① ② 	画面表記の文字を全て音声説明
音声解説		6. 健康管理 2		画面表記の文字を全て音声説明
誤字		2. 認知症の人の適切な関わり方（事例演習）		あるのでしょうかをあるでしょうかに修正
音声解説		3. 認知症の症状への対応 2		画面表記の文字を全て音声説明
音声解説		3. 認知症の症状への対応（自由記述問題 2）		画面表記の文字を全て音声説明

達成基準	学習章	学習項目	対象画面	対応方法
音声解説		6. 家族介護者の理解と支援方法 1		画面表記の文字を全て音声説明

Ⅴ 視・聴覚障がいを補償する認知症介護基礎研修 e ラーニングシステムに関する課題と方向性

1．適合レベルＡＡＡ達成基準項目の検証

本事業における検証は JIS X 8341-3 における適合レベル AA に関する達成基準 38 項目を中心に検証を実施しているが、適合レベル AAA に関する 23 項目の達成基準についても検証を行う必要がある。特に視覚障がいを補償するための機能については円滑な学習環境を提供するためにも、適合レベル AAA の達成基準を満たす必要があるだろう。

2．修正作業の継続とシステム改定

本年度の事業はアクセシビリティ基準による検証の実施と課題の抽出および修正内容の検討を実施したが、障がい等を有する学習者が早急に利用可能とするためには、本修正内容案を踏まえた改定作業を継続し、再検証に基づく再修正後、早期に稼働体制を整備する必要がある。

3．当事者によるモニター検証の必要性

JIS X 8341-3 の達成基準に準拠した検証および修正を実施した後、視覚、聴覚、四肢に障がいを有する方や高齢者等をモニターとした、ユーザービリティテストによって学習者視点でのアクセシビリティチェックが必要である。視覚障がいも全盲、弱視、色覚など多様な障がいの状況が考えられ、また学習者によって操作環境が異なっており、各学習者の操作環境を踏まえた課題を明らかにし、課題に応じた再調整が必要である。

4．公開時期

本システムは、全国の介護事業所の職員を対象とした稼働中のシステムである。令和 3 年度から令和 5 年度の 3 年間を経過措置として介護保険事業者に義務付けられた研修用システムであることから、最終年度である令和 5 年度内での実施環境を早期に整備する必要がある。よって本事業における修正方針を踏まえ早期に修正作業を実施しシステム公開を行うことが必要である。

Ⅵ. 参考資料
1

W3C：Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0

W3C 勧告 2008 年 12 月 11 日（ウェブアクセシビリティ基盤委員会 HP：
https://waic.jp/translations/WCAG20/Overview.html より引用）

W3C Recommendation

【注意】 この文書は、2008 年 12 月 11 日付の W3C 勧告「WCAG 2.0」(原文は英語)を、情報通信アクセス協議会の「ウェブアクセシビリティ基盤委員会 (WAIC)」が翻訳と修正をおこなって公開しているものです。この文書の正式版は、あくまで W3C のサイト内にある英語版であり、この文書には翻訳上の間違い、あるいは不適切な表現が含まれている可能性がありますのでご注意ください。

この文書内にあるリンクのうち、「Understanding WCAG 2.0」「Techniques for WCAG 2.0」「How to Meet WCAG 2.0」へのリンクについては、WAIC の公開する日本語版にリンク先を追加しています。WAIC の日本語訳は、 W3C の公開する英語版より内容が古い可能性がありますのでご注意ください。

[目次]

Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0

W3C 勧告 2008 年 12 月 11 日

このバージョン:
http://www.w3.org/TR/2008/REC-WCAG20-20081211/
最新バージョン:
http://www.w3.org/TR/WCAG20/
前のバージョン:
http://www.w3.org/TR/2008/PR-WCAG20-20081103/
編集者:
Ben Caldwell, Trace R&D Center, University of Wisconsin-Madison
Michael Cooper, W3C
Loretta Guarino Reid, Google, Inc.
Gregg Vanderheiden, Trace R&D Center, University of Wisconsin-Madison
過去の編集者:
Wendy Chisholm (until July 2006 while at W3C)
John Slatin (until June 2006 while at Accessibility Institute, University of Texas at Austin)
Jason White (until June 2005 while at University of Melbourne)

規定に対する修正が含まれている場合があるので、この文書の **errata** もあわせて参照。

翻訳版も参照できる。

この文書は、次の規定ではないフォーマットでも入手できる:

- Alternate Versions of Web Content Accessibility Guidelines 2.0

Copyright © 2008 W3C® (MIT, ERCIM, Keio), All Rights Reserved. W3C liability, trademark and document use rules apply.

概要

Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0 は、ウェブコンテンツをよりアクセシブルにするための広範囲に及ぶ推奨事項を網羅している。 このガイドラインに従うことで、全盲又はロービジョン、ろう又は難聴、学習障害、認知障害、運動制限、発話困難、光感受性発作及びこれらの組合せ等を含んだ、様々な障

害のある人に対して、コンテンツをアクセシブルにすることができる。又、このガイドラインに従うと、多くの場合、ほとんどの利用者にとってウェブコンテンツがより使いやすくなる。

WCAG 2.0 の達成基準は、技術に依存しない検証可能なものとして記述されている。特定の技術において達成基準を満たすためのガイドについては、達成基準を理解するための一般的な情報とあわせて、別の文書群として提供している。イントロダクション及び WCAG の達成方法や教育に関する資料については、Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) Overviewを参照。

WCAG 2.0 は、1999年5月に W3C 勧告として公開された Web Content Accessibility Guidelines 1.0 [WCAG10] の後継となる仕様である。WCAG 1.0 又は WCAG 2.0 のいずれか (あるいは、その両方) に適合することは可能だが、W3C はコンテンツを新規で制作する場合及び既存のコンテンツを更新する場合には WCAG 2.0 を用いることを推奨する。又、W3C は、ウェブアクセシビリティに関する方針や政策においても、WCAG 2.0 を参照することを推奨する。

この文書のステータス

この節では、この文書の発行された時点でのステータスを説明する。この文書が、他の文書によって置き換えられている場合もある。現行の *W3C* の発行文書及びこのテクニカルレポートの改訂版は、*http://www.w3.org/TR/* にある *W3C technical reports index*で参照可能である。

これは、Web Content Accessibility Guidelines Working Group が作成した Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0 W3C 勧告 である。

この文書は、W3C 会員、ソフトウェア開発者、及びその他の W3C グループや関係者によってレビューされており、ディレクターにより W3C 勧告として承認されたものである。安定した文書であり、参考資料として用いること、他の文書で引用することができる。勧告の作成における W3C の役割は、その仕様への関心を引いて、広く普及させていくことにある。これにより、ウェブの機能及び相互運用性の向上につながる。

WCAG 2.0 には、規定ではない関連文書の Understanding WCAG 2.0 [日本語訳] 及び Techniques for WCAG 2.0 [日本語訳] がある。それらの文書には、WCAG 2.0 自体が有する正式なステータスはないものの、WCAG の理解及び実装に関する重要な情報を提供している。

ワーキンググループへのコメントは、 online comment form を使って送っていただきたい。もしそれができない場合は、 public-comments-wcag20@w3.org 宛に電子メールで送信することも可能である。archives for the public comments listは誰でも利用可能である。WCAG 2.0 の勧告に関して寄せられたコメントにより、このバージョンのガイドラインを変更することはできないが、 errata あるいは WCAG の将来のバージョンに反映されることはある。又、コメントに対して、ワーキンググループが正式な返答をする予定はない。WCAG WG mailing list discussionsは一般に公開されており、この文書に関して寄せられたコメントについては、ワーキンググループが将来的に対処することがあるかもしれない。

この文書は、W3Cの Web Accessibility Initiative (WAI) の活動の一環として作成されたものである。WCAG Working Groupの目的については、 Web Content Accessibility Guidelines Working Group Charterに記載されている。WCAG Working Groupは、WAI Technical Activityの一つである。

この文書は、5 February 2004 W3C Patent Policyに則って運営するワーキンググループによって作成された。W3C では、ワーキンググループの成果物に関係する public list of any patent disclosuresを管理しており、そのページには、特許を開示するにあたっての指示も記載されている。 Essential Claim(s)を含んでいると思われる特許について知識のある人は、 section 6 of the W3C Patent Policyに従ってその情報を開示しなければならない。

目次

- イントロダクション
  - WCAG 2.0 ガイダンスのレイヤー
  - WCAG 2.0 関連文書
  - WCAG 2.0 における重要な用語
- WCAG 2.0 ガイドライン
  - 1 知覚可能

1.1 すべての非テキストコンテンツには、拡大印刷、点字、音声、シンボル、平易な言葉などの利用者が必要とする形式に変換できるように、テキストによる代替を提供すること。

1.2 時間依存メディアには代替コンテンツを提供すること。

1.3 情報、及び構造を損なうことなく、様々な方法 (例えば、よりシンプルなレイアウト) で提供できるようにコンテンツを制作すること。

1.4 コンテンツを、利用者にとって見やすく、聞きやすいものにすること。これには、前景と背景を区別することも含む。

2 操作可能

2.1 すべての機能をキーボードから利用できるようにすること。

2.2 利用者がコンテンツを読み、使用するために十分な時間を提供すること。

2.3 発作を引き起こすようなコンテンツを設計しないこと。

2.4 利用者がナビゲートしたり、コンテンツを探し出したり、現在位置を確認したりすることを手助けする手段を提供すること。

3 理解可能

3.1 テキストのコンテンツを読みやすく理解可能にすること。

3.2 ウェブページの表示や挙動を予測可能にすること。

3.3 利用者の間違いを防ぎ、修正を支援すること。

4 堅牢 (robust)

4.1 現在及び将来の、支援技術を含むユーザエージェントとの互換性を最大化すること。

適合

適合要件

適合表明 (任意)

部分適合に関する記述 – 第三者によるコンテンツ

部分適合に関する記述 – 言語

附録

附録 A: 用語集 (規定)

附録 B: 謝辞

附録 C: 参考文献

イントロダクション

この節は、参考情報である。

Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0 は、ウェブコンテンツを障害者にとってよりアクセシブルにする方法を定義している。アクセシビリティは、視覚、聴覚、身体、発話、認知、言語、学習、神経の障害を含む、広範な障害に関係している。このガイドラインは、広範囲に及ぶ事項を網羅しているが、障害のすべての種類、程度、組合せからくるニーズを満たすことはできない。また、このガイドラインは、加齢により能力が変化している高齢者にとってもウェブコンテンツをより使いやすくするものであるとともに、しばしば利用者全般のユーザビリティを向上させる。

WCAG 2.0 は、ウェブコンテンツのアクセシビリティに対して、様々な国の個人、組織、政府のニーズを満たすような共通の基準を提供することを目的として、W3C processに従って世界中の個人及び組織の協力のもと作成されている。WCAG 2.0 は WCAG 1.0 [WCAG10] をふまえ、現在及び将来の様々なウェブ技術に広く適用できるように設計されており、自動テストと人間による評価の組合せによって検証できるようになっている。WCAG のイントロダクションとしては、Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) Overview を参照。

ウェブアクセシビリティは、アクセシブルなコンテンツだけではなく、アクセシブルなウェブブラウザやその他のユーザエージェントにも依存している。そして、オーサリングツールもウェブアクセシビリティにおいて

重要な役割を担っている。ウェブ開発やインタラクションを構成するこれらの要素が相互にどのように関係しているかの概要については、以下を参照:

- **Essential Components of Web Accessibility**
- **User Agent Accessibility Guidelines (UAAG) Overview**
- **Authoring Tool Accessibility Guidelines (ATAG) Overview**

WCAG 2.0 ガイダンスのレイヤー

WCAG を用いる個人や組織は実に幅広く、ウェブデザイナーや開発者、政策立案者、調達担当者、教師、及び生徒などが含まれる。これらの人たちの様々なニーズに応えるために WCAG 2.0 では、原則、一般的なガイドライン、検証可能な達成基準、十分な達成方法、参考達成方法、及びよくある失敗例を示した豊富な文書群を含む様々なレイヤーのガイダンスが、事例や参考リンク及びコードとともに提供されている。

- **原則** - 最上位には、ウェブアクセシビリティの土台となる四つの原則がある: 知覚可能、操作可能、理解可能、及び堅牢 *(robust)*。あわせて、Understanding the Four Principles of Accessibility [日本語訳]も参照。
- **ガイドライン** - 原則の下にあるのがガイドラインである。12のガイドラインは、様々な障害のある利用者に対してコンテンツをよりアクセシブルにするためにコンテンツ制作者が取り組むべき基本的な目標を提供している。これらのガイドラインは検証可能ではないが、コンテンツ制作者が達成基準を理解し、より適した達成方法を用いることができるように、全体的な枠組みや全般的な目的を提供するものである。
- **達成基準** - 各ガイドラインには、検証可能な達成基準が設けられており、デザイン仕様検討、調達、基準策定、及び契約上の合意などにあたりその要件や適合試験が必要となる際に WCAG 2.0 を用いることが可能である。様々なユーザ層や状況からくるニーズを満たすために、三つの適合レベルが定義されている: A (最低レベル)、AA、AAA (最高レベル)。WCAG のレベルに関する補足情報は、Understanding Levels of Conformance [日本語訳]を参照。
- **十分な達成方法及び参考達成方法** - WCAG 2.0 文書自体にあるガイドライン及び達成基準それぞれに対して、ワーキンググループは達成方法についても広範囲にわたって文書化している。達成方法は参考情報であり、二つのカテゴリに分類される: 達成基準を満たすのに十分な達成方法と参考達成方法である。参考達成方法は、個々の達成基準の要件を上回るもので、これらの達成方法を用いることで、コンテンツ制作者はガイドラインに対してより良い対処をすることができる。参考達成方法の中には、検証可能な達成基準によってカバーされていないアクセシビリティの問題に対処するものもある。よくある失敗例がある場合は、それも文書化されている。Sufficient and Advisory Techniques in Understanding WCAG 2.0 [日本語訳]も参照。

このガイダンスのレイヤー (原則、ガイドライン、達成基準、十分な達成方法及び参考達成方法) はすべて、コンテンツをよりアクセシブルにする方法に関するガイダンスを提供するために連携している。コンテンツ制作者は可能な範囲で最も広い利用者のニーズに最大限対処できるように、参考達成方法を含めたすべてのレイヤーを確認して適用することが推奨される。

注意すべきなのは、最高レベル (AAA) で適合しているコンテンツでさえも、すべての種類、程度あるいは組合せの障害者、特に、認知、言語及び学習の面において、アクセシブルではないということである。コンテンツ制作者は、参考達成方法を含むすべての達成方法を考慮するとともに、 ウェブコンテンツが可能な限りアクセシブルであることを確実にするためにも、こうした人たちに対して、現状における最善の対応策に関するアドバイスを追い求めることが推奨される。メタデータ [日本語訳]は、彼らのニーズに最適なコンテンツを探し出す際に、利用者を支援できる可能性がある。

WCAG 2.0 関連文書

WCAG 2.0 の文書は、安定した参照可能な技術標準を必要とする人たちのニーズを満たすように作成されている。関連文書と呼ばれるその他の文書は、WCAG 2.0 文書に基づいて、WCAG が新しい技術にどのように適用されるかを説明するために更新できるようにすることを含め、その他の重要な役割を果たすものである。関連文書には以下に挙げるものがある:

1. **How to Meet WCAG 2.0 [日本語訳]** - WCAG 2.0 のカスタマイズ可能なクイックリファレンス。コンテンツ制作者がウェブコンテンツを制作したり評価したりする際に用いるガイドライン、達成基準、達成方法のすべてが含まれる。

2. **Understanding WCAG 2.0 [日本語訳]** - WCAG 2.0 を理解して実践するための解説書。重要なトピックスとあわせて、WCAG 2.0 の各ガイドライン及び達成基準を「理解する」ための簡潔な文書がある。
3. **Techniques for WCAG 2.0 [日本語訳]** - 達成方法集及びよくある失敗例集。個々に別々の文書になっており、解説、事例、コード例、テストが含まれる。
4. **The WCAG 2.0 Documents** - 技術文書群がどのように関係していてリンクされているのかを示した図と解説。

WCAG 2.0 に関する教育資料を含む関連資料の説明は、Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) Overviewを参照。例えば、ウェブアクセシビリティのビジネスにおける効果、ウェブサイトのアクセシビリティを改善するための実施計画作成、及びアクセシビリティ方針といったトピックに関する補足資料は、WAI Resourcesに挙げられている。

WCAG 2.0 における重要な用語

WCAG 2.0 では、WCAG 1.0 とは異なる三つの重要な用語が用いられている。それぞれを以下で簡潔に紹介し、その詳細は用語集で定義する。

ウェブページ
重要なのは、「ウェブページ」という用語が、この規格において、静的な HTML ページ以外のものも含むことに注意することである。バーチャルでインタラクティブなコミュニティ全体を提供できる「ページ」など、ウェブ上に登場してきているより動的なウェブページも含まれる。例えば、「ウェブページ」という用語には、単一の URI で提供される、没入型でインタラクティブな映画のような体験も含まれる。より詳細な情報は、Understanding "Web Page" [日本語訳]を参照。

プログラムによる解釈
いくつかの達成基準では、コンテンツ (あるいは、コンテンツのある部分) を「プログラムによる解釈」が可能にすることを要求している。これは、支援技術を含むユーザエージェントがそのコンテンツから情報を抽出し、様々な感覚モダリティで利用者に提供できることを意味している。より詳細な情報は、Understanding Programmatically Determined [日本語訳]を参照。

アクセシビリティ サポーテッド
技術をアクセシビリティ サポーテッドな方法で用いるとは、支援技術及びオペレーティングシステム、ブラウザ、その他のユーザエージェントのアクセシビリティ機能とともにその技術を用いるということを意味する。WCAG 2.0 の達成基準を満たすために、ある技術の機能に依存 することができるのは、その技術の機能が「アクセシビリティ サポーテッド」な方法で用いられている場合だけである。ある技術の機能をアクセシビリティ サポーテッドではない (支援技術では使えないなどの) 方法で用いることができるのは、なんらかの達成基準を満たすためにその技術の機能に依存していない (つまり同じ情報又は機能がアクセシビリティ サポーテッドな他の方法でも利用できる) 場合だけである。
「アクセシビリティ サポーテッド」の用語定義は、このガイドラインの附録 A: 用語集で提供されている。より詳細な情報は、Understanding Accessibility Support [日本語訳]を参照。

WCAG 2.0 ガイドライン

この節は、規定である。

> 原則 1: 知覚可能 - 情報及びユーザインタフェース コンポーネントは、利用者が知覚できる方法で利用者に提示可能でなければならない。

ガイドライン 1.1 テキストによる代替: すべての非テキストコンテンツには、拡大印刷、点字、音声、シンボル、平易な言葉などの利用者が必要とする形式に変換できるように、テキストによる代替を提供すること。	Understanding Guideline 1.1 [日本語訳]

1.1.1 非テキストコンテンツ: 利用者に提示されるすべての非テキストコンテンツには、同等の目的を果たすテキストによる代替が提供されている。ただし、次の場合は除く: (レベル A)

- **コントロール、入力:** 非テキストコンテンツが、コントロール又は利用者の入力を受け付けるものであるとき、その目的を説明する名前 (name) を提供している。 (コントロール及び利用者の入力を受け入れるコンテンツに関するその他の要件は、ガイドライン 4.1を参照。)
- **時間依存メディア:** 非テキストコンテンツが、時間に依存したメディアであるとき、テキストによる代替は、少なくとも、その非テキストコンテンツを識別できる説明を提供している。 (メディアに関するその他の要件は、ガイドライン 1.2を参照。)
- **テスト:** 非テキストコンテンツが、テキストで提示されると無効になるテスト又は演習のとき、テキストによる代替は、少なくともその非テキストコンテンツを識別できる説明を提供している。
- **感覚的:** 非テキストコンテンツが、特定の感覚的体験を創り出すことを主に意図しているとき、テキストによる代替は、少なくともその非テキストコンテンツを識別できる説明を提供している。
- **CAPTCHA:** 非テキストコンテンツが、コンピュータではなく人間がコンテンツにアクセスしていることを確認する目的で用いられているとき、テキストによる代替は、その非テキストコンテンツの目的を特定し、説明している。なおかつ、他の感覚による知覚に対応して出力する CAPTCHA の代替形式を提供することで、様々な障害に対応している。
- **装飾、整形、非表示:** 非テキストコンテンツが、純粋な装飾である、見た目の整形のためだけに用いられている、又は利用者に提供されるものではないとき、支援技術が無視できるように実装されている。

How to Meet 1.1.1 [日本語訳]
Understanding 1.1.1 [日本語訳]

ガイドライン 1.2 時間依存メディア: 時間依存メディアには代替コンテンツを提供すること。

Understanding Guideline 1.2 [日本語訳]

1.2.1 音声のみ及び映像のみ (収録済) : 収録済の音声しか含まないメディア及び収録済の映像しか含まないメディアは、次の事項を満たしている。ただし、その音声又は映像がメディアによるテキストの代替であって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされている場合は除く: (レベル A)

- **収録済の音声しか含まない場合:**時間依存メディアに対する代替コンテンツによって、収録済の音声しか含まないコンテンツと同等の情報を提供している。
- **収録済の映像しか含まない場合:** 時間依存メディアに対する代替コンテンツ又は音声トラックによって、収録済の映像しか含まないコンテンツと同等の情報を提供している。

How to Meet 1.2.1 [日本語訳]
Understanding 1.2.1 [日本語訳]

1.2.2 キャプション (収録済) : 同期したメディアに含まれているすべての収録済の音声コンテンツに対して、キャプションが提供されている。ただし、その同期したメディアがメディアによるテキストの代替であって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされている場合は除く。 (レベル A)

How to Meet 1.2.2 [日本語訳]
Understanding 1.2.2 [日本語訳]

1.2.3 音声解説、又はメディアに対する代替 (収録済) : 同期したメディアに含まれている収録済の映像コンテンツに対して、時間依存メディアに対する代替コンテンツ又は音声解説が提供されている。ただし、その同期したメディアがメディアによるテキストの代替であって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされている場合は除く。 (レベル A)

How to Meet 1.2.3 [日本語訳]
Understanding 1.2.3 [日本語訳]

1.2.4 キャプション (ライブ) : 同期したメディアに含まれているすべてのライブの音声コンテンツに対してキャプションが提供されている。 (レベル AA)

How to Meet 1.2.4 [日本語訳] Understanding

1.2.5 音声解説 (収録済) : 同期したメディアに含まれているすべての収録済の映像コンテンツに対して、音声解説が提供されている。 (レベル AA)

How to Meet 1.2.5 [日本語訳] Understanding 1.2.5 [日本語訳]

1.2.6 手話 (収録済) : 同期したメディアに含まれているすべての収録済の音声コンテンツに対して、手話通訳が提供されている。 (レベル AAA)

How to Meet 1.2.6 [日本語訳] Understanding

1.2.7 拡張音声解説 (収録済) : 前景音の合間が、音声解説で映像の意味を伝達するのに不十分な場合、同期したメディアに含まれているすべての収録済の映像コンテンツに対して、拡張音声解説が提供されている。 (レベル AAA)

How to Meet 1.2.7 [日本語訳] Understanding

1.2.8 メディアに対する代替 (収録済) : すべての収録済の同期したメディア及びすべての収録済の映像しか含まないメディアに対して、時間依存メディアに対する代替コンテンツが提供されている。 (レベル AAA)

How to Meet 1.2.8 [日本語訳] Understanding

1.2.9 音声のみ (ライブ) : ライブの音声しか含まないコンテンツに対して、それと同等の情報を提示する、時間依存メディアの代替コンテンツが提供されている。 (レベル AAA)

How to Meet 1.2.9 [日本語訳] Understanding 1.2.9 [日本語訳]

ガイドライン 1.3 適応可能: 情報、及び構造を損なうことなく、様々な方法 (例えば、よりシンプルなレイアウト) で提供できるようにコンテンツを制作すること。

Understanding Guideline 1.3 [日本語訳]

1.3.1 情報及び関係性: 何らかの形で提示されている情報、 構造、及び関係性は、プログラムによる解釈が可能である、又はテキストで提供されている。 (レベル A)

How to Meet 1.3.1 [日本語訳] Understanding

1.3.2 意味のある順序: コンテンツが提示されている順序が意味に影響を及ぼす場合には、正しく読む順序はプログラムによる解釈が可能である。 (レベル A)

How to Meet 1.3.2 [日本語訳] Understanding

1.3.3 感覚的な特徴: コンテンツを理解し操作するための説明は、形、大きさ、視覚的な位置、方向、又は音のような、構成要素が持つ感覚的な特徴だけに依存していない。 (レベル A)

注記: 色に関する要件は、ガイドライン 1.4を参照。

How to Meet 1.3.3 [日本語訳] Understanding 1.3.3 [日本語訳]

ガイドライン 1.4 判別可能: コンテンツを、利用者にとって見やすく、聞きやすいものにすること。これには、前景と背景を区別することも含む。

Understanding Guideline 1.4 [日本語訳]

1.4.1 色の使用: 色が、情報を伝える、動作を示す、反応を促す、又は視覚的な要素を判別するための唯一の視覚的手段になっていない。 (レベル A)

How to Meet 1.4.1 [日本語訳]

注記: この達成基準は、特に色の知覚を扱う。その他の知覚形態については、色やその他の視覚的提示のコーディングへのプログラムによるアクセスも含めて、ガイドライン 1.3で網羅されている。

Understanding 1.4.1 [日本語訳]

1.4.2 音声の制御: ウェブページ上にある音声が自動的に再生され、その音声が 3 秒より長く続く場合、その音声を一時停止もしくは停止するメカニズム、又はシステム全体の音量レベルに影響を与えずに音量レベルを調整できるメカニズムのいずれかを提供する。 (レベル A)

How to Meet 1.4.2 [日本語訳]
Understanding 1.4.2 [日本語訳]

注記: この達成基準を満たさないコンテンツでは、利用者がそのウェブページ全体を使用できない恐れがあるため、ウェブページ上のすべてのコンテンツは他の達成基準を満たすために用いられているか否かにかかわらず、この達成基準を満たさなければならない。適合要件 5: 非干渉を参照。

1.4.3 コントラスト (最低限) : テキスト及び文字画像の視覚的提示に、少なくとも 4.5:1 のコントラスト比がある。ただし、次の場合は除く: (レベル AA)

How to Meet 1.4.3 [日本語訳]
Understanding 1.4.3 [日本語訳]

- **大きな文字:** サイズの大きなテキスト及びサイズの大きな文字画像に、少なくとも 3:1 のコントラスト比がある。
- **付随的:** テキスト又は文字画像において、次の場合はコントラストの要件はない。アクティブではないユーザインタフェース コンポーネントの一部である、純粋な装飾である、誰も視覚的に確認できない、又は重要な他の視覚的なコンテンツを含む写真の一部分である。
- **ロゴタイプ:** ロゴ又はブランド名の一部である文字には、最低限のコントラストの要件はない。

1.4.4 テキストのサイズ変更: キャプション及び文字画像を除き、テキストは、コンテンツ又は機能を損なうことなく、支援技術なしで 200% までサイズ変更できる。 (レベル AA)

How to Meet 1.4.4 [日本語訳]
Understanding

1.4.5 文字画像: 使用している技術で意図した視覚的提示が可能である場合、文字画像ではなくテキストが情報伝達に用いられている。ただし、次に挙げる場合を除く: (レベル AA)

How to Meet 1.4.5 [日本語訳]
Understanding 1.4.5 [日本語訳]

- **カスタマイズ可能:** 文字画像は、利用者の要求に応じた視覚的なカスタマイズができる。
- **必要不可欠:** テキストの特定の提示が、伝えようとする情報にとって必要不可欠である。

注記: ロゴタイプ (ロゴ又はブランド名の一部である文字) は必要不可欠なものであると考えられる。

1.4.6 コントラスト (高度) : テキスト及び文字画像の視覚的提示には、少なくとも 7:1 のコントラスト比がある。ただし、次の場合は除く: (レベル AAA)

How to Meet 1.4.6 [日本語訳]
Understanding 1.4.6 [日本語訳]

- **大きな文字:** サイズの大きなテキスト及びサイズの大きな文字画像には、少なくとも 4.5:1 のコントラスト比がある。
- **付随的:** テキスト又は文字画像において、次の場合はコントラストの要件はない。アクティブではないユーザインタフェース コンポーネントの一部である、純粋な装飾である、誰も視覚的に確認できない、又は重要な他の視覚的なコンテンツを含む写真の一部分である。
- **ロゴタイプ:** ロゴ又はブランド名の一部である文字には、最低限のコントラストの要件はない。

1.4.7 小さな背景音、又は背景音なし: 収録済の音声しか含まないコンテンツで、(1) 前景に主として発話を含み、(2) 音声CAPTCHA 又は音声ロゴではなく、かつ、(3) 例えば、歌やラップなどのように、主として音楽表現を意図し

How to Meet 1.4.7 [日本語訳]

た発声ではないものについては、次に挙げる事項のうち、少なくとも一つを満たしている: (レベル AAA)

Understanding 1.4.7 [日本語訳]

- **背景音なし:** 音声は背景音を含まない。
- **消音:** 背景音を消すことができる。
- **20デシベル:** 背景音は、前景にある発話のコンテンツより少なくとも20デシベルは低い。ただし、継続時間が2秒以内で発生頻度が低い背景音は除く。

  注記*:* デシベルの定義によれば、この要件を満たす背景音は、前景にある発話のコンテンツの約4分の1の大きさになる。

1.4.8 視覚的提示: テキストブロックの視覚的提示において、次を実現するメカニズムが利用できる: (レベル AAA)

How to Meet 1.4.8 [日本語訳]
Understanding 1.4.8 [日本語訳]

1. 利用者が、前景色と背景色を選択できる。
2. 幅が 80 字を越えない (全角文字の場合は、40 字)。
3. テキストが、均等割り付けされていない (両端揃えではない)。
4. 段落中の行送りは、少なくとも 1.5 文字分ある。そして、段落の間隔は、その行送りの少なくとも 1.5 倍以上ある。
5. テキストは、支援技術なしで 200%までサイズ変更でき、利用者が全画面表示にしたウィンドウで 1 行のテキストを読むときに横スクロールする必要がない。

1.4.9 文字画像 (例外なし) : 文字画像は、純粋な装飾に用いられているか、テキストの特定の提示が伝えようとする情報にとって必要不可欠である場合に用いられている。 (レベル AAA)

How to Meet 1.4.9 [日本語訳]
Understanding 1.4.9 [日本語訳]

注記*:* ロゴタイプ (ロゴ又はブランド名の一部である文字) は必要不可欠なものであると考えられる。

原則 2: 操作可能 - ユーザインタフェース コンポーネント及びナビゲーションは操作可能でなければならない。

ガイドライン 2.1 キーボード操作可能: すべての機能をキーボードから利用できるようにすること。

Understanding Guideline 2.1 [日本語訳]

2.1.1 キーボード: コンテンツのすべての機能は、個々のキーストロークに特定のタイミングを要することなく、キーボードインタフェースを通じて操作可能である。ただし、その根本的な機能が利用者の動作による始点から終点まで続く一連の軌跡に依存して実現されている場合は除く。 (レベル A)

How to Meet 2.1.1 [日本語訳]
Understanding 2.1.1 [日本語訳]

注記 *1:* 上記の例外は、根本的な機能に関するものであり、入力手法に関するものではない。例えば、テキスト入力に手書き入力を用いるのであれば、その入力手法 (手書き) は利用者の動作による軌跡に依存した入力を必要とするが、その根本的な機能 (テキスト入力) は利用者の動作による軌跡に依存した入力を必要とするものではない。

注記 *2:* これは、キーボード操作に加えて、マウス入力、又はその他の入力手段を提供することを禁ずるものでも妨げるものでもない。

2.1.2 キーボードトラップなし: キーボードインタフェースを用いてキーボードフォーカスをそのウェブページのあるコンポーネントに移動できる場合、キーボードインタフェースだけを用いてそのコンポーネントからフォーカスを外すことが可能である。さらに、修飾キーを伴わない矢印キー、 Tab キー、又は

How to Meet 2.1.2 [日本語訳]
Understanding

フォーカスを外すその他の標準的な方法でフォーカスを外せない場合は、フォーカスを外す方法が利用者に通知される。 (レベル A)

注記: この達成基準を満たさないコンテンツでは、利用者がそのウェブページ全体を使用できない恐れがあるため、ウェブページ上のすべてのコンテンツは他の達成基準を満たすために用いられているか否かにかかわらず、この達成基準を満たさなければならない。適合要件 5: 非干渉を参照。

2.1.2 [日本語訳]

2.1.3 キーボード (例外なし) : コンテンツのすべての機能は、個々のキーストロークに特定のタイミングを要することなく、キーボードインタフェースを通じて操作可能である。 (レベル AAA)

How to Meet 2.1.3 [日本語訳]
Understanding 2.1.3 [日本語訳]

ガイドライン 2.2 十分な時間: 利用者がコンテンツを読み、使用するために十分な時間を提供すること。

Understanding Guideline 2.2 [日本語訳]

2.2.1 タイミング調整可能: コンテンツに制限時間を設定する場合は、次に挙げる事項のうち、少なくとも一つを満たしている: (レベル A)

How to Meet 2.2.1 [日本語訳]
Understanding 2.2.1 [日本語訳]

- **解除:** 制限時間があるコンテンツを利用する前に、利用者がその制限時間を解除することができる。又は、
- **調整:** 制限時間があるコンテンツを利用する前に、利用者が少なくともデフォルト設定の 10 倍を超える、大幅な制限時間の調整をすることができる。又は、
- **延長:** 時間切れになる前に利用者に警告し、かつ少なくとも 20 秒間の猶予をもって、例えば「スペースキーを押す」などの簡単な操作により、利用者が制限時間を少なくとも 10 倍以上延長することができる。又は、
- **リアルタイムの例外:** リアルタイムのイベント (例えば、オークション) において制限時間が必須の要素で、その制限時間に代わる手段が存在しない。又は、
- **必要不可欠な例外:** 制限時間が必要不可欠なもので、制限時間を延長することがコンテンツの動作を無効にすることになる。又は、
- **20 時間の例外:** 制限時間が 20 時間よりも長い。

注記: この達成基準は、制限時間の結果として、コンテンツ又はコンテキストの予期せぬ変化を引き起こさないように利用者がタスクを完了できるようにするためのものである。この達成基準は、利用者の動作の結果としてのコンテンツ又はコンテキストの変化を制限する Success Criterion 3.2.1と併せて考慮すること。

2.2.2 一時停止、停止、非表示: 動きのある、点滅している、スクロールする、又は自動更新する情報は、次のすべての事項を満たしている: (レベル A)

How to Meet 2.2.2 [日本語訳]
Understanding 2.2.2 [日本語訳]

- **動き、点滅、スクロール:** 動きのある、点滅している、又はスクロールしている情報が、(1) 自動的に開始し、(2) 5秒よりも長く継続し、かつ、(3) その他のコンテンツと並行して提示される場合、利用者がそれらを一時停止、停止、又は非表示にすることのできるメカニズムがある。ただし、その動き、点滅、又はスクロールが必要不可欠な動作の一部である場合は除く。
- **自動更新:** 自動更新する情報が、(1) 自動的に開始し、 (2) その他のコンテンツと並行して提示される場合、利用者がそれを一時停止、停止、もしくは非表示にする、又はその更新頻度を調整することのできるメカニズムがある。ただし、その自動更新が必要不可欠な動作の一部である場合は除く。

注記 *1:* 画面がちらつく、又は閃光を放つコンテンツに関する要件は、ガイドライン 2.3を参照。

注記 *2:* この達成基準を満たさないコンテンツでは、利用者がそのウェブページ全体を使用できない恐れがあるため、ウェブページ上のすべてのコンテンツは他の達成基準を満たすために用いられているか否かにかかわらず、この達成基準を満たさなければならない。適合要件 5: 非干渉を参照。

注記 *3:* 定期的にソフトウェアによって自動的に更新されるコンテンツ、又はユーザエージェントにストリーム配信されるコンテンツでは、コンテンツ再生の一時停止と再開の操作の間に生成、又は受信される情報を保持、又は提示する必要はない。これは技術的に不可能であることが考えられ、多くの状況において利用者の混乱を招くことにつながる可能性があるためである。

注記 *4:* コンテンツの読み込み中やそれに類似した状況の一部として表示されるアニメーションについては、この段階ですべての利用者に対していかなるインタラクションも発生する可能性がなく、かつコンテンツ読み込みの進行状況を表示しないことが利用者の混乱を招いたり、コンテンツが動作を停止した、又はコンテンツが破損しているという誤解を生じたりする可能性がある場合には、必要不可欠なものと考えることができる。

2.2.3 タイミング非依存: タイミングは、コンテンツによって提示されるイベント又は動作の必要不可欠な部分ではない。ただし、インタラクティブではない同期したメディア及びリアルタイムのイベントは除く。 (レベル AAA)

How to Meet 2.2.3 [日本語訳]
Understanding

2.2.4 割り込み: 割り込みは、利用者が延期、又は抑制することができる。ただし、緊急を要する割り込みは除く。 (レベル AAA)

How to Meet 2.2.4 [日本語訳]
Understanding

2.2.5 再認証: 認証済のセッションが切れた場合は、再認証後でもデータを失うことなく利用者が操作を継続できる。 (レベル AAA)

How to Meet 2.2.5 [日本語訳]
Understanding 2.2.5 [日本語

ガイドライン 2.3 発作の防止: 発作を引き起こすようなコンテンツを設計しないこと。

Understanding Guideline 2.3 [日本語訳]

2.3.1 3 回の閃光、又は閾値以下: ウェブページには、どの 1 秒間においても3回を超える閃光を放つものがない、又は閃光が一般閃光閾値及び赤色閃光閾値を下回っている。 (レベル A)

How to Meet 2.3.1 [日本語訳]
Understanding 2.3.1 [日本語訳]

注記*:* この達成基準を満たさないコンテンツでは、利用者がそのウェブページ全体を使用できない恐れがあるため、ウェブページ上のすべてのコンテンツは他の達成基準を満たすために用いられているか否かにかかわらず、この達成基準を満たさなければならない。適合要件 5: 非干渉を参照。

2.3.2 3 回の閃光: ウェブページには、どの 1 秒間においても 3 回を超える閃光を放つものがない。 (レベル AAA)

How to Meet 2.3.2 [日本語訳]
Understanding 2.3.2 [日本語

ガイドライン 2.4 ナビゲーション可能: 利用者がナビゲートしたり、コンテンツを探し出したり、現在位置を確認したりすることを手助けする手段を提供すること。

Understanding Guideline 2.4 [日本語訳]

2.4.1 ブロックスキップ: 複数のウェブページ上で繰り返されているコンテンツのブロックをスキップするメカニズムが利用できる。(レベル A)

How to Meet 2.4.1 [日本語訳] Understanding

2.4.2 ページタイトル: ウェブページには、主題又は目的を説明したタイトルがある。(レベル A)

How to Meet 2.4.2 [日本語訳] Understanding

2.4.3 フォーカス順序: ウェブページが順を追ってナビゲートできて、そのナビゲーション順が意味又は操作に影響を及ぼす場合、フォーカス可能なコンポーネントは、意味及び操作性を損なわない順序でフォーカスを受け取る。(レベル A)

How to Meet 2.4.3 [日本語訳] Understanding 2.4.3 [日本語訳]

2.4.4 リンクの目的 (コンテキスト内) : それぞれのリンクの目的が、リンクのテキスト単独で、又はリンクのテキストとプログラムによる解釈が可能なリンクのコンテキストから判断できる。ただし、リンクの目的がほとんどの利用者にとって曖昧な場合は除く。(レベル A)

How to Meet 2.4.4 [日本語訳] Understanding 2.4.4 [日本語訳]

2.4.5 複数の手段: ウェブページ一式の中で、あるウェブページを見つける複数の手段が利用できる。ただし、ウェブページが一連のプロセスの中の1ステップ又は結果である場合は除く。(レベル AA)

How to Meet 2.4.5 [日本語訳] Understanding

2.4.6 見出し及びラベル: 見出し及びラベルは、主題又は目的を説明している。(レベル AA)

How to Meet 2.4.6 [日本語訳] Understanding

2.4.7 フォーカスの可視化: キーボード操作が可能なあらゆるユーザインタフェースには、フォーカスインジケータが見える操作モードがある。(レベル AA)

How to Meet 2.4.7 [日本語訳] Understanding 2.4.7 [日本語訳]

2.4.8 現在位置: ウェブページ一式の中での利用者の位置に関する情報が利用できる。(レベル AAA)

How to Meet 2.4.8 [日本語訳] Understanding

2.4.9 リンクの目的 (リンクのみ) : それぞれのリンクの目的を、リンクのテキスト単独で特定できるメカニズムが利用できる。ただし、リンクの目的がほとんどの利用者にとって曖昧な場合は除く。(レベル AAA)

How to Meet 2.4.9 [日本語訳] Understanding

2.4.10 セクション見出し: セクション見出しを用いて、コンテンツが整理されている。(レベル AAA)

How to Meet 2.4.10 [日本語訳] Understanding 2.4.10 [日本語訳]

注記 *1:* 見出しはその一般的な意味で用いられており、タイトルや様々なタイプのコンテンツに見出しを付加するその他の手段を含む。

注記 *2:* この達成基準は、文書におけるセクションを対象としており、ユーザインタフェース コンポーネントは対象としていない。ユーザインタフェース コンポーネントについては、達成基準4.1.2が対象にしている。

原則 3: 理解可能 - 情報及びユーザインタフェースの操作は理解可能でなければならない。

ガイドライン 3.1 読みやすさ: テキストのコンテンツを読みやすく理解可能にすること。

Understanding Guideline 3.1 [日本語訳]

3.1.1 ページの言語: それぞれのウェブページのデフォルトの自然言語がどの言語であるか、プログラムによる解釈が可能である。 (レベル A)

How to Meet 3.1.1 [日本語訳] Understanding 3.1.1 [日本語訳]

3.1.2 一部分の言語: コンテンツの一節、又は語句それぞれの自然言語がどの言語であるか、プログラムによる解釈が可能である。ただし、固有名詞、技術用語、言語が不明な語句、及びすぐ前後にあるテキストの言語の一部になっている単語又は語句は除く。 (レベル AA)

How to Meet 3.1.2 [日本語訳] Understanding 3.1.2 [日本語訳]

3.1.3 一般的ではない用語: 慣用句及び専門用語を含めて、一般的ではない、又は限定された用法で使われている単語、又は語句の、明確な定義を特定するメカニズムが利用できる。 (レベル AAA)

How to Meet 3.1.3 [日本語訳] Understanding

3.1.4 略語: 略語の元の語、又は意味を特定するメカニズムが利用できる。 (レベル AAA)

How to Meet 3.1.4 [日本語訳] Understanding

3.1.5 読解レベル: 固有名詞や題名を取り除いた状態で、テキストが前期中等教育レベルを超えた読解力を必要とする場合は、補足コンテンツ又は前期中等教育レベルを超えた読解力を必要としない版が利用できる。 (レベル AAA)

How to Meet 3.1.5 [日本語訳] Understanding

3.1.6 発音: 文脈において、発音が分からないと単語の意味が不明瞭になる場合、その単語の明確な発音を特定するメカニズムが利用できる。 (レベル AAA)

How to Meet 3.1.6 [日本語訳] Understanding 3.1.6 [日本語

ガイドライン 3.2 予測可能: ウェブページの表示や挙動を予測可能にすること。

Understanding Guideline 3.2 [日本語訳]

3.2.1 フォーカス時: いずれのコンポーネントも、フォーカスを受け取ったときに コンテキストの変化を引き起こさない。 (レベル A)

How to Meet 3.2.1 [日本語訳] Understanding

3.2.2 入力時: ユーザインタフェース コンポーネント の設定を変更することが、コンテキストの変化を自動的に引き起こさない。ただし、利用者が使用する前にその挙動を知らせてある場合を除く。 (レベル A)

How to Meet 3.2.2 [日本語訳] Understanding 3.2.2 [日本語訳]

3.2.3 一貫したナビゲーション: ウェブページ一式の中にある複数のウェブページ上で繰り返されているナビゲーションのメカニズムは、繰り返されるたびに相対的に同じ順序で出現する。ただし、利用者が変更した場合は除く。 (レベル AA)

How to Meet 3.2.3 [日本語訳] Understanding 3.2.3 [日本語

3.2.4 一貫した識別性: ウェブページ一式の中で同じ機能を有するコンポーネントは、一貫して識別できる。 (レベル AA)

How to Meet 3.2.4 [日本語訳] Understanding

3.2.5 要求による変化: コンテキストの変化は利用者の要求によってだけ生じるか、又は、そのような変化を止めるメカニズムが利用できる。(レベル AAA)

How to Meet 3.2.4 [日本語
How to Meet 3.2.5 [日本語訳]
Understanding 3.2.5 [日本語

ガイドライン 3.3 入力支援: 利用者の間違いを防ぎ、修正を支援すること。

Understanding Guideline 3.3 [日本語訳]

3.3.1 エラーの特定: 入力エラーが自動的に検出された場合は、エラーとなっている箇所が特定され、そのエラーが利用者にテキストで説明される。(レベル A)

How to Meet 3.3.1 [日本語訳]
Understanding

3.3.2 ラベル又は説明: コンテンツが利用者の入力を要求する場合は、ラベル又は説明文が提供されている。(レベル A)

How to Meet 3.3.2 [日本語訳]
Understanding 3.3.2 [日本語訳]

3.3.3 エラー修正の提案: 入力エラーが自動的に検出され、修正方法を提案できる場合、その提案が利用者に提示される。ただし、セキュリティ又はコンテンツの目的を損なう場合は除く。(レベル AA)

How to Meet 3.3.3 [日本語訳]
Understanding

3.3.4 エラー回避 (法的、金融、データ): 利用者にとって法律行為もしくは金融取引が生じる、利用者が制御可能なデータストレージシステム上のデータを変更もしくは削除する、又は利用者が試験の解答を送信するウェブページでは、次に挙げる事項のうち、少なくとも一つを満たしている: (レベル AA)

1. **取消:** 送信を取り消すことができる。
2. **チェック:** 利用者が入力したデータの入力エラーがチェックされ、利用者には修正する機会が提供される。
3. **確認:** 送信を完了する前に、利用者が情報の見直し、確認及び修正をするメカニズムが利用できる。

How to Meet 3.3.4 [日本語訳]
Understanding 3.3.4 [日本語訳]

3.3.5 ヘルプ: コンテキストに応じたヘルプが利用できる。(レベル AAA)

How to Meet 3.3.5 [日本語訳]
Understanding

3.3.6 エラー回避 (すべて): 利用者に情報の送信を要求するウェブページでは、次に挙げる事項のうち、少なくとも一つを満たしている: (レベル AAA)

1. **取消:** 送信を取り消すことができる。
2. **チェック:** 利用者が入力したデータの入力エラーがチェックされ、利用者には修正する機会が提供される。
3. **確認:** 送信を完了する前に、利用者が情報の見直し、確認及び修正をするメカニズムが利用できる。

How to Meet 3.3.6 [日本語訳]
Understanding 3.3.6 [日本語訳]

原則 4: 堅牢 (robust) - コンテンツは、支援技術を含む様々なユーザエージェントが確実に解釈できるように十分に堅牢 (robust) でなければならない。

ガイドライン 4.1 互換性: 現在及び将来の、支援技術を含むユーザエージェントとの互換性を最大化すること。

Understanding Guideline 4.1 [日本語訳]

4.1.1 構文解析: マークアップ言語を用いて実装されているコンテンツにおいては、要素には完全な開始タグ及び終了タグがあり、要素は仕様に準じて入れ子になっていて、要素には重複した属性がなく、どの ID も一意的である。ただし、仕様で認められているものを除く。 (レベル A)

注記*:* 開始及び終了タグに重要な記号が欠けている場合、例えば、タグを閉じる山括弧がない、又は属性値の引用符が一致していない場合は、完全とはいえない。

How to Meet 4.1.1 [日本語訳] Understanding 4.1.1 [日本語訳]

4.1.2 名前 (name) ・役割 (role) 及び値 (value) : すべてのユーザインタフェース コンポーネント (フォームを構成する要素、リンク、スクリプトが生成するコンポーネントを含むがこれに限定されない) では、名前 (name) 及び役割 (role) は、プログラムによる解釈が可能である。又、状態、プロパティ、利用者が設定可能な値はプログラムによる設定が可能である。そして、支援技術を含むユーザエージェントが、これらの項目に対する変更通知を利用できる。 (レベル A)

注記*:* この達成基準は、主に独自のユーザインタフェース コンポーネントを開発、又はスクリプトで実装するコンテンツ制作者に向けたものである。例えば、標準的な HTML のコントロールを仕様に沿って使用していれば、既にこの達成基準を満たしていることになる。

How to Meet 4.1.2 [日本語訳] Understanding 4.1.2 [日本語訳]

適合

この節は、規定である。

この節では、WCAG 2.0 への適合に関する要件を列挙する。又、任意である適合表明の作成方法に関する情報も提供する。最後に、アクセシビリティ サポーテッドとは何かを説明する。なぜならば、適合においては技術のアクセシビリティ サポーテッドな使用方法だけに依存することができるからである。アクセシビリティ サポーテッドという概念については、Understanding Conformance [日本語訳] でさらに詳しい説明がある。

適合要件

ウェブページが WCAG 2.0 に適合するためには、以下に挙げるすべての適合要件を満たしていなければならない:

1. 適合レベル: 以下に挙げる適合レベルの一つを完全に満たしていること。

- **レベル A:**レベル A (適合の最低レベル) で適合するには、ウェブページがレベル A 達成基準のすべてを満たすか、又は適合している代替版を提供する。
- **レベル AA:**レベル AA で適合するには、ウェブページはレベル A 及びレベル AA 達成基準のすべてを満たすか、又はレベル AA に適合している代替版を提供する。
- **レベル AAA:**レベル AAA で適合するには、ウェブページがレベル A、レベル AA、及びレベル AAA 達成基準のすべてを満たすか、又はレベル AAA に適合している代替版を提供する。

注記 *1:* ウェブページは、記載したレベルでのみ WCAG 2.0 に適合できるが、コンテンツ制作者は、その適合レベルよりも高いレベルの達成基準の達成状況を (表明の中で) 示すことが推奨される。

注記 *2:* コンテンツの中には、レベル AAA 達成基準のすべてを満たすことのできないものもあるため、サイト全体の一般的な方針としてレベル AAA での適合を要件とすることは推奨されない。

2. ウェブページ全体: 適合 (及び適合レベル) はウェブページ全体に対するもののみであり、ウェブページの一部が除外されている場合には適合にならない。

注記 *1:* 適合の判断をするときに、例えば、詳細な説明又は映像の代替の提示のように、代替となるものがそのページから直接得られる場合は、ページのコンテンツの一部に対する代替コンテンツはそのページの一部であるとみなされる。

注記 *2:* コンテンツ制作者が制御できないコンテンツがあるために適合できないウェブページについては、部分適合に関する記述を行うことを検討するとよい。

3. プロセス全体: ウェブページがプロセスを提示する一連の流れのウェブページ群 (つまり、ある目的を達成するために完了させる必要のある一連の手順) に含まれる場合、そのプロセス中のすべてのウェブページが指定したレベル又はそれ以上のレベルで適合している (もし、プロセス中のウェブページが一つでも特定のレベル又はそれ以上のレベルに適合していない場合、そのレベルに適合できない)。

事例*:* あるオンラインストアには、製品を選択して購入するための一連のウェブページがある。このプロセスに含まれるあるウェブページが適合するためには、最初から最後 (支払い) までのすべてのウェブページが適合していなければならない。

4. 技術のアクセシビリティ サポーテッドな使用方法だけ: 達成基準を満たすために、用いる技術のアクセシビリティ サポーテッドな使用方法だけに依存している。アクセシビリティ サポーテッドではない方法で提供されている情報又は機能は、アクセシビリティ サポーテッドな方法でも利用できる (Understanding accessibility support [日本語訳] を参照)。

5. 非干渉: 技術がアクセシビリティ サポーテッドではない方法で用いられている場合、又は適合しない方法で用いられている場合、利用者がウェブページの他の部分へアクセスすることを妨げていない。加えて、全体としてウェブページは、以下のそれぞれの条件の下で適合要件を満たしていること:

1. 依存していない技術がユーザエージェントで有効になっているとき
2. 依存していない技術がユーザエージェントで無効になっているとき、及び
3. 依存していない技術がユーザエージェントでサポートされていないとき

さらに、適合するために依存していないコンテンツも含めて、ページ上のすべてのコンテンツには以下の達成基準が適用される。なぜならば、これらを満たしていないことにより、ページの利用を妨げる可能性があるためである。

- **1.4.2 - 音声制御**、
- **2.1.2 - キーボードトラップなし**、
- **2.3.1 - 3回の閃光、又は閾値以下**、及び
- **2.2.2 - 一時停止、停止、非表示**

注記*:* もし、あるページが適合できないならば (例えば、適合のテストページや事例のページの場合)、そのページを適合の範囲、あるいは、適合表明の範囲に含めることはできない。

事例を含む、より詳細な情報は、Understanding Conformance Requirements [日本語訳] を参照。

適合表明 (任意)

適合は、ウェブページに対してのみ定義されている。しかし、適合表明は1ページ、一連のウェブページ群、又は複数の関連するウェブページに対して行ってもよい。

適合表明の必須要素

適合表明は、**必須ではない**。コンテンツ制作者は、適合表明をしなくても、WCAG 2.0 に適合することができる。しかし、もし適合表明をする場合には、その適合表明には以下の情報が含まれて**いなければならない**:

1. 表明**日**
2. **ガイドライン名、バージョン、及び URI**：例えば、「Web Content Accessibility Guidelines 2.0 (http://www.w3.org/TR/2008/REC-WCAG20-20081211/) 」
3. 満たしている**適合レベル**: (レベル A、AA、又は AAA)
4. **対象となるウェブページに関する簡潔な説明:** 例えば、サブドメインも表明の対象に含まれているかどうかも含む、表明の対象となっている URI のリスト。

注記 *1:* 表明において、ウェブページはリストを用いて表してもよいし、すべての URI を含む表現を用いて表してもよい。

注記 *2:* 顧客がウェブサイト上でインストールするまで URI が存在しないウェブベースの製品がある。その場合、その製品はインストールされると適合した状態になる、といった記述をすることができる。

5. **依存しているウェブコンテンツ技術**のリスト

注記*:* 適合のロゴを使用するとその表明であるとみなされ、上記の適合表明の必須要素を明示しなければならない。

適合表明の任意要素

上記の適合表明の必須要素に加えて、利用者のために追加で情報を提供することを検討する。追加する情報として推奨するものを以下に挙げる:

- 表明した適合レベルよりも上の適合レベルで満たしている達成基準のリスト。この情報は、利用者が使用できる形式で提供すべきで、機械的に読み取れるメタデータが好ましい。
- 使用しているが適合には依存していない技術のリスト。
- コンテンツを試験するのに用いた、支援技術を含むユーザエージェントのリスト。
- アクセシビリティを向上させるために達成基準を超えて追加で施した措置に関する情報。
- 依存している技術を示したリストの機械的に読み取れるメタデータ版。
- 適合表明の機械的に読み取れるメタデータ版。

注記 *1:* より多くの情報や適合表明の事例は、Understanding Conformance Claims [日本語訳] を参照。

注記 *2:* 適合表明内でのメタデータの使用に関する詳細な情報は、Understanding Metadata [日本語訳] を参照。

部分適合に関する記述 – 第三者によるコンテンツ

場合によっては、制作後にコンテンツが追加されるようにウェブページが作成される。例えば、電子メールのプログラム、ブログ、利用者がコメントを追加できる記事、又は利用者がコンテンツを提供できるようなアプリケーションである。その他の例としては、複数の提供者から集めたコンテンツで構成されるポータルやニュースサイトのページや、又は動的に挿入される広告のように、他の情報源からその時々にコンテンツが自動的に挿入されるサイトが挙げられる。

これらの場合、最初に掲載した時点では、そのページにおける制御できないコンテンツがどのようなものになっていくか分からない。制御できないコンテンツが、制御できるコンテンツのアクセシビリティにも影響を及ぼす可能性があることに注意することが重要である。そのような場合、次の二つの方法から選択する:

1. 適合の判定は、分かる範囲で下すことができる。もしこの種のウェブページが監視されていて2営業日以内に修正される (適合していないコンテンツが削除されるか、適合するように修正される) ならば、外部から寄稿されたコンテンツにおける不具合のうち、発見後に修正又は削除できるものを除いて判定又は適合表明ができるので、そのページは適合している。適合していないコンテンツを監視及び修正できない場合は、適合表明を行うことはできない。
   又は、
2. 適合していないページが特定の部分を除けば適合できる場合、「部分適合に関する記述」ができる。そのような場合の記述は、「このページは適合していないが、制御されていない情報源に起因する以下の部分を除けば、WCAG 2.0 にレベル X で適合していることになる。」というような形式になる。さらに、部分適合の記述に記載される制御できないコンテンツについては、次の条件に当てはまる必要がある。
   a. コンテンツ制作者が制御できるコンテンツではない。
   b. 利用者が識別できるように、記載されている (例えば、該当箇所が明確に示されない限り、「私たちが制御できない部分すべて」という記載をすることはできない)。

部分適合に関する記述 – 言語

ページが適合していないが、そのページ上で用いられている (すべての) 言語においてアクセシビリティ サポートがあれば適合するような場合には、「言語による部分適合に関する記述」ができる。そのような場合の記

述形式は、「このページは適合していないが、もし以下の言語においてアクセシビリティ サポートがあれば、WCAG 2.0 にレベル X で適合していることになる。」というようになる。

附録 A: 用語集

この節は、規定である。

略語 (abbreviation)

単語、語句、又は名称の短縮形で、その略語が言語の一部になっていないもの。

注記 *1:* これは、頭文字語及び頭字語を含む:

1. **頭文字語**は、その名称あるいは語句に含まれる単語や音節の頭文字による、名称あるいは語句の短縮形である。

   注記 *1:* すべての言語で定義されているわけではない。

   事例 *1:* SNCFは、フランス語の頭文字語で、フランス国有鉄道の "Societe Nationale des Chemins de Fer "の頭文字を含んでいる。

   事例 *2:* ESPは、"extrasensory perception"の頭文字語である。

2. **頭字語** は、 (名称や語句の中の) 頭文字あるいは他の単語の一部から作られた省略形で、一つの単語のように発音されることがあるものである。

   事例*:* NOAAは、米国の "National Oceanic and Atmospheric Administration" の頭文字による頭字語である。

注記 *2:* 頭文字語だったものを社名として採用している会社がある。そのような場合、その会社の新しい社名はその文字列であるにすぎず (例: Ecma)、その単語はもはや略語とは考えられない。

アクセシビリティ サポーテッド (accessibility supported)

利用者の支援技術と、ブラウザ及びその他のユーザエージェントにあるアクセシビリティ機能でサポートされていること。

あるウェブコンテンツ技術 (あるいは、ある技術の機能) の使用方法がアクセシビリティ サポーテッドであると認められるためには、そのウェブコンテンツ技術 (あるいは、機能) について、次の 1. と 2. の両方が満たされていなければならない:

1. **そのウェブコンテンツ技術の使用方法が、利用者の支援技術によりサポートされていなければならない。**これは、その技術の使用方法が、そのコンテンツの自然言語における利用者の支援技術との相互運用性について検証されていることを意味する。
   かつ
2. **そのウェブコンテンツ技術には、アクセシビリティ サポーテッドで、利用者が利用できるユーザエージェントがなければならない。**これは、少なくとも次の四つのうち一つを満たしていることを意味する:
   a. その技術が (HTML や CSS のように)、広く配布されているアクセシビリティ サポーテッドなユーザエージェントに標準でサポートされている。
      又は、
   b. その技術が、広く配布されているアクセシビリティ サポーテッドなプラグインでサポートされている。
      又は、
   c. そのコンテンツが、大学あるいは企業内ネットワークのような閉じた環境で利用できるものであり、その技術に必要とされていて、その組織で使用されているユーザエージェントがアクセシビリティ サポーテッドである。
      又は、
   d. その技術をサポートするユーザエージェントが、アクセシビリティ サポーテッドであって、次のようにダウンロードあるいは購入できる:
      - 障害のある人に障害のない人よりも時間や労力がかかるようなことはなく、**かつ、**
      - 障害のある人も障害のない人と同じくらい容易に探して入手することができる。

注記 *1:* WCAG Working Group ならびに W3C は、あるウェブ技術のある特定の使用方法がアクセシビリティ サポーテッドであると分類するために、そのウェブ技術の特定の使用方法に対して、どの支援技術によるどれだけのサポートが必要なのかを定めない (Level of Assistive Technology Support Needed for "Accessibility Support" [日本語訳]を参照)。

注記 *2:* そのウェブ技術に依存しておらず、適合要件 4: 技術のアクセシビリティ サポーテッドな使用方法だけ及び適合要件 5: 非干渉を含む適合要件をウェブページ全体が満たしている場合は、そのウェブ技術をアクセシビリティ サポーテッドではない方法で用いることができる。

注記 *3:* ウェブ技術がアクセシビリティ サポーテッドな方法で用いられている場合、その技術全体、又はその技術の使用方法すべてがアクセシビリティ サポーテッドであるということを暗に示すわけではない。ほとんどの技術は、HTML を含めてアクセシビリティ サポーテッドではない機能、又は使用方法が少なくとも一つある。ウェブページが WCAG に適合するのは、依存する技術のアクセシビリティ サポーテッドな使用方法を用いて WCAG の要件を満たしている場合だけである。

注記 *4:* 複数のバージョンを有するウェブコンテンツ技術を挙げる際は、アクセシビリティ サポーテッドなバージョンを特定すべきである。

注記 *5:* コンテンツ制作者が技術のアクセシビリティ サポーテッドな使用方法を見つける方法の一つは、アクセシビリティ サポーテッドであることが文書化されている使用方法の資料を参考にすることである (Understanding Accessibility-Supported Web Technology Uses [日本語訳]を参照)。コンテンツ制作者、企業、技術ベンダー、あるいはその他の者が、ウェブコンテンツ技術のアクセシビリティ サポーテッドな使用方法を文書化してもよい。しかし、文書中の技術の使用方法すべては、前述のアクセシビリティ サポーテッドなウェブコンテンツ技術の定義を満たしていなければならない。

時間依存メディアに対する代替コンテンツ (alternative for time-based media)

時間依存の視覚的及び聴覚的情報を正しい順序で説明したテキストを含み、あらゆる時間依存のインタラクションによる結果を得る手段を提供している文書。

注記*:* 同期したメディアのコンテンツを作るために用いられる脚本は、編集が終了した最終版の同期したメディアを正確に描写した脚本に修正されている場合だけ、この定義を満たす。

ほとんどの利用者にとって曖昧 (ambiguous to users in general)

リンク、及びリンクと同時に利用者に提供されているウェブページのどの情報からも、そのリンクの目的を判断できない (すなわち、障害がない閲覧者でも、そのリンクを動作させるまで、そのリンクが何をするのか分からない)。

事例*:* 「注目すべき輸出品のひとつはグァバです」という文中にある「グァバ」という単語がリンクになっている。そのリンク先は、グァバの定義、グァバの輸出量を挙げる図表、又はグァバを収穫している人々の写真のいずれにもなり得る。リンクを動作させるまで、すべての利用者が確信を持てないため、障害のある人が不利な立場に置かれることはない。

ASCII アート (ASCII art)

文字やグリフの空間的配置によって作られた図画 (典型的には、ASCIIで定義されている95の印字可能文字から作られる)。

(この文書で用いられている) 支援技術 (assistive technology (as used in this document))

ユーザエージェントとして機能する、又は主流のユーザエージェントと一緒に機能するハードウェア及び／又はソフトウェアで、主流のユーザエージェントで提供されている機能以上の機能を、障害のある利用者の要求を満たすために提供するもの。

注記 *1:* 支援技術が提供する機能としては、代替の提示 (例: 合成音声や拡大表示したコンテンツ)、代替入力手法 (例: 音声認識)、付加的なナビゲーション又は位置確認のメカニズム、及びコンテンツ変換 (例: テーブルをよりアクセシブルにするもの) などを挙げることができる。

注記 *2:* 支援技術は、API を利用、監視することで、主流のユーザエージェントとデータやメッセージのやりとりをすることが多い。

注記 *3:* 主流のユーザエージェントと支援技術との区別は、絶対的なものではない。多くの主流のユーザエージェントは、障害者を支援する機能を提供している。基本的な差異は、主流のユーザエージェントが障害のある人もない人も含めて、広く多様な利用者を対象にしているのに対し、支援技術は、特定の障害のある利用者という、より狭く限られた人たちを対象にしているということである。支援技術により提供される支援は、対象とする利用者に特化した、よりニーズに適したものである。主流のユーザエージェントは、プログラムオブジェクトからのウェブコンテンツの抽出、マークアップの識別可能な構造への解釈といった、重要な機能を支援技術に対して提供する場合がある。

事例*:* この文書の文脈において重要な支援技術としては、以下のものが挙げられる:

- 画面拡大ソフト及びその他の視覚的な表示に関する支援技術。視覚障害、知覚障害、及び読書困難などの障害のある人が、レンダリング後のテキスト及び画像の視覚的な読みやすさを改善するために、テキストのフォント、サイズ、間隔、色、音声との同期などを変更するのに使用している。

- スクリーンリーダー。全盲の人がテキスト情報を合成音声あるいは点字で読み取るために使用している。
- 音声変換ソフトウェア。認知障害、言語障害、及び学習障害のある人が、テキストを合成音声に変換するために使用している。
- 音声認識ソフトウェア。何らかの身体障害のある利用者が使用することがある。
- 代替キーボード。特定の身体障害のある人がキーボード操作をシミュレートするのに使用している (ヘッドポインタ、シングルスイッチ、呼気・吸気スイッチ、及びその他の特別な入力デバイスを使った代替キーボードを含む)。
- 代替ポインティングデバイス。特定の身体障害のある人がマウスポインタとボタンの動きをシミュレートするのに使用している。

音声 (audio)

音の再生技術。

注記*:* 音声には、合成して作られたもの (音声合成を含む)、実世界の音を収録したもの、又はその両方が含まれる。

音声解説 (audio description)

主音声のトラックだけでは理解できない重要で視覚的な詳細を説明するために、音声トラックに追加されたナレーション。

注記 *1:* 映像の音声解説は、動作、登場人物、場面の変化、画面上のテキスト、及びその他の視覚的なコンテンツに関する情報を提供する。

注記 *2:* 標準的な音声解説では、ナレーションが会話の合間に挿入される。 (拡張音声解説も参照。)

注記 *3:* 映像情報のすべてが既存の音声ですでに提供されている場合、補足の音声解説は不要である。

注記 *4:* "video description" や "descriptive narration" とも呼ばれる。

訳注*:* 日本語では「音声ガイド」とも呼ばれる。

音声しか含まない (audio-only)

音声のみを含んだ、時間に依存する提示 (映像やインタラクションを含まない)。

点滅 (blinking)

注意を引く意図で、二つの視覚的な状態を交互に切り替えること。

注記*:* 閃光も参照。ある程度の面積をもち、ある程度の明るさ、特定の頻度で点滅するものは、閃光に分類されることもありうる。

テキストブロック (blocks of text)

一文よりも長いテキスト。

CAPTCHA

コンピュータと人間とを判別する完全自動化されたチューリングテスト (Completely Automated Public Turing test to tell Computers and Humans Apart) の頭文字語。

注記 *1:* CAPTCHA のテストは多くの場合、利用者に対し、不明瞭な画像又は音声ファイルによって提示されたテキストを入力するよう求める。

注記 *2:* チューリングテストは、人間とコンピュータを区別することを目的としたテストの仕組みである。その名は、高名なコンピュータ科学者のアラン チューリングにちなんでいる。この用語は、カーネギーメロン大学の研究者たちによる造語である。[CAPTCHA]

キャプション (captions)

そのメディアのコンテンツを理解するのに必要な、会話及び会話でない音声情報に対する、同期した視覚、及び／又はテキストによる代替。

注記 *1:* キャプションは会話のみの字幕と似ているが、会話の内容だけを伝えるのではなく、その番組の内容を理解するために必要な効果音、音楽、笑い声、話者の特定、位置などを含む、会話でない音声情報と同等の内容も伝える点が異なる。

注記 *2:* クローズドキャプションは、音声情報と同等の内容で、プレーヤーによっては表示／非表示を切り替えることができるものを指す。

注記 *3:* オープンキャプションは、非表示にできないキャプションである。例えば、キャプションが同等の視覚化された文字画像で映像に埋め込まれている場合である。

注記 *4:* キャプションは、映像に含まれる情報を分かりにくくしたり遮ったりすべきではない。

注記 *5:* 国によっては、キャプションは "subtitle" と呼ばれている。

訳注*:* subtitleには、「字幕」の意がある。日本では、キャプションのことを一般に字幕と呼ぶことが多い。

注記 *6:* 音声解説にキャプションをつけることもできるが、つける必要はない。なぜなら、音声解説は既に視覚的に提示されている情報の説明だからである。

コンテキストの変化 (changes of context)

ウェブページのコンテンツにおける大きな変化で、利用者が気づかないと、ウェブページ全体を一度に見ることのできない利用者を混乱させる恐れのあるもの。
コンテキストの変化には次に挙げるものの変化が含まれる:

1. ユーザエージェント
2. ビューポート
3. フォーカス
4. ウェブページの意味を変えるコンテンツ

注記*:* コンテンツの変化が、必ずコンテキストの変化になるとはかぎらない。アウトラインの展開、動的なメニュー、又はタブの切替などのコンテンツの変化は、それが上記のいずれか (例: フォーカス) を変更しないかぎり、コンテキストを変化させるとは限らない。

事例*:* 新しいウィンドウを開くこと、フォーカスを異なるコンポーネントへ移動させること、新しいウェブページへ移動すること (新しいウェブページへ移動したかのように思わせてしまうことも含む)、又はウェブページの内容を大きく再配置することなどは、コンテキストの変化の事例である。

適合 (conformance)

与えられた規格、ガイドライン、あるいは仕様のすべての要件を満たすこと。

適合している代替版 (conforming alternate version)

以下の事項を満たす版のことを指す:

1. 指定されたレベルで適合しており、かつ
2. 同じ情報及び機能のすべてを同一の自然言語で提供しており、かつ
3. 不適合コンテンツと同時に更新されていて、かつ
4. 以下に挙げる事項のうち少なくとも一つを満たしていること:
    a. アクセシビリティ サポーテッドな メカニズムを用いて、 不適合ページから適合版へ到達できる。もしくは、
    b. 不適合版に到達できるのは、適合版からのみである。
    c. 不適合版に到達できるのは、適合版に到達するメカニズムも提供している適合ページからのみである。

注記 *1:* この定義において、「到達できるのは……からのみ」とは、利用者が適合版から来ていない限り、不適合ページに「到達する」 (読み込む) のを防ぐ条件付きリダイレクトのような何らかのメカニズムがある、ということを意味する。

注記 *2:* 代替版は、元のページと一対一で対応している必要はない (例えば、適合している代替版は複数のページであってもよい)。

注記 *3:* 複数の言語版が利用できる場合、各言語版に対して、適合している代替版を提供する必要がある。

注記 *4:* 様々な技術環境、又は利用者層に対応するために、複数の代替版を提供してもよい。この場合、各版は可能なかぎり適合したものでなければならず、適合要件 1 を満たすためには、そのうちの一つの版が完全に適合したものでなければならない。

注記 *5:* 不適合版と同じように自由に利用可能であるかぎり、適合している代替版は、適合宣言の範囲に含まれている必要はなく、同一のウェブサイト上で提供されている必要もない。

注記 *6:* 代替版は、元のページを補助して理解を高める補足コンテンツと混同されないようにすべきである。

注記 *7:* コンテンツ内で利用者が設定を行うことで適合版が作り出される仕組みは、その利用者の設定に用いられている手法がアクセシビリティ サポーテッドであるかぎり、代替版への到達メカニズムとして条件を満たしているといえる。

Understanding Conforming Alternate Versions [日本語訳] を参照。

コンテンツ (ウェブコンテンツ) (content (Web content))
ユーザエージェントによって利用者に伝達される情報及び感覚的な体験。コンテンツの 構造、提示、及びインタラクションを定義するコードやマークアップを含む。

コンテキストに応じたヘルプ (context-sensitive help)
そのとき実行されている機能に関する情報を提供するヘルプのテキスト。
注記*:* 明解なラベルは、コンテキストに応じたヘルプとして機能しうる。

コントラスト比 (contrast ratio)
(L1 + 0.05) / (L2 + 0.05) ここでは、

- L1 は、明るいほうの色の 相対輝度である。そして、
- L2 は、暗いほうの色の 相対輝度である。

注記 *1:* コントラスト比は、1～21 の範囲になりうる (通常は、1:1～21:1 と記述される)。
注記 *2:* コンテンツ制作者は、テキストのレンダリング (例: フォントのスムージングやアンチエイリアス) に関する利用者の設定を制御できないため、アンチエイリアスをオフにした状態でテキストのコントラスト比を評価してもよい。
注記 *3:* 達成基準 1.4.3 及び 1.4.6 の目的上、コントラストは通常の使用においてテキストがレンダリングされるときに指定されている背景色に対して測定する。もし背景色の指定がない場合は、背景色には白を想定する。
注記 *4:* 背景色は、テキストが通常の使用においてレンダリングされるときに背景となるコンテンツの色として指定された色である。テキストの色は指定されているが背景色が指定されていない場合、利用者のデフォルトの背景色は未知であり、コントラストが十分かどうかを評価することができないため、問題がある。同じ理由で、背景色が指定されているがテキストの色が指定されていない場合も問題がある。
注記 *5:* 文字の周囲に縁取りがある場合、その縁取りがコントラストを強めることもあり、文字とその背景色におけるコントラストの計算に用いられる。文字の周囲の細い縁取りは文字として扱われる。文字の周囲の太い縁取りが、光彩のようになって、文字の内側の細部を塗りつぶしていれば、背景色として考慮されることになる。
注記 *6:* WCAG に適合しているか判断する場合は、典型的な提示において隣接するであろうと制作者が想定するコンテンツで指定された色の組み合わせについて評価しなければならない。制作者は、ユーザエージェントによる色の変更などのように通常とは異なる提示を考慮する必要はない。ただし、それが制作者のコードによって起こる場合は除く。

正しく読む順序 (correct reading sequence)
コンテンツの意味を変更せずに、単語や段落が提示される順序。

緊急 (emergency)
健康、安全や財産を守るために直ちに行動をとる必要のある、突然で予期されなかった状況あるいは出来事。

必要不可欠 (essential)
もし取り除いてしまうと、コンテンツの情報あるいは機能を根本的に変えてしまい、**かつ、**適合する他の方法では情報及び機能を実現できない。

拡張音声解説 (extended audio description)
映像を一時停止することで追加の説明を付加するための時間を確保し、視聴覚提示に付加した音声解説。
注記*:* この達成方法は、追加の音声解説がないと映像の意味が損なわれてしまい、かつ会話やナレーションの合間が短すぎる場合だけに用いられる。

閃光 (flash)
相対輝度の交互の変化で、ある程度の面積と特定の頻度によって、一部の人の発作を誘発する恐れがあるもの。
注記 *1:* 許容されない閃光の種類に関する情報は、一般閃光閾値及び赤色閃光閾値を参照。
注記 *2:* 点滅も参照。

機能 (functionality)

利用者の操作により実現可能なプロセス及び結果。

一般閃光閾値及び赤色閃光閾値 (general flash and red flash thresholds)

次のいずれかに該当していれば、連続した閃光、又は急速に変化する画像の連続は、閾値を下回っている (すなわち、コンテンツは**基準を満たしている**) ことになる:

1. あらゆる1秒間において、 **一般閃光**及び／又は**赤色閃光** は3回以下である。もしくは、
2. 一般的な閲覧距離で、同時に生じている閃光が占める領域の合計が、画面上のどの視野 10 度においても、合計 0.006 ステラジアン (画面上の視野 10 度の 25%) よりも多くを占めていない。

ここで:

- **一般閃光**とは、暗いほうの相対輝度が 0.80 未満であるときの、最大相対輝度の 10% 以上の相対輝度の交互の変化のことである。ここでいう「交互の変化」とは、増加した後に減少する、又は減少した後に増加するものを指す。そして、
- **赤色閃光**とは、彩度の高い赤色を含んだ交互の遷移のことである。

例外*:* ホワイトノイズ又は1辺が (典型的な閲覧距離における視野の) 0.1 度未満の市松模様のように、細かくて整っている模様の閃光は、閾値を超えることにはならない。

注記 *1:* 一般的なソフトウェアやウェブコンテンツでは、コンテンツを 1024 × 768 ピクセルの解像度で閲覧している際の画面上での 341 × 256 ピクセルの矩形が、標準的な画面サイズ及び画面からの距離 (例: 22～26インチの距離で、15～17インチの画面) における視野角 10 度に該当する (同じコンテンツでも高解像度のディスプレイでは小さく安全になるので、閾値を定めるには低解像度が用いられている)。

注記 *2:* 遷移とは、相対輝度 (赤色閃光の相対輝度/色) の計測値を時間軸でプロットしたときの隣接する山と谷の間における相対輝度 (赤色閃光の相対輝度/色) の変化である。閃光は、ひと組の逆方向の遷移から成る。

注記 *3:* 「**彩度の高い赤色を含む相反する遷移の組合せ**」の現時点での定義は、各遷移に含まれる状態の一方又は双方とも、R / (R+G+B) >= 0.8 で、(R−G−B) × 320 の値の変化が双方の遷移において 20 より大きい (ただし、(R−G−B) × 320 が負の値になるときはゼロとする)。R、G、B の値は、相対輝度 の定義で定められているように 0～1 の範囲である。[HARDING-BINNIE]

注記 *4:* ビデオの画面キャプチャから分析を行うツールを利用できる。しかし、閃光があらゆる1秒間の間隔において3回以下であれば、ツールでこの条件を満たしているかどうかを確認する必要はない。コンテンツは自動的に条件を満たしたことになるからである (上記 1. 及び 2. を参照)。

自然言語 (human language)

人間とコミュニケーションをとるための言語で、話される、書かれる、又は (視覚的あるいは触覚的な手段で) 手話にされるもの。

注記*:* 手話も参照。

慣用句 (idiom)

個々の単語の意味からはその意味を推測できず、特定の単語を変えると意味が通じなくなる言い回し。

注記*:* 慣用句は、単語単位で直接翻訳すると、その (文化的あるいは言語特有の) 意味が通じなくなる。

事例 *1:* 英語では、"spilling the beans" (豆をこぼす) は「秘密を漏らす」という意味である。しかし、"knocking over the beans" (豆をひっくり返す) や"spilling the vegetables" (野菜をこぼす) は同じ意味にはならない。

事例 *2:* 日本語では、「さじを投げる」という言い回しは、逐語訳では "he throws a spoon"となるが、「どうすることもできずに諦める」という意味である。

事例 *3:* オランダ語では、"Hij ging met de kippen op stok"は、逐語訳すれば「彼はニワトリとねぐらについた」となるが、「彼は早く寝た」という意味である。

文字画像 (image of text)

特定の視覚的効果を得るために非テキスト形式 (例えば画像) でレンダリングされたテキスト。

注記*:* テキスト以外の部分が重要な視覚的コンテンツである場合、画像に含まれるテキストは該当しない。

事例*:* 写真に写っている人の名札にある人名。

参考情報 (informative)

情報提供を目的としており、適合するために必須ではないもの。

注記*:* 適合に必須の内容は、「規定」と呼ばれる。

入力エラー (input error)

利用者が入力した情報で、受け付けられないもの。

注記*:* 以下のものが含まれる:

1. そのウェブページでは必須であるが、利用者が入力しなかった情報
2. 利用者が入力したが、要求されたデータ形式あるいは値ではない情報

専門用語 (jargon)

特定の分野の人々が特定の用法で用いる単語。

事例*:* 固定キーという用語は、支援技術やアクセシビリティの分野における専門用語である。

キーボードインタフェース (keyboard interface)

キーストローク入力を取得するためにソフトウェアが用いるインタフェース。

注記 *1:* 標準ではキーボードが存在しない技術であっても、キーボードインタフェースによって、利用者がキーストローク入力をプログラムに提供できる。

事例*:* タッチスクリーンを搭載している PDA には、外部キーボードへのコネクタとあわせて、そのオペレーティングシステムに組み込まれたキーボードインタフェースがある。PDA 上のアプリケーションはそのインタフェースを用いて、外部キーボード、あるいは手書き解釈プログラムや「キーボードエミュレーション」機能付きの音声テキスト変換アプリケーションのような擬似キーボード出力を提供する他のアプリケーションのいずれかからキーボード入力を取得することができる。

注記 *2:* マウスキーのようなキーボード操作によるマウスエミュレータによるアプリケーション (又は、そのアプリケーションの一部) の操作は、キーボードインタフェースからの操作とは見なさない。なぜならば、この場合、プログラムの操作は、キーボードインタフェースからではなく、そのポインティングデバイス インタフェースからの入力によって行われるからである。

ラベル (label)

テキスト、又はテキストによる代替を伴うコンポーネントで、ウェブコンテンツ内のコンポーネントを識別するために利用者に提示されているもの。

注記 *1:* 名前 (name) は隠されていて支援技術に対してだけ明らかにされる場合がある一方で、ラベルはすべての利用者に提示される。多くの場合 (すべてではないが)、名前 (name) とラベルは同じである。

注記 *2:* ラベルという用語は、HTML における label 要素だけに限定されない。

サイズの大きな (テキスト) (large scale (text))

少なくとも 18 ポイント、又は 14 ポイントの太字。あるいは、中国語、日本語、及び韓国語 (CJK) のフォントは、それと同等の文字サイズ。

注記 *1:* 特別に細い線のフォント、又は文字の形が分かりにくくなるような独特の見た目や特徴のあるフォントは、コントラストが低い場合に特に読みづらい。

注記 *2:* ここでいう文字サイズは、コンテンツが提供される際のサイズであり、利用者によるサイズ変更は含まれない。

注記 *3:* 利用者が目にする文字の実際のサイズは、コンテンツ制作者が指定したサイズと利用者のディスプレイあるいはユーザエージェントの設定の両方に依存している。多くの主流となっている本文テキストで用いられるフォントにおいて、14 ポイントと 18 ポイントは、1.2em と 1.5em、又は、(本文フォントが 100%であると仮定して) デフォルトサイズの 120% と 150% に、おおよそ同等である。しかし、制作者は、使用する特定のフォントについて、このことをチェックしておく必要がある。フォントが相対単位で定義されている時、実際に表示される文字サイズのポイント数は、ユーザエージェントによって計算される。この達成基準について評価する時には、文字サイズのポイント数は、ユーザエージェントから取得されるべきであり、又はユーザエージェントが行うフォントの計算基準に基づいて計算するべきである。ロービジョンの利用者については、自分で適切な設定を選択することを想定している。

注記 *4:* フォントサイズを指定せずにテキストを用いる際は、サイズを指定していないテキストに対して主要ブラウザで用いられる最小のフォントサイズをそのテキストのサイズとみなすのが妥当であろう。もし、レベル 1 の見出しが、主要なブラウザで 14 ポイントの太字あるいはそれ以上のサイズで

レンダリングされるならば、それは「サイズの大きな」テキストであると考えてよい。相対的な拡大縮小は、同様の方法でそのデフォルトのサイズから算出することが可能である。

注記 *5:* 半角の英数字のテキストにおける 18 ポイント及び 14 ポイントのサイズは、拡大印刷の最小サイズ (14 ポイント) と標準的な大きい文字サイズ (18 ポイント) に基づいている。例えば、CJK 言語のようなその他の文字については、「同等な」サイズはその言語での拡大印刷の最小サイズと拡大印刷でその次に大きな標準のサイズとなる。

訳注*:* 日本語の全角文字の場合は、拡大教科書普及推進会議 第一次報告「第 2 章 拡大教科書の標準的な規格について」に基づき、22 ポイント又は 18 ポイントの太字を「同等な」サイズとみなすのが妥当である。

法律行為 (legal commitments)

法的に拘束力のある義務あるいは利益が発生する取引。

事例*:* 結婚許可証、株取引 (金銭上及び法的)、遺言、ローン、採用、軍隊への入隊登録、あらゆる契約、など

リンクの目的 (link purpose)

ハイパーリンクを動作させたときに得られる結果の本質。

ライブ (live)

現実の出来事から取り込まれ、放送遅延以上の遅延なく受け手に送信される情報。

注記 *1:* 放送遅延は、短時間の (通常は自動的な) 遅れで、例えば放送局に放送のタイミングの調整や音声 (又は映像) の検閲のための時間を与えるものだが、意味のある編集ができるほどのものではない。

注記 *2:* もし情報が完全にコンピュータで生成されたものならば、それはライブではない。

前期中等教育レベル (lower secondary education level)

6年間の学校教育卒業の後に始まり、初等教育の開始から9年後に終わる、2年、又は3年の教育期間。

注記*:* この定義は、"International Standard Classification of Education" [UNESCO]に基づいている。

メカニズム (mechanism)

結果を得るためのプロセス又は手法。

注記 *1:* メカニズムは、コンテンツ内で明示的に提供されることもあれば、プラットフォーム又は支援技術を含むユーザエージェントで提供されるものに 依存することもある。

注記 *2:* メカニズムは、宣言する適合レベルのすべての達成基準を満たす必要がある。

メディアによるテキストの代替 (media alternative for text)

テキストで (直接又はテキストによる代替によって) 既に提示されている情報以上のものを提示していないメディア。

注記*:* メディアによるテキストの代替は、テキストを代替する提示の恩恵を受ける人たちのために提供される。テキストの代替メディアになりうるのは、音声しか含まないメディア、映像しか含まない (手話の映像を含む) メディア、又は音声付映像メディアである。

名前 (name)

ソフトウェアが、ウェブコンテンツのコンポーネントを利用者に識別させることができるテキスト。

注記 *1:* ラベルはすべての利用者に提示される一方で、名前 (name) は隠されていて、支援技術に対してだけ明らかにされる場合もある。多くの場合 (すべてではないが)、ラベルと名前 (name) は同じである。

注記 *2:* これは、HTML の name 属性とは関係がない。

順を追ってナビゲート (navigated sequentially)

キーボードインタフェースを用いて (一つの要素から次へ) フォーカスを移動するために、定義された順序でナビゲートすること。

非テキストコンテンツ (non-text content)

プログラムによる解釈が可能な文字の並びではないコンテンツ、又は文字の並びが自然言語においても何をも表現していないコンテンツ。

注記*:* これには、 (文字による図画である) ASCII アート、顔文字、 (文字を置き換える) リートスピーク、文字を表現している画像が含まれる。

規定 (normative)

適合に必須なもの。

注記 *1:* この文書には、様々な明確な方法で適合することができる。

注記 *2:* 「参考情報」又は「規定ではない」とされている内容は、適合のために必須ではない内容である。

全画面表示のウィンドウで (on a full-screen window)

最も普及したサイズのデスクトップやラップトップのディスプレイで、ビューポートを最大化した状態。

注記*:* 利用者は一般的にコンピュータを数年間使い続けるので、評価の際は、最新のデスクトップやラップトップの画面解像度を基準にするのではなく、数年間にわたって普及したデスクトップやラップトップの画面解像度を考慮するのが望ましい。

一時停止 (paused)

利用者の要求により停止し、利用者の要求があるまで再開しない。

収録済 (prerecorded)

ライブではない情報。

提示 (presentation)

利用者が知覚できる形式でコンテンツをレンダリングすること。

初等教育レベル (primary education level)

5～7歳の間に始まる6年間の教育で、その前には教育を受けた期間がない場合もある。

注記*:* この定義は、"International Standard Classification of Education" [UNESCO]に基づいている。

プロセス (process)

ある活動を完了させるために必要な利用者の一連の動作。

事例 *1:* ショッピングサイト上の一連のウェブページで目的を果たすためには、利用者が選択肢となりうる製品、価格及び内容を閲覧した後、製品を選択して注文し、配送先情報及び支払情報を入力する必要がある。

事例 *2:* アカウント登録ページでは、登録フォームにアクセスする前にチューリングテストに成功する必要がある。

プログラムによる解釈 (プログラムによる解釈が可能) (programmatically determined (programmatically determinable))

支援技術を含む様々なユーザエージェントが抽出でき、利用者に様々な感覚モダリティで提示できるような形のデータがコンテンツ制作者によって提供されたとき、そのデータがソフトウェアによって解釈されること。

事例 *1:* マークアップ言語で、一般に入手可能な支援技術が直接アクセスできる要素と属性から解釈される。

事例 *2:* 非マークアップ言語の技術特有のデータ構造から解釈され、一般に入手可能な支援技術がサポートするアクセシビリティ API を通じて支援技術に提供される。

プログラムによる解釈が可能なリンクのコンテキスト (programmatically determined link context)

リンクとの関係性からプログラムによる解釈が可能であり、リンクテキストと結びつけることができ、様々な感覚モダリティで利用者に提示することができる付加的情報。

事例*:* HTMLでは、英語で記述されたリンクからプログラムによる解釈が可能な情報には、そのリンクと同じ段落、リスト、又はテーブルのセルにあるテキスト、あるいはリンクのあるテーブルのセルと関連付けられたテーブルの見出しセルにあるテキストなどがある。

注記*:* スクリーンリーダーは句読点を解釈するので、フォーカスが文中のリンクにある場合は、その文からコンテキストを提供することも可能である。

プログラムによる設定 (programmatically set)

支援技術を含むユーザエージェントがサポートしている手法を用いて、ソフトウェアによって設定されること。

純粋な装飾 (pure decoration)

見栄えのためだけのもので、情報は提供せず、機能性も備えていないもの。

注記*:* テキストが純粋な装飾といえるのは、単語を並べ替え、又は置き換えても意図が変わらないときだけである。

事例*:* 背景にとても淡い文字で単語がランダムに並んでいる辞書の表紙。

リアルタイムのイベント (real-time event)

a) 閲覧と同時に発生し、b) コンテンツによる生成だけでは完結しないイベント。

事例 *1:* ライブパフォーマンスのウェブ放送 (閲覧と同時に発生していて、収録済ではない)。

事例 *2:* 人々が入札するオンラインのオークション (閲覧と同時に発生している)。

事例 *3:* アバターを用いたバーチャルな世界での、生身の人間のやりとり (コンテンツによる生成だけで完結するものではなく、閲覧と同時に発生する)。

関係性 (relationships)

コンテンツの異なる部分間における意味のあるつながり。

相対輝度 (relative luminance)

最も暗い黒を 0 に、最も明るい白を 1 に正規化した色空間内の任意の点の相対的な明るさ。

注記 *1:* sRGB色空間においては、色の相対輝度は、L = 0.2126 * **R** + 0.7152 * **G** + 0.0722 * **B** と定義されており、**R**、**G** 及び **B** は以下のように定義される:

- R_{sRGB} <= 0.03928 の場合**R** = R_{sRGB}/12.92 、そうでない場合 **R** = ((R_{sRGB}+0.055)/1.055) ^ 2.4
- G_{sRGB} <= 0.03928 の場合**G** = G_{sRGB}/12.92 、そうでない場合 **G** = ((G_{sRGB}+0.055)/1.055) ^ 2.4
- B_{sRGB} <= 0.03928 の場合**B** = B_{sRGB}/12.92 、そうでない場合 **B** = ((B_{sRGB}+0.055)/1.055) ^ 2.4

そして、R_{sRGB}、G_{sRGB}、及び B_{sRGB} は、次のように定義される:

- R_{sRGB} = R_{8bit}/255
- G_{sRGB} = G_{8bit}/255
- B_{sRGB} = B_{8bit}/255

^ という記号は、指数演算子である (計算式は、[sRGB] 及び [IEC-4WD]を参考にしている)。

注記 *2:* ウェブコンテンツを閲覧するのに今日用いられているほとんどすべてのシステムは、sRGB符号化を前提としている。コンテンツを処理して表示するのに他の色空間が用いられているのでなければ、コンテンツ制作者は sRGB 色空間を用いて計算するべきである。もしその他の色空間を用いるのであれば、Understanding Success Criterion 1.4.3 [日本語訳]を参照。

注記 *3:* 表示時にディザリングが発生する場合は、元の色の値が用いられる。元々ディザリングがかけられている色については、用いられている色の平均値を用いるべきである (R の平均値、G の平均値、及び B の平均値)。

注記 *4:* コントラストと閃光を検証する際に、この計算を自動で行うツールが利用できる。

注記 *5:* MathML version of the relative luminance definitionも参照できる。

依存されている (技術) (relied upon (technologies that are))

その技術が無効になっている場合、又はサポートされていない場合に、コンテンツが適合できないこと。

役割 (role)

ウェブコンテンツに含まれるコンポーネントの機能を、ソフトウェアが識別するために用いることができるテキストや数字。

事例*:* 画像の機能が、ハイパーリンク、コマンドボタン、又はチェックボックスのどれなのかを示している数字。

同じ機能 (same functionality)

使うと同じ結果が得られること。

事例*:* あるウェブページ上にある "search" ボタンと他のウェブページ上にある "find" ボタンは、どちらもキーワードを入力するテキストフィールドがあり、そのウェブサイトにある入力されたキーワードに関係のあるコンテンツをリスト表示する。この場合、同じ機能を有しながらも、ラベルは一貫していないことになる。

相対的に同じ順序 (same relative order)

他の項目との相対位置が同じ。

注記*:* 当初の順序に対して、別の項目が挿入、又は削除されていたとしても、項目は相対的に同じ順序になっていると考えられる。例えば、展開するナビゲーションメニューに詳細な追加階層が挿入される、又は、読みの順序の途中に副次的なナビゲーション部分が挿入されることがある。

達成基準を満たす (satisfies a success criterion)

ページに適用した際、その達成基準が 'false' と判定されないこと。

セクション (section)

一つ以上の関連する話題、又は考えについて書かれたコンテンツの自己完結している部分。

注記*:* セクションは一つ以上の段落から成ることがあり、画像、表、リスト、及びサブセクションを含むこともある。

ウェブページ一式 (set of Web pages)

共通の目的を共有し、同じコンテンツ制作者、グループ、又は組織により制作されたウェブページの集合。

注記*:* 他言語版は、異なるウェブページ一式と見なされることもある。

手話 (sign language)

意味を伝えるために、手と腕の動き、顔の表情又は身振りなどの組み合わせを用いる言語。

手話通訳 (sign language interpretation)

ある言語、通常は発話された言葉を、手話に訳すこと。

注記*:* 手話は、本来、同じ国や地域で話されている言葉とは関係がない独立したものである。

特定の感覚的な体験 (specific sensory experience)

純粋な装飾ではなく、かつ重要な情報の伝達、又は機能の提供を主目的としない感覚的な体験。

事例*:* フルートのソロ演奏、視覚芸術の作品などが例として挙げられる。

構造 (structure)

1. ウェブページ の各部を相互の関係性によりまとめる方法論。及び、
2. 一連のウェブページをまとめる方法論。

補足コンテンツ (supplemental content)

元のコンテンツを説明、又はより明確にするために付加されたコンテンツ。

事例 *1:* ウェブページの音声版。

事例 *2:* 複雑なプロセスを示したイラスト。

事例 *3:* 調査研究でなされた主要な成果及び提言を要約する段落。

同期したメディア (synchronized media)

情報を提示するために、他のフォーマットと同期した音声もしくは映像、又は時間に依存するインタラクティブな構成要素と同期した音声又は映像。ただし、そのメディアが メディアによるテキストの代替であって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされているものは除く。

(ウェブコンテンツ) 技術 (technology (Web content))

ユーザエージェントがどのようにレンダリング、再生、又は実行するかを符号化するメカニズム。

注記 *1:* このガイドラインで用いられている「ウェブ技術」及び (単独で用いられている) 「技術」という用語は、どちらもウェブコンテンツ技術を指す。

注記 *2:* ウェブコンテンツ技術には、マークアップ言語、データ形式、及びプログラム言語などがあり、これらをコンテンツ制作者が単独で、又は組み合わせて用いることによって、静的なウェブページや同期したメディアによる提示、さらには動的なウェブアプリケーションに至るまでの様々なエンドユーザ体験を作ることができる。

事例*:* ウェブコンテンツ技術のよくある事例としては、HTML、CSS、SVG、PNG、PDF、Flash、JavaScript などがある。

テキスト (text)

プログラムによる解釈が可能な文字の並びで、自然言語で何かを表現しているもの。

テキストによる代替 (text alternative)

非テキストコンテンツとプログラムで関連付けられるテキスト、又は非テキストコンテンツとプログラムで関連付けられるテキストから参照されるテキスト。プログラムで関連付けられたテキストとは、その場所を、非テキストコンテンツからプログラムによる解釈が可能なテキストである。

事例*:* チャートの画像があり、その直後の段落にテキストによる説明がある。チャートに対する短いテキストによる代替で後に説明があることを示している。

注記*:* より詳細な情報は、Understanding Text Alternatives [日本語訳] を参照。

一般的ではない、又は限定された用法で使われている (used in an unusual or restricted way)

そのコンテンツを正しく理解するために、どの定義で使われているのかを利用者が正確に知る必要があるような使われ方をしている言葉。

事例*:* "gig" という用語は、音楽コンサートの話の中で使われている場合、コンピュータのハードディスクドライブの容量に関する記事とは違うことを意味するが、適切な定義は文脈から判断できる。それに対して、「テキスト」という言葉は、WCAG 2.0では非常に特定された意味で使われており、その定義が用語集で提供されている。

ユーザエージェント (user agent)

ウェブコンテンツを取得して利用者に提示するあらゆるソフトウェア。

事例*:* ウェブブラウザ、メディアプレーヤ、プラグイン、及びその他のプログラム。その他のプログラムには、ウェブコンテンツの取得、レンダリング、やり取りを支援する支援技術を含む。

利用者が制御可能 (user-controllable)

利用者によってアクセスされることを意図したデータ。

注記*:* これは、インターネットのログや検索エンジンの監視データのようなものは指していない。

事例*:* ユーザアカウントのための氏名と住所のフィールド。

ユーザインタフェース コンポーネント (user interface component)

コンテンツの一部分で、特定の機能を実現するための単一のコントロールとして利用者が知覚するもの。

注記 *1:* 複数のユーザインタフェース コンポーネントが、単一のプログラム要素で実装されることもある。ここでいうコンポーネントは、プログラムの手法と結びついたものではなく、利用者が別々のコントロールとして知覚するものを指す。

注記 *2:* ユーザインタフェース コンポーネントには、フォーム要素、リンクだけでなく、スクリプトで生成されるコンポーネントが含まれる。

事例*:* アプレットには、コンテンツ内を行単位、ページ単位、又はランダムアクセスで移動するために用いられる「コントロール」がある。これらには、いずれも名前 (name) を割り当て、個別に設定できるようにする必要があるため、それぞれが「ユーザインタフェース コンポーネント」となる。

映像 (video)

写真や画像を動かしたり、連続して表示したりする技術。

注記*:* 映像はアニメーション、実写、もしくはその両方で構成され得る。

映像しか含まない (video-only)

映像のみを含んだ、時間に依存する提示 (音声やインタラクションを含まない)。

ビューポート (viewport)

ユーザエージェントがコンテンツを提示するオブジェクト。

注記 *1:* ユーザエージェント は、 一つ以上のビューポートでコンテンツを提示する。ビューポートには、ウィンドウ、フレーム、スピーカー、拡大鏡ソフトなどがある。ビューポートは、他のビューポートを含んでいることがある (例えば、入れ子のフレーム)。プロンプト、メニュー、アラートのように、ユーザエージェントが作成するインタフェース コンポーネントは、ビューポートではない。

注記 *2:* この定義は、User Agent Accessibility Guidelines 1.0: 4. Glossaryをもとにしている。

視覚的なカスタマイズ (visually customized)

フォント、サイズ、色、及び背景を設定できること。

ウェブページ (Web page)

単一の URI から HTTP で得た埋め込まれていないリソースに加え、 レンダリングに使われる、又はユーザエージェントがこのリソースと一緒にレンダリングすることを意図しているその他のあらゆるリソースを合わせたもの。

注記 *1:* どのような「その他のリソース」も主たるリソースと一緒にレンダリングされるであろうが、これらのリソースが同時にレンダリングされるとは限らない。

注記 *2:* このガイドラインの適合範囲に含まれる対象となるウェブページとみなされるためには、リソースが「埋め込まれていない」リソースでなければならない。

事例 *1:* すべての埋め込まれている画像とメディアを含んだウェブリソース。

事例 *2:* Asynchronous JavaScript and XML (AJAX) を用いたウェブメールのプログラム。そのプログラム全体は http://example.com/mail に存在しているが、受信箱、アドレス帳、カレンダーがある。リンクまたはボタンがあり、それを押すと受信箱、アドレス帳やカレンダーを表示するが、ページの URI は全体を通して変わらない。

事例 *3:* カスタマイズ可能なポータルサイトで、利用者が様々なコンテンツモジュールのセットから表示させるコンテンツを選択できるようなもの。

事例 *4:* ブラウザで "http://shopping.example.com/" へ行くと、映画のようなインタラクティブなショッピング環境になる。そこでは、視覚的に店内を移動して、店内の棚から商品をドラッグして、目の前にある視覚的な買物カゴに商品を入れる。商品をクリックすると、同時に仕様書が浮き上がるように表示される。これは 1 ページだけのウェブサイトかもしれないし、 ウェブサイトの中のほんの 1 ページなのかもしれない。

附録 B: 謝辞

この節は、参考情報である。

この文書の発行にあたっては、契約番号 ED05CO0039 の下、米国教育省、米国障害者リハビリテーション研究所 (NIDRR) からのフェデラルファンドによる部分的な資金援助を受けている。この文書の内容は、必ずしも米国教育省の見解又は政策を反映したものではない。又、この文書中での商標、商品、あるいは組織の言及は、米国政府による公認を意味するものでもない。

Web Contents Accessibility Guidelines Working Group (WCAG WG) への参加に関する詳細な情報は、ワーキンググループのホームページを参照。

発行時点でアクティブだった WCAG WG 参加者

- Bruce Bailey (U.S. Access Board)
- Frederick Boland (NIST)
- Ben Caldwell (Trace R&D Center, University of Wisconsin)
- Sofia Celic (W3C Invited Expert)
- Michael Cooper (W3C)
- Roberto Ellero (International Webmasters Association / HTML Writers Guild)
- Bengt Farre (Rigab)
- Loretta Guarino Reid (Google)
- Katie Haritos-Shea
- Andrew Kirkpatrick (Adobe)
- Drew LaHart (IBM)

- Alex Li (SAP AG)
- David MacDonald (E-Ramp Inc.)
- Roberto Scano (International Webmasters Association / HTML Writers Guild)
- Cynthia Shelly (Microsoft)
- Andi Snow-Weaver (IBM)
- Christophe Strobbe (DocArch, K.U.Leuven)
- Gregg Vanderheiden (Trace R&D Center, University of Wisconsin)

過去にアクティブであった WCAG WG 参加者及びその他の WCAG 2.0 への貢献者

Shadi Abou-Zahra, Jim Allan, Jenae Andershonis, Avi Arditti, Aries Arditi, Mike Barta, Sandy Bartell, Kynn Bartlett, Marco Bertoni, Harvey Bingham, Chris Blouch, Paul Bohman, Patrice Bourlon, Judy Brewer, Andy Brown, Dick Brown, Doyle Burnett, Raven Calais, Tomas Caspers, Roberto Castaldo, Sambhavi Chandrashekar, Mike Cherim, Jonathan Chetwynd, Wendy Chisholm, Alan Chuter, David M Clark, Joe Clark, James Coltham, James Craig, Tom Croucher, Nir Dagan, Daniel Dardailler, Geoff Deering, Pete DeVasto, Don Evans, Neal Ewers, Steve Faulkner, Lainey Feingold, Alan J. Flavell, Nikolaos Floratos, Kentarou Fukuda, Miguel Garcia, P.J. Gardner, Greg Gay, Becky Gibson, Al Gilman, Kerstin Goldsmith, Michael Grade, Jon Gunderson, Emmanuelle Gutiérrez y Restrepo, Brian Hardy, Eric Hansen, Sean Hayes, Shawn Henry, Hans Hillen, Donovan Hipke, Bjoern Hoehrmann, Chris Hofstader, Yvette Hoitink, Carlos Iglesias, Ian Jacobs, Phill Jenkins, Jyotsna Kaki, Leonard R. Kasday, Kazuhito Kidachi, Ken Kipness, Marja-Riitta Koivunen, Preety Kumar, Gez Lemon, Chuck Letourneau, Scott Luebking, Tim Lacy, Jim Ley, William Loughborough, Greg Lowney, Luca Mascaro, Liam McGee, Jens Meiert, Niqui Merret, Alessandro Miele, Mathew J Mirabella, Charles McCathieNevile , Matt May, Marti McCuller, Sorcha Moore, Charles F. Munat, Robert Neff, Bruno von Niman, Tim Noonan, Sebastiano Nutarelli, Graham Oliver, Sean B. Palmer, Sailesh Panchang, Nigel Peck, Anne Pemberton, David Poehlman, Adam Victor Reed, Bob Regan, Chris Ridpath, Lee Roberts, Gregory J. Rosmaita, Matthew Ross, Sharron Rush, Gian Sampson-Wild, Joel Sanda, Gordon Schantz, Lisa Seeman, John Slatin, Becky Smith, Jared Smith, Neil Soiffer, Jeanne Spellman, Mike Squillace, Michael Stenitzer, Jim Thatcher, Terry Thompson, Justin Thorp, Makoto Ueki, Eric Velleman, Dena Wainwright, Paul Walsch, Takayuki Watanabe, Jason White.

附録 C: 参考文献

この節は、参考情報である。

CAPTCHA

The CAPTCHA Project, Carnegie Mellon University. このプロジェクトは、http://www.captcha.netで公開されている。

HARDING-BINNIE

Harding G. F. A. and Binnie, C.D., Independent Analysis of the ITC Photosensitive Epilepsy Calibration Test Tape. 2002.

IEC-4WD

IEC/4WD 61966-2-1: Colour Measurement and Management in Multimedia Systems and Equipment - Part 2.1: Default Colour Space - sRGB. May 5, 1998.

sRGB

"A Standard Default Color Space for the Internet - sRGB," M. Stokes, M. Anderson, S. Chandrasekar, R. Motta, eds., Version 1.10, November 5, 1996. この文献は、http://www.w3.org/Graphics/Color/sRGB.htmlから入手できる。

UNESCO

International Standard Classification of Education, 1997. この規格は、http://www.unesco.org/education/information/nfsunesco/doc/isced_1997.htmから入手できる。

WCAG10

Web Content Accessibility Guidelines 1.0, G. Vanderheiden, W. Chisholm, I. Jacobs, Editors, W3C Recommendation, 5 May 1999, http://www.w3.org/TR/1999/WAI-WEBCONTENT-19990505/. WCAG 1.0の最新版は、http://www.w3.org/TR/WAI-WEBCONTENT/から入手できる。

Ⅵ. 参考資料
2

JIS X 8341-3:2016 達成基準 早見表（レベル A&AA）

WAIC　ウェブアクセシビリティ基盤委員会（ウェブアクセシビリティ基盤委員会 HP: https://waic.jp/resource/jis-x-8341-3-2016/ より引用）

JIS X 8341-3:2016 達成基準 早見表（レベルA & AA）

Web Accessibility Infrastructure Committee
ウェブアクセシビリティ基盤委員会

1 知覚可能

1.1 代替テキスト

1.1.1 非テキストコンテンツ	A

1.2 時間依存メディア

1.2.1 音声だけ及び映像だけ（収録済み）	A
1.2.2 キャプション（収録済み）	A
1.2.3 音声解説又はメディアに対する代替コンテンツ（収録済み）	A
1.2.4 キャプション（ライブ）	AA
1.2.5 音声解説（収録済み）	AA

1.3 適応可能

1.3.1 情報及び関係性	A
1.3.2 意味のある順序	A
1.3.3 感覚的な特徴	A

1.4 判別可能

1.4.1 色の使用	A
1.4.2 音声の制御	非干渉 A
1.4.3 コントラスト（最低限レベル）	AA
1.4.4 テキストのサイズ変更	AA
1.4.5 文字画像	AA

2 操作可能

2.1 キーボード操作可能

2.1.1 キーボード	A
2.1.2 キーボードトラップなし	非干渉 A

2.2 十分な時間

2.2.1 タイミング調整可能	A
2.2.2 一時停止，停止及び非表示	非干渉 A

2.3 発作の防止

2.3.1 3回のせん（閃）光，又はしきい（閾）値以下	非干渉 A

2.4 ナビゲーション可能

2.4.1 ブロックスキップ	A
2.4.2 ページタイトル	A
2.4.3 フォーカス順序	A
2.4.4 リンクの目的（コンテキスト内）	A
2.4.5 複数の手段	AA
2.4.6 見出し及びラベル	AA
2.4.7 フォーカスの可視化	AA

3 理解可能

3.1 読みやすさ

3.1.1 ページの言語	A
3.1.2 一部分の言語	AA

3.2 予測可能

3.2.1 フォーカス時	A
3.2.2 入力時	A
3.2.3 一貫したナビゲーション	AA
3.2.4 一貫した識別性	AA

3.3 入力支援

3.3.1 エラーの特定	A
3.3.2 ラベル又は説明	A
3.3.3 エラー修正の提案	AA
3.3.4 エラー回避（法的，金融及びデータ）	AA

4 堅ろう（牢）（Robust）

4.1 互換性

4.1.1 構文解析	A
4.1.2 名前（name），役割（role）及び値（value）	A

[出典] JIS X 8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針―情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス―第3部：ウェブコンテンツ

ウェブアクセシビリティ基盤委員会（WAIC） https://waic.jp/ 2018年12月版

■ JIS X 8341-3:2016 達成基準 早見表（逆引き・その他）（レベルA & AA）

Web Accessibility Infrastructure Committee
ウェブアクセシビリティ基盤委員会

▼要注意

動画や音声を自動再生しない

動くものに注意を奪われたり，読み上げ音声が聞きづらくなったりすることで，ページ全体の利用を妨げられる利用者がいます。カルーセルを含む動画や音声は自動再生を避け，停止や非表示にする機能を提供しましょう。

1.4.2 音声の制御	非干渉	A
2.2.1 タイミング調整可能		A
2.2.2 一時停止，停止及び非表示	非干渉	A

キーボードによる操作ができる

マウスなしで操作してみましょう。Tabキーでページを巡回でき，スペースキーやEnterキーでリンクやボタンを操作できるか確認しましょう。

2.1.1 キーボード		A
2.1.2 キーボードトラップなし	非干渉	A
2.4.3 フォーカス順序		A
2.4.7 フォーカスの可視化		AA

閃光を避ける

閃光を放つコンテンツは光感受性てんかんを引き起こすことがあります。頻度によっては点滅も閃光と同じ作用があるので注意しましょう。

2.3.1 3回のせん（閃）光 又はしきい（閾）値以下	非干渉	A

▼全体に関わること

サイト全体に関わること

全てのページで一貫したナビゲーションを提供しましょう。各ページのtitle要素には，ページ内容が端的に分かるページタイトルをつけましょう。

2.4.2 ページタイトル	A
2.4.5 複数の手段	AA
3.2.3 一貫したナビゲーション	AA
3.2.4 一貫した識別性	AA

ページ全体に関わること

ページの内容は見出しを使用して構造化しましょう。ページの主要言語や一部で使用する言語を，lang属性に正しく明示しましょう。

1.3.1 情報及び関係性	A
1.3.2 意味のある順序	A
2.4.1 ブロックスキップ	A
2.4.2 ページタイトル	A
2.4.3 フォーカス順序	A
2.4.6 見出し及びラベル	AA
2.4.7 フォーカスの可視化	AA
3.1.1 ページの言語	A
3.1.2 一部分の言語	AA
3.2.1 フォーカス時	A
4.1.1 構文解析	A

▼動画・音声

同等の目的を果たすテキストを提供しましょう。動画および音声の自動再生は避けましょう。また，利用者が停止できる機能を提供しましょう。

音声で情報を提供している

書き起こしテキストを提供しましょう。

1.1.1 非テキストコンテンツ		A
1.2.1 音声だけ及び映像だけ（収録済み）		A
1.4.2 音声の制御	非干渉	A
2.2.1 タイミング調整可能		A
2.2.2 一時停止，停止及び非表示	非干渉	A

音声のない動画がある

書き起こしテキストあるいは代替の音声コンテンツを提供しましょう。

1.1.1 非テキストコンテンツ		A
1.2.1 音声だけ及び映像だけ（収録済み）		A
2.2.1 タイミング調整可能		A
2.2.2 一時停止，停止及び非表示	非干渉	A

音声のある動画がある

書き起こしテキストまたは音声解説，およびキャプションを提供しましょう。

1.1.1 非テキストコンテンツ		A
1.2.2 キャプション（収録済み）		A
1.2.3 音声解説又はメディアに対する代替コンテンツ（収録済み）		A
1.2.5 音声解説（収録済み）		AA
1.4.2 音声の制御	非干渉	A
2.2.1 タイミング調整可能		A
2.2.2 一時停止，停止及び非表示	非干渉	A

ライブの音声を提供している

ライブの音声であることを明示し，できれば内容を文字情報としても提供しましょう。

1.1.1 非テキストコンテンツ		A
1.4.2 音声の制御	非干渉	A

ライブの動画を提供している

ライブの動画であることを明示し，キャプションを提供しましょう。

1.1.1 非テキストコンテンツ		A
1.2.4 キャプション（ライブ）		AA
1.4.2 音声の制御	非干渉	A

▼テキスト

リンクがある

リンク先のページの内容が理解できるリンク文字列にしましょう。文中のリンク文字は下線を付加しましょう。

1.4.1 色の使用	A
2.4.4 リンクの目的（コンテキスト内）	A
2.4.7 フォーカスの可視化	AA
3.2.1 フォーカス時	A
3.2.4 一貫した識別性	AA
4.1.2 名前（name），役割（role）及び値（value）	A

文字がある

文字と背景色とのコントラストを高めて，文字の視認性を確保しましょう。ズームや文字サイズ拡大機能でも，文字が問題なく読めるか確認しましょう。

1.4.3 コントラスト（最低限レベル）	AA
1.4.4 テキストのサイズ変更	AA
2.4.6 見出し及びラベル	AA

▼制限時間

制限時間付きのコンテンツがある

理解や操作に時間のかかる利用者がいます。スクロールや画面切り替えの自動化は避けましょう。

2.2.1 タイミング調整可能	A

▼画像

画像がある

alt属性を使用しましょう。文字を画像にしている場合は，本当に画像にすべきか吟味しましょう。

1.1.1 非テキストコンテンツ	A
1.4.3 コントラスト（最低限レベル）	AA
1.4.5 文字画像	AA

▼感覚的な特徴

色や感覚的な特徴で情報を伝えている

色を含む，形，大きさや方向などの感覚的な特徴のみに依存した区別や説明は，判別できない利用者がいます。テキストでも情報を提供するなど，追加の手がかりを提供しましょう。

1.3.3 感覚的な特徴	A
1.4.1 色の使用	A

▼フォーム

フォームがある

label要素を使用して入力項目に対するラベルをつけましょう。それぞれの項目には何を入力したらいいか分かりやすい説明をつけ，エラーメッセージも理解しやすくしましょう。

1.3.1 情報及び関係性	A
2.2.1 タイミング調整可能	A
2.4.3 フォーカス順序	A
2.4.6 見出し及びラベル	AA
2.4.7 フォーカスの可視化	AA
3.2.1 フォーカス時	A
3.2.2 入力時	A
3.3.1 エラーの特定	A
3.3.2 ラベル又は説明	A
3.3.3 エラー修正の提案	AA
3.3.4 エラー回避（法的，金融及びデータ）	AA
4.1.2 名前（name），役割（role）及び値（value）	A

注：この早見表は，ウェブアクセシビリティ対応作業の代表的な場面を想定したもので，全ての組み合わせを網羅していません。より詳細な情報および最新の情報は，WAICが提供しているコンテンツを読みましょう。

▼非干渉

この達成基準を満たせないコンテンツが一部にでも存在すると，サイト内・ページ内の他の箇所にも干渉してアクセスを妨げる可能性があります。たとえコンテンツが無視して良いものや，代替版が提供されているものであっても，これらの達成基準は必ず満たす必要があります。

▼A, AA, AAA

達成基準が必要不可欠かどうかや，ページの機能を制限するかどうかなどを考慮して定められた3段階の適合レベル。Aは適合の最低レベルであり，AA，AAAの順により高いレベルとなります。なお，AAAの達成基準のすべてを満たすことのできないコンテンツもあるため，サイト全体の一般的な方針としてAAA（本早見表では省略）での適合を要件とすることは推奨されていません。「みんなの公共サイト運用ガイドライン」（総務省，2016年）では，公的機関に求めるレベルをAAとしています。

▼alt属性

（1）alt属性は，画像の代替テキストを提供するために使用します。画像を視覚的に理解できない利用者や，画像の読み込みができない環境で，画像と等価な内容を提供します（検索エンジンにも内容を提供できます）。

（2）文字画像（文字を画像化したもの）のalt属性は，文字と同等の内容にします。

（3）純粋な装飾や整形のために用いる情報のない画像は，支援技術が無視することが可能となるよう，CSSで背景画像にするか，alt属性を空（alt=""）にします。

▼HTML以外のコンテンツ

PDF，Word，ExcelといったHTMLではないコンテンツについてもアクセシビリティ対応が必要です。それぞれのコンテンツに関するガイドラインやベストプラクティスなども参考に，文字情報を取得できるようにするなどの対応を進めてください。

▼アクセシビリティ サポーテッド

ある技術が，ユーザエージェントや支援技術によって実際に利用できるようになっていることを指し，どの技術で実装すると良いのかの判断に用います。WAICのサイトで一例を確認できます。

Ⅵ. 参考資料
3

令和４年度認知症介護研究・研修仙台センター運営費研究事業

「視・聴覚障がいを補償する認知症介護基礎研修ｅラーニングシステムの開発に関する研究」事業概要版「障がいに関わらず全ての人が学べる認知症介護のｅラーニング教材」

令和４年度認知症介護研究・研修仙台センター　運営費研究事業
「視・聴覚障害を補償する認知症介護基礎研修ｅラーニングシステムの開発に関する研究」

障がいに関わらず全ての人が学べる認知症介護のｅラーニング教材

目 的

令和3年度より介護従事者に義務付けられた認知症介護基礎研修の対象者には、何らかの障がいを有する方々も多く含まれており、ｅラーニングの利用環境が未整備であるため円滑な学習を阻害しているのが現状である。ユニバーサルな社会では障害・高齢・人種等の如何によらず全ての人が活躍できる社会の実現が求められており、誰もが自ら学習する機会を公平に整備することが必要である。本事業では、視覚・聴覚障がいを含む全ての人の認知症介護に関する学習機会を整備するためユニバーサルな認知症介護基礎研修ｅラーニングシステムの開発を目的としている。

概 要

主な事業内容

１．ＷＥＢアクセシビリティに関する検証内容の検討（9月～10月）

・総務省によるＷＥＢアクセシビリティ方針および、障がいを補償するＩＣＴツールを活用した教育教材に関する先行事例を参考に、「JIS X 8341-3:2016高齢者・障害者等配慮設計指針－情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス－第3部：ウェブコンテンツ」（以下、JIS X 8341-3）をWEBアクセシビリティ基準とした（図１）。

２．ユニバーサル仕様のｅラーニングシステム開発

＜認知症介護基礎研修ｅラーニングシステムに関する検証(10月～11月)＞

・JIS X 8341-3における61項目の達成基準に準拠し、ｅラーニングシステムのＨＴＭＬ画面、動画ファイル内画面についてアクセシビリティの検証を実施した。

＜検証結果に基づく課題修正に関する検討(11月～2023年2月)＞

・JIS X 8341-3に準拠した検証結果におけるＷＥＢアクセシビリティの課題に対する修正内容の検討をＷＥＢアクセシビリティ技術者、ｅラーニングシステム管理者、事務局にて検討した。

図１　ＷＥＢアクセシビリティ４つの原則

主な結果・成果

１．認知症介護基礎研修ｅラーニングのＷＥＢアクセシビリティ課題

①操作機能や画面に関する課題（総ページ111画面中、40画面を抽出し検証）

＜ＨＴＭＬチェッカーによる機械検証＞

指摘箇所461件中、「ＨＴＭＬ構文分析」220か所（47.7%)「情報及び関係性」が151か所（32.7%）であり、ＨＴＭＬ構文の文法上の齟齬や画面上の表示情報、その構造、それらの情報関連性の課題が多く指摘された。

＜技術者による目視検証＞

指摘箇所116件中、「情報及び関係性」45か所(38.8%)、「非テキストコンテンツ」28か所(24.1%)、「コントラスト」19か所(16.3%)、「文字画像」5か所(4.3%)であり、画面に表示される文字、イラスト、画像の関係性やテキスト画像、コントラスト比の課題が多く指摘された。

②学習用動画に関する課題

指摘箇所108画面、216か所中、「コントラスト」が111か所(51.4%)「音声解説」が57か所(26.3%)、「キャプション」が37か所(17.2%)、「色の使用」が11か所(5.1%)であった。

２．ＷＥＢアクセシビリティ課題への修正内容

①ＨＴＭＬ構文の修正改善→構文修正や文字画像にテキスト情報を組み込み、読み上げソフトで音声認識可能とする
②画面コントラスト比の修正→文字色と背景色のコントラスト比を基準適合レベルAAの4.5：1以上に修正する（色覚障がい対応）
③音声解説の追加→イラスト、写真など文字以外の情報についてテキストを作成し、音声ナレーションを追加する（視覚障がい対応）
④キャプションの追加→画面表示されていない音声情報を全てテキスト化し、文字情報を表示する（聴覚障がい対応）
⑤色の使用の修正→強調文字等を色情報だけでなく下線などの形態情報として修正する（色覚障がい対応）
⑥キーボード操作対応→画面操作に関する機能について、全てキーボードのみで操作可能な仕様とする（視覚・四肢障がい対応）

主な課題

ユニバーサルな学習環境の整備を目的とし、ユーザービリティテストによるインターフェースの検証と修正を継続的に実施し、当事者の方々が円滑に学習可能なｅラーニングシステムの構築と稼働を早期に行う必要がある。

成果物

○事業報告書（Dcnet https://www.dcnet.gr.jp/,研究情報、仙台センター報告書に掲載）

令和４年度認知症介護研究・研修仙台センター　運営費研究事業報告書

視・聴覚障がいを補償する認知症介護基礎研修 eラーニングシステムの開発に関する研究 報告書

令和５年３月

発行所　社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター
〒989-3201 仙台市青葉区国見ヶ丘６丁目149-1
TEL(022)303-7550　FAX(022)303-7570

発行者　認知症介護研究・研修仙台センター
センター長　加藤 伸司

印　刷　株式会社ホクトコーポレーション
〒989-3124 仙台市青葉区上愛子字堀切1-13